

語研資料14

言 語 研 究 II

1992(平成4)年3月

東京外国語大学 語学研究所

ま え が き

語順があるということと、語順を利用するということは全く違ったことです。＜語＞があれば必ず語順があります。人が語を用いるならそこには必ず語順が生じています。それは人がいれば影があり、人がいれば必ず、ある場所を塞ぐようなものです。人がいれば影をおとしたり場所を塞いだりすることを我々は知っていますが、そのことを余り利用しようとはしないものです。同じように言語が＜要素＞を使えば必ず要素には位置、出現の順がありますが、言語はその事実を何らかの用途のためにそれほど活用はしていないものです。しかしまた、思いがけないところで要素の＜位置＞は目印としてうまく使われてもいます。統辞論、形態論、文体論、意味論のあちらこちらで要素の＜位置＞＜語順＞はもう一度、役にたっているのです。我々が文の意味を受け取るときに、知らず知らずのうちに我々は、要素の＜位置＞＜語順＞が我々にもたらしてくれるものを受け取っています。語順は扱いにくく、かなり手強い相手でもあります。

手強い相手と向かい合うとき我々は必ず、理論の必要を感じます。要素の＜位置＞がどういう世界をくりひろげているのか、それを覗くために、我々はまさに理論というものの手を借りざるを得ない。語順は、期せずして、理論と現実というものの重なり合いを垣間見せてくれます。

東京外国語大学「語研」の『言語研究』が出始めてから早くも一年が立ちました。いま2号を送り出し、我々の理論研究の遠い将来を思いみて、改めて我々の責任の重大さを痛感します。

1992. 1. 27
—若い諸君とともに—

渡 瀬 嘉 朗

目 次

文中の要素とその位置	渡瀬 嘉朗	1
------------------	-------------	---

QUELQUES REMARQUES SUR LES POSITIONS RELATIVES DES PRONOMS

ATONES EN FRANÇAIS	敦賀陽一郎	26
ドイツ語の文肢配列規則（語順）	在間 進	42
ロシア語における語順について	中澤 英彦	66
マレーシア語の語順	正保 勇	76
中国語の語順	望月 圭子	98

*

A BAN VOCABULARY

— Preliminary Report —	中川 裕	113
------------------------------	------------	-----

文中の要素とその位置

渡 瀬 嘉 朗

1. 要素の位置と役割

1.1. 文中の要素はしばしばその役割をその要素の文中における<位置>によって示す。古典的な例は *L'homme tue l'ours* 「男は熊を殺す」における *L'homme* (主辞) と *l'ours* (目的辞) であろう。

このように、言語では要素の位置が、その要素の役割との関連でしばしば注目されるところとなる。そのような見地から<位置>の果たす役割を検討して見ると、実は要素の<位置>が引き受ける役割にも様々なものがあることに気付く。たしかに位置には、主辞や目的辞の機能（これは統辞機能である）を区別する場合もある。かと思えば、冠詞や前置詞の場合のように、言語により例えば名詞の前方と決まっているものもある。このような位置は要素についていつも決まっており、選択の余地がないから、ある位置が選ばれて要素に与えられ、その要素にある決まった役割を付与する、という働きをもつことがない。あの位置とこの位置を取り替えて何かを区別するために用いられる位置ではない、といってもよい。決まった語形を満足させなくては冠詞や前置詞であり得ないように、決まった位置を満足させなくては、冠詞や前置詞であり得ない。だからこの位置は、もう統辞論的ではなく、形態論的である。

更に、形態論的に決まった位置をもっている要素（例えば冠詞、前置詞）は、必ず、そこにその要素が置かれることにより、その要素を含む決まったグループの境界（始まり、あるいは終わり）を明確にする。このようにして固定位置をもつ要素は、文を構成するグループの<区切り>を引き受けるのである。この働きにおいても、話者が要素とは別個に位置（統辞的な位置）を選択し、実はその選択を通じて位置の担う情報（主辞情報、目的辞情報）を選択し、その情報を予め選んでおいた要素にかぶせるというのではない。そのようにして選ばれる情報には、そのような位置は縁がない。ここで用いられている位置には、新たに話者の選択が入り込む余地がない。話者が一定の要素を選ぶと、その要素の（形態論的な）実現のために問題の位置も使わ

れなくてはならない。そのことによって初めて、その要素は、必要な形をなし、形態論的に完成し、話者に選ばれたことになる。

1.2. たしかに一見すると、要素の位置は様々な規則に従っている。しかしこの規則には実は二種類のものがある。文を構成する統辞論的規則はその極く一部をなしているに過ぎない。多くは形態論的規則で、冠詞は名詞の前に置かれなくては冠詞ではないといった類の問題が実は記号結合におけるもっぱら外形の問題であるという意味で、これは記号の外形の問題である。ソウシュールという記号の外形の問題であり、少なくともその単純な延長線上の問題である。

2. 位置の自由な要素、そして遊離要素

2.1. 文を構成する統辞論的規則は、要素の位置に関しては極めて限られているのが普通である。現代フランス語の場合、述部の前の位置、後の位置に置かれる名詞要素にかぶせられる位置（選択される位置）だけがその名に値するものであろう (Ex. *L'homme tue l'ours*)。

そのように選択される位置を別とすれば、文中の要素の位置にはもはや二種類しかあり得ない。一つは統辞論的に拘束のない（統辞論的には自由に選べる）位置である (Ex. *Sur la pente, une boule roule*)。もう一つは、二つの限定文句の間に生じる位置の拘束（一方が先行しなくてはならない）である (*Le soir, quand l'air est tranquille, des fumées de quelques maisons*)。ここでは2. で、統辞論的に拘束のない（統辞論的には自由に選べる）位置を扱う。3. では、それに対して、二つあるいは二つ以上の限定文句の間に生じる位置の拘束（どれかが先行しなくてはならない）を扱う。

2.2. 位置の自由な要素

文中のある要素と動詞述部との統辞的な関係は、原則として、その要素が文頭に現れようと、文中に現れようと、また文末に現れようと一定である。統辞論的に見るなら位置の自由な要素が生じ得る秘密はここにある。

例えば次の文における *ce soir* と動詞述部 *viend(r-)* との関係は、一つの核に対して時間的限定文句がもつ関係としては常に一定である：*Ce soir, il viendra chez moi avec son amie / Il viendra ce soir chez moi avec son amie / Il viendra chez moi ce soir avec son amie / Il viendra chez moi avec son amie ce soir*. この例に見られるように多くの要素が、文の中の位置を変えても、そのことによって文中におけるその要素の統辞的

な働きを変えないことが多い。ある要素と文の動詞述部との関係はこのように、純粋に統辞関係の問題としてみる限り、要素の文中での位置とはしばしば無関係である。

このような要素を、統辞的には大きな位置の自由を享受している、と考えておこう。話者は、このように要素が統辞的に大きな位置の自由を享受している場合、その要素を発話のどの位置でも自由に話題にでき、その結果その要素は早い段階でも話題にできるし、あるいはずっと遅くなってからでも話題にできる訳であるから、それに応じて微分的な差をもった文が文体的にはできあがることになる。

上の文についていえば、統辞論的にみた全体の情報は常に一定である。異なるのはそれぞれ四つの要素が、四つの位置の中のどの位置を排他的に専有するかという選択の問題に限られる。どの程度早くその話題をもち出すかという点をめぐってのみ、微妙な意味の差が争われることになるのである。

勿論、このような意味の差が意味の差である限り、意味の差の争いには、まず、一面で積極的な意義があると考えなくてはならない。が、文中のある要素について有利な位置を考えることは、残りの要素が不利になる事態を、敢えて甘受することでもある。次に示すのは il viendra, ce soir, chez moi, avec son amie の4つの要素について<可能な>位置を示したものである。ただしその総ての可能性を試すと、その中には、上で述べた様な意味で、ある要素がとりわけ不利になる場合が生じることになる。

以下に24の可能性を総て試して見ることにするが、終わりの12例は恐らく、それ程しばしばお目にかかることのない形であるといつてよい。

éléments	4 positions respectives :			
	(1)	(2)	(3)	(4)
il viendra	•	•	•	•
ce soir	•	•	•	•
chez moi	•	•	•	•
avec son amie	•	•	•	•

Il viendra	ce soir	chez moi	avec son amie.
Il viendra	ce soir	avec son amie	chez moi.
Il viendra	chez moi	ce soir	avec son amie.
Il viendra	chez moi	avec son amie	ce soir.
Il viendra	avec son amie	ce soir	chez moi.
Il viendra	avec son amie	chez moi	ce soir.

Ce soir	il viendra	chez moi	avec son amie.
Ce soir	il viendra	avec son amie	chez moi.

Chez moi	il viendra	ce soir	avec son amie.
Chez moi	il viendra	avec son amie	ce soir.
Avec son amie	il viendra	ce soir	chez moi.
Avec son amie	il viendra	chez moi	ce soir.

Ce soir	chez moi	il viendra	avec son amie.
Ce soir	avec son amie	il viendra	chez moi.
Chez moi	ce soir	il viendra	avec son amie.
Chez moi	avec son amie	il viendra	ce soir.
Avec son amie	ce soir	il viendra	chez moi.
Avec son amie	chez moi	il viendra	ce soir.

Ce soir	chez moi	avec son amie	il viendra.
Ce soir	avec son amie	chez moi	il viendra.
Chez moi	ce soir	avec son amie	il viendra.
Chez moi	avec son amie	ce soir	il viendra.
Avec son amie	ce soir	chez moi	il viendra.
Avec son amie	chez moi	ce soir	il viendra.

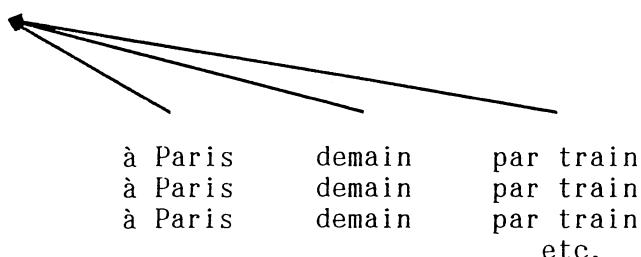
同様に、たとえば *Il va à Paris demain par train* という文の中の *à Paris* の位置はかなり自由であり、他の要素との統辞関係を変えずに (1) *il va* (2) *demain* (3) *par train* (4) の四つの位置に置くことができる。そのことは、他の二つの要素 *demain*, *par train* についても言える。つまり *demain* については、(1) *il va* (2) *à Paris* (3) *par train* (4) の四つの可能性があり、*par train* についても (1) *il va* (2) *à Paris* (3) *demain* (4) の四つの可能性がある。

2.3. では、この＜自由＞はどこから来ると考えたらよいのだろうか。

文要素の順位を考えると、忘れてはならないことは次の一点であろう。つまり当然のことであるが、文の述部と直接つながっている様々な要素は、それ自身多かれ少なかれ文の＜述部との関係を代表する＞ものである。例えば *Il va à Paris* の *à Paris* は単なる *à Paris* ではなく、この文の中では *va* に支えられる要素であり、*va* との関係を抜きにしては考えられない。だからこの文の中でのこの要素の動きを考えるには、*va* に支えられ、述部からの直接の関係をあらわす、一つの末端としての *à Paris* を考えなくてはならない。他の *demain*, *par train* についても全く同じである。

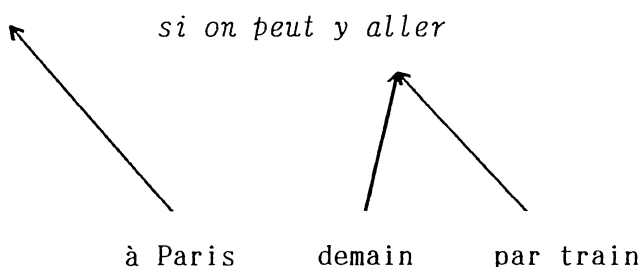
だから *à Paris* や *demain* や *par train* が同じ文の中で位置の自由を持っているということは、これらの要素が上で見た四つの位置の何処に置かれても＜*va*からの直接の統辞関係をあらわし、一つの末端としての働きを維持している＞ということに他ならない。

Il va



逆にいえばこれらの要素が＜位置の自由を失う＞場合というのは、それらがある位置で＜vaからの直接の統辞関係の、一つの末端としての働きを維持できなくなる＞ということに他ならない。つまり何らかの別の要素によってvaからの直接の統辞関係を断ち切られ、あるいは攪乱されているということになる。vaからの直接の統辞関係を断ち切る、あるいは攪乱する別の要素とは、たとえば次のようなもの（イリツクでめす）である：

Il va



ex. Il va à Paris si on peut y aller demain par train.

ただし、この文が示すように一つの文の中に複数の述部が含まれていたとしても、その中の一つの述部から発する直接の統辞関係の末端（point d'incidence）としての働きをある要素が維持出来るか出来ないかは、様々な条件により支配されて決まることになる^{*)}：

Il va à Paris demain par train // si on peut y aller.
 （空間的、時間的に一つの述部のまわりに纏められている）

cf. Il va à Paris // si on peut y aller demain par train.

Il va à Paris demain s'il a le temps par train.
 （関係を分割して挿入されたもう一つの述部【イリツクでめす】と、残りの要素がつながりにくい）

cf. Il va à Paris par train //s' il a le temps demain.

*) 先ほど示した例 : *Sur la pente*, une boule roule 「傾斜の上では球はころがる」における *sur la pente* と述部 *rouler* の関係も、*sur la pente* の置かれる位置に関係なく維持されるが、しかし *sur la pente* と隣接する要素がこの関係を攪乱し断ち切る危険もある :

Une boule, sur la pente, roule.

がそれで、ここでは *sur la pente* の前後にポーズ（音声言語では旋律曲線のギャップで示される）が必要である。それがなければ（*Une boule sur la pente roule* 「傾斜の上の球が転がる」）、*sur la pente* は *une boule* に係留されることになる。

2.4. 遊離要素

その他、 — 形式の上からは必ずしも明確になし得ないことが多いが、 — 限定要素の中には、内容から見て、以上で見てきたような、単純に述部に従属して事態の実現に関する状況を指示するものの他、それ自身、前後にくポーズ（休止）による拡大>を含み、一つの独立した言表に当たるものもある。例えば次のような、しばしば文全体を限定すると説明される限定文句（イタリック でめす）を見てみよう :

Il vient, heureusement. 「さいわいなことに、彼はやってくる」

ここで<ポーズ（休止）による拡大>と言われているものは、外形としてはポーズ（音声言語では旋律曲線のギャップによってあらわされる）しか持たない。しかしその内容からいえば、この限定文句は、ほぼ、同格表現に当たる。本来の、述部に対する限定文句としての働きがやや失われ、述部に対する従属性は完全には失われてはいないが同時に、述部に並立する、独立した表現としての働きも持ち始めている。述部に対する従属性を失わずに、同時に並立性も持ち始める、という点で、この表現は極めて同格表現に酷似したものとなる。それは内容における一つの<拡大>であって、外形における旋律曲線のギャップが、内容における述部からの見せ掛けの独立性に対応しているのである。この<拡大>の意味を更に問うならば、旋律曲線のギャップによって述部からの部分的独立性が描かれ始めると同時に、内容の中には、たとえば一つの従属接続詞の中に生じるようなつなぎの働きが生じ始める。それがこの要素に芽生え始めた独立性の担保であるといつてよい。ここに見られる *heureusement* に話を限るなら、この *heureusement* は事態そのものの実現の<様態>（「彼が幸せそうにやってくる」）ではなく、一つの事態

が、（見る人にとって）幸せな意味をもつ＜事態として＞生じていることを示す。

この *heureusement* が＜ほぼ、同格表現に当る＞ということは、次のような例を通じて確かめることができよう。まず例文(1)では、*heureusement* と、通常の述部に係留される限定文句との差をみることは形の上では困難である。だが例文(2)を見ると、＜幸いな事態＞と捉えられているのは、彼が「やって来る」ことそのものではなく、彼が「最初に」やって来ることである。更に例文(3)では、彼が「いつも最初に」やって来ること、あるいは、「今朝、最初に」やって来ることである。ことばを換えて言えば、ここでは *heureusement* は決して述部だけに係留されている訳ではない。述部に係留されながらも、同時にまた、「最初に」とか、「いつも最初に」とか、「今朝、最初に」とかいう、他の限定文句とも関係をもっている。いわば述部という根源的な部分にだけでなく、「最初に」「いつも最初に」「今朝、最初に」といった限定の末端の部分にも関係をもっている。このことから言えることは *heureusement* の係留点 (*point d'incidence*) が多様化しているということであり、そのことは即ち、*heureusement* と係留点が点と点の関係ではなく、面と面の関係、つまり一つの節と、それに対する＜同格の節＞との関係に近くなったということであろう。

確かにこの *heureusement* の限定関係を見ると、それが限定するのは (1) のように単なる述部（あるいは主部＋述部）である場合もあり、また (2)(3) のように、述部に様々な要素の加わった複雑な言表である場合もある。共通していえることは、いずれにせよこの *heureusement* はとりわけその内容から見て、事態の生じ方に内属する特性、事態の特性にかかわる、単なる限定文句の枠に収まることは出来ないということであろう：

(1) *Il vient, heureusement.*

(2) *Il vient le premier, heureusement.*

(3) *Il vient toujours (ou ce matin) le premier, heureusement.*

すなわち、この *heureusement* は、ここで見るとそれが限定するものが比較的単純な要素であろうと〔(1) 述部のみ〕、なかろうと〔(2)(3) 述部＋様々な拡大部分〕、それ自身＜一つのポーズ（休止）による拡大＞を含み、その内容は一つの独立した言表、あるいは節に相当する。いいかえれば *heureusement* は、形式としては一つの *syntagme (heureuse + ment)* に過ぎないが、内容からいえば一つの *proposition* に当る。このように、いわば *syntagme propositionnel* に相当する働きを持たされた *heureusement* は、内容においてはほぼ、＜節＞対＜節＞の関係において主節と対立する。

<節>対<節>の限定関係は、これまで見てきた<項>対<項>の限定関係をもつ限定文句の枠の中にはおさまりきれない。上の3つの文で *heureusement* が、文脈の中のどれか一つに所属することができず、必ず (*.. vient*) *le premier* や、*toujours (le premier)* とも関係をもたなくてはならないことがその間の事情をよく説明してくれる。そのような不特定多数との関係は通常の統辞関係の枠の中には入り切れない。節と節が併置されて、一つがグローバルに他方を限定するというのが、ただ一つこの型の統辞関係を解明することを許す説明方式であろう。主節で述べられた一つの事態が、どうやらく（見る人にとって）幸せな事態として生じている>ことを、このグローバルな表現は述べようとする。主節において様々な要素を参加させながら分析的>に述べられる事態の特徴には、理論的には制限がない。可能性の問題としてはまだ、幾らでも、付け加えられて構わなかった筈である。そして新しく付け加えられる遊離要素が、そのいずれとも何らかのゆるやかな限定関係を持たなくてはならないとしたら、遊離要素と主節の様々な要素のあいだには、このようなグローバルで間接的な関係しか結べない道理ではなからうか。

2.5. このようにグローバルで間接的な関係が、ある種の条件のもとで通常の限定関係の変形として成立するとすると、少なくともそれに応じうる内容を限定関係が一般に、そして潜在的に持っているに違いない。

一例として<様態>を示す限定文句を考えてみよう。様態が、事態に密着してその生じ方を示しているあいだは、通常の限定関係が成立していると見てよいだろう。だが、<見る人>、つまり、話者や観察者の受け取り方を示し始めると、もはや通常の様態の表現とは言えなくなる。そこで通常の様態の表現が、一つの遊離要素に変わったと見ることができる。

それに対して、事態の生じる時間、場所を示す限定文句がここにあるでしょう。そのような限定文句が<見る人にとって>受け取り方についての特別な内容を含むことは一般に稀であるに違いない。次の *ce soir* は<前後にポーズ（休止）による拡大>を含み、ある意味では先に見た *heureusement* と同じであるともいえるが、ただしここでは二つの *ce soir*、つまり *syntagme propositionnel*として働く *ce soir* と通常の *ce soir* は日常的に区別しがたく重なっているといわねばならない：

Ce soir, j'aurai exceptionnellement le loisir de regarder un film à la télé.

「今夜は、例になくテレビでのんびりと映画など見ることができよう

2.6. これまで本来、文（または節）の動詞述部を＜支え＞として文中に現れる限定文句を見てきた。その中には文中の位置に関してかなり自由なものがあるが、遊離要素となる限定文句は、自由な限定文句の最たるものと考えて置くことができる。 *heureusement* のような我々が *syntagme propositionnel* と考えるものも、それがあらわれる最も単純な文脈においては、文（または節）の動詞述部を＜支え＞として文中に現われている。もっとも、そのような最も単純な文脈を支えにして現れていても *heureusement* は単純に動詞述部を限定しているというよりは、動詞述部に併置された、いわば同格の節の如くに働いている (*Il vient, heureusement* または *Heureusement, il vient*)。まして *Il vient toujours le premier, heureusement* のような文脈においては、*heureusement* は *Il vient* を限定しているとも、*toujours* を限定しているとも、*le premier* を限定しているとも言いがたく、*Il vient* のみでなく、*toujours* も、そして *le premier* も、つまり残りの文脈の全部を限定していると言わねばならず、そのためには一層、*Il vient toujours le premier* という節の全体に併置された、いわば同格の節の如くに働いている、と言わざるを得ないだろう。

多くの限定文句が潜在的には遊離要素となる潜在性を保持していると考えられるが、通常の限定文句であるか遊離要素であるかの差が極めて大きいものもあり、殆どその差が認められないものもある。それを決めるのは、それぞれの限定文句の内容であろう。

3. いくつかの限定文句の間に生じる位置の拘束

－限定要素間のゆるやかな限定関係－

3.1. ここでは複数の限定文句の間の位置関係を具体的に或るテキストに則して検証してみたいが、まず手始めにその検討を、最も単純な構文であると考えられる名詞文の例から始めよう。

たとえばここに、等位接続詞 *et* で結ばれた次のような、連続する名詞文の核がある：

église et fumées

この核は当然のこと、必要な冠詞などの限定要素に囲まれて、実際には次のような形で現れている：

*l'église d'un petit village et les fumées de quelques
maisons.*

さて、名詞文の核は一般に、何らかの状況の指示（その文における第一の状況要素）がある時、それに対する一つの答えとして呼び出されることが多い。この文でもそのような一定の状況の指示があって、それに呼応するかたちで以上の名詞文の核は現れる：

*A l'horizon, ... l'église d'un petit village et ...
les fumées de quelques maisons.*

「地平線には... 小さな村の教会が一つ、そして... 何軒かの
家からの煙〔が見える〕。」

つまり、*A l'horizon ...* 「地平線には... 」なる状況の指示に対応するかたちで、ここでは二つの名詞文の核が現れている。ここに見られるような純粹に動詞の欠けた文（文字通りの名詞文*）を見ると、我々がそこに動詞を補って考えたいのは、確かに、これに動詞の選択を加えるならそれで普通の動詞文の文型が完成するという一般的な事実が言語の中にあるからである。それはむしろ、そのような言語の中で育てられた、文に関する形式的な習性とでもいうべきものであろう。その習性を満足させるため多くの言語は、形式上この動詞の選択に当たるものとして様々な名詞文の導き手（*fr. c'est ...; il y a ...*）を考案している。しかしよく見るならこの＜名詞文の導入部分＞が、文を先導し文に形式的な完全性をあたえる全く形式的な内容しか持たないことは明らかである。（このような文の中で主たる情報を持っているのは、このような名詞文の導入部分ではない。）とりわけ、この部分が加わる前に主たる文の内容は出来上がっていると考えてよい。その内容は名詞表現が中心である。名詞表現が、それに対応する事柄をそれが事態として「そこに＜ある＞こと」を印づけるかたちで、一つの＜存在表現＞として機能する。我々がこの名詞表現を＜名詞文の核＞と見なすのは、このような文においてはこの名詞表現が事柄の存在を印づける役割を果たしているからである。

*) Cf. phrase nominale pure (Louis Hjelmslev, "Le verbe et la phrase nominale" 1948).

さて上でみた一行半の文が、ここに現れている名詞文の文としての基本的な枠組みである。ではここで、以上のような名詞文の基本的な枠組みに対して、実際の文では何が、どのように補われているかを見てみよう：

A l'horizon, *pas très distant*, l'église d'un petit village
et, *le soir, quand l'air est tranquille*, les fumées de quel-
ques maisons.

André GIDE, *La porte étroite*, p.13/14

「地平線には、その地平線はさして遠くないのだが、小さな村の
教会が、そして夕方、風のないときには、何軒かの家の煙〔が見
える〕。」

3.2. ここでとりわけ問題になるのが、

le soir, quand l'air est tranquille,...

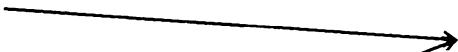
であろう。この二つの限定文句の間の位置関係を、しばらく検討してみるこ
とが必要である。

つづく第二の名詞文の核 *les fumées* 「(数条の) 煙」のためには、既に
文頭で *A l'horizon* 「地平線には」が、その見える場所を示している。だ
がこの煙が夕餉のそれであるとする、時間的にそれが夕方であるというも
う一つの、状況の限定が欲しくなるところであろう。つまりこの煙は、どの
ような状況の中でも、いつでも立ち上っているわけではないのだ。まさに夕
方、食事の準備がなされるころになると決まってこの煙は見られるのだが、
しかし風の激しい日は例外である。そのような日はいくら夕方になっても煙
がゆらゆらと立ち上るのどかな風景は見られない。そのようなかたちで限定
を補うために、*le soir, quand l'air est tranquille* は必要とされている
のである。

さて、ここで *le soir* の隣にに加えられている新しい限定文句 (*quand
l'air est tranquille*) は本来、単なる *le soir* の直接の限定文句ではない。
この *quand l'air est tranquille* は、統辞的には名詞文の核に対して *le
soir* と同じ働きを持つ。つまり二つの名詞文：

- (A) *le soir*, + *les fumées de quelques maisons*
(B) *quand l'air est tranquille*, + *les fumées de quelques maisons*

は全く平行した構造を持つために、名詞文の核を含む右側の部分を軸にして、
二つの名詞文が一つの名詞文に統合されている：

- (A) *le soir*,  + *les fumées de
quelques maisons*
(B) *quand l'air est tranquille*,  + *les fumées de
quelques maisons*

つまり名詞文(B) は名詞文(A) と一部重複しながら、名詞文(A) の内容を精密化する構造になっている、といえ、全体の一つの見取り図が示されたことになろう。そこで問題の、精密化が行われている部分を取り出してみると、それが丁度：

(A) *le soir*, (B) *quand l'air est tranquille*, ...

の部分に当たるという訳である。だから、*le soir* と *quand l'air est tranquille* とは互いに直接関係を持つ要素ではない。ともに、先ずは名詞文の核：*les fumées de quelques maisons* を直接限定する要素である。そして上で述べた二つの名詞文の重複構造の中で初めて (B) *quand l'air est tranquille* は間接的に (A) *le soir* の内容を精密化する役割を引き受けることになる。

その結果として *le soir, quand l'air est tranquille, les fumées de quelques maisons* のような構造は、*le soir* と *quand l'air est tranquille* の間に、一つの結果として生じる以上のような間接的な限定関係ともいうべきものを含むことになる。が、この間接的な限定関係を成立させている限定関係の本体は、実は上で見たような二つの名詞文のつくり出す重複構造であって、この二つの限定文句を結びつけるものはそれ以外のどこを探しても見当たらないのである。

3.3. しかしこの二つの限定文句は、このような順序で(*le soir, quand l'air est tranquille*) 現れることが必要であるように思われる。このような順序で現れて、より一般的な内容の限定文句 *le soir* を、どちらかといえばより特殊な内容をもっているように感じられる *quand l'air est tranquille* が限定することが必要であるように思われる。それは何故か？

まず、ここに生じている位置関係の拘束について考えてみよう。

このような場合、限定文句 (A) *le soir* と (B) *quand l'air est tranquille* とは直接的には名詞文の核と統辞関係をもつ要素であるから、当然、その名詞文の核との統辞関係が攪乱されずに理解できるという条件のもとで、位置の自由を享受するはずである(前述、§2.3.)。

そこで、*le soir* の位置を移動してみよう：

- (a) *quand l'air est tranquille, le soir, ...*
- (b) *quand, le soir, l'air est tranquille, ...*

(c) *le soir*, quand l'air est tranquille, ...

(a) では *le soir* を quand l'air est tranquille の後方に移した。この位置では *le soir* は、次の (b) quand, *le soir*, l'air est tranquille の場合もそうであるが l'air est tranquille に従属する一要素と解釈されるのが普通である ([quand] + [l'air est tranquille *le soir*, ou *le soir* l'air est tranquille])。

(c) では *le soir* は元どりの位置にある。この時、*le soir* が決して l'air est tranquille の文の中に取り込まれることがないのは、要素グループの境界を歴然と示す quand (従属接続詞) が二つの限定文句の間にあって両者を、異なったグループに属するものとして分けているからである。

このように *le soir* を後方に移動させようとして見るとよくわかるが、quand, *le soir*, l'air est tranquille... の場合も quand l'air est tranquille, *le soir*... の場合もともに、かつて主節に係留されていた *le soir* が quand を越えてその後方に移動させられると、たちまち quand の導入する従属節に組み込まれてしまう危険にさらされる。従って *le soir* を主節に係留しておくことを望む限りは、*le soir* はこの位置に放置しておく以外に道がない。それ以外には、この要素を置く場所はないのである。

二つの限定文句を主節に係留しておく積もりなら *le soir*, quand l'air est tranquille はこの順序でしか許されないという、一つの、しかもかなり深刻な理由が、こんな所に見出される。

3.4. では、より一般的な内容の限定文句が先に、より特殊な内容の限定文句が後にという点はどうだろうか。この点については、二つのことがらを分けて考えておく必要がある。

まず、それぞれの限定文句のもっている内容の問題がある。つづいて、位置が担う特性の問題がある。

限定文句のもっているそれぞれの内容の問題は、たとえば Nous nous voyons à Paris, près de la gare de Saint Lazarre, dans un café donnant sur la place 「我々はパリ(で)、サン・ラザール駅の近く(で)、広場に面した一軒のカフェで会う」の、「パリ(で)、サン・ラザール駅の近く(で)」のような場合ははっきりしている。いうまでもなく「パリ」の方が漠然としており、それに較べるなら「サン・ラザール駅の近く」が多少とも限定の度合いがつよい。そしてさらに「広場に面した一軒のカフェ」の方がより正確に場所を限定しているように見えるが、「広場に面した

一軒のカフェ」が正確に場所を限定しているように見えるのはその前提に（その文脈に）「サン・ラザール駅の近く」があるからであろう。その様な前提を抜きに、もし「サン・ラザール駅の近く」と「広場に面した一軒のカフェ」を比較するなら、面積は後者の方が当然狭いだろうが、特定の場所を限定するという意味では「サン・ラザール駅の近く」の方が余程具体的だ。世界中に「広場に面した一軒のカフェ」は五万とあり、それ自体としてはそれは殆ど何の限定も含まないといってよい。

こう見てくると＜限定の度合い＞という概念は文脈に支えられて初めて意味を持つことがわかる。一つの限定文句の＜限定の度合い＞は文脈に支えられて決まってくる。往々にして、文脈に支えられなければ何も決まらない。我々がここで検討している *le soir, quand l'air est tranquille* の場合にしても、*quand l'air est tranquille* によって限定の度合いが進むのは事実だが、それは *quand l'air est tranquille* が絶対的にそれだけの限定度を内蔵しているからではなく、*le soir* との相乗効果によってである。もしもそれぞれを単独に比較するなら、*le soir* と *quand l'air est tranquille* のどちらがより大きな限定度をもっているかは言うことは出来ないだろう。

3.5. 後で見るように＜いくつかの限定文句の間に生じる位置の拘束＞には意味論的な階梯が考えられないこともない。だがそれが意味論的な階梯である限りそこには多くの恣意的な要因が紛れ込む。言語事実として使用者を基本的に拘束する図式をそこに求めようとするのは無謀である。それは一般に妥当とされている内容の上からの順序であり、敢えてこの順序を破ることも当然、許される。興味深いのは、後に続く限定文句が従位接続詞を戴く場合である（*le soir, quand l'air est tranquille, ...*）。この場合、既に見たように、前に位置する限定文句を後ろにまわすことは、多くの場合その限定文句を、統辞論的に後続の節に含める結果を導く（*quand l'air est tranquille, le soir, ...* または *quand, le soir, l'air est tranquille ...*）。もし話者が先行の限定文句を主節に係留しておくことを望む場合は *le soir, quand l'air est tranquille* の順序を守らなくてはならないことになる。それが、この位置に、この順序の限定文句をしばしば発見する隠れた理由の一つになっていることは間違いない。従ってここで限定文句の順序を決めているのは、必ずしも一般的な内容のものを先に、より特殊化された内容のものが後にということよりも、むしろ、単純な構成の限定文句が先に、そして従節の形式をとるものが後に、ということではないだろうか。

確かにそれもあるだろう。しかし一般的な内容のものを先に、より特殊化された内容のものが後にという順序も叙述の順序としては極く自然な順序である。場所を指定するとき *Nous nous verrons à la gare de X, au quai, devant le kiosque ...* 「X 駅 (の)、ホーム (の)、売店の前で会いましょう」の如く極く一般的な話題から挙げ始めてより狭い方へと向かうのは、限定文句が限定文句である限り、つまり未限定のものを限定して狭めていくことが求められているかぎり、極く自然な道筋として出てくることではなからうか。

この場合、当然、文脈に支えられながらより狭い部位へと向かうのであって、文脈の中でも、既に言われた部分、つまり先行の部分が強力な支えとして働くであろうことは想像に難くない。ということは先に言われる部分にはそのような支えが期待出来ないということだから、その部分に *dans un café* とか *devant le kiosque* といった、具体的な文脈なしには却って漠然とした意味しか持ち得ない (狭い部位を示すが一般的な意味しか持ちえない) 要素をもってくることは、それ程、得策ではなからう。従って長い間の言語運用の過程を通じて使用者の習慣の中に、前提なしに理解できるより一般的な目印から始まり、分厚い文脈の支えがあって初めて有効に働く狭い部位の指示へとつながる A, B, C, D, ... のような限定文句の順位の図式が自ずから形成されていても、少しも奇怪しくはない。勿論、使用者は瞬間の決断と思い込みでこの階梯を決定するのだから、この順位は言語使用の度に使用者の思い思いの考えで破られて当然である。

純粋に意味論的な要因で決まるこのような順位が、言語図式の上に決定的な恒常性を生み落とす筈はないのである。

4. 人称代名詞の語順

— 固定語順：現代フランス語<非強勢要素>の場合 —

4.1. よく知られているようにフランス語には、動詞に先行する要素に、*je vous le donne, je le lui donne* のように、その役割 (*sujet, datif, accusatif* あるいは *sujet, accusatif, datif*, など) によって定位置が定まっているもの (イタリアでしめあ) が幾つかある。否定文では *je ne vous le donne pas, je ne le lui donne pas* のように否定の *ne* も加わる。

こういった要素は、平叙文では必ず動詞の前でしか用いられない要素であるから段落強勢 (最終音節の主音に調音努力が集中する) をもつことがない。勿論、全体を見渡してみるとそのような要素も、*accusatif, datif* の役割をもつものは肯定命令文では動詞の後ろにまわり段落強勢を持たされる。ま

た倒置疑問文では *sujet* の役割をもつ要素が動詞の後ろにまわり、しばしば段落強勢を持たされる。だが、平叙文で、これらの要素が規則的に段落強勢の位置から外されてきたという歴史的事実は重い。

一般に非強勢位置に現れる要素を<非強勢要素>と呼んでおくが、非強勢要素の位置に閉じ込められる要素には恒常的に調音努力の集中が欠けるから、統辞的にも語彙的にも過大な役割は引き受けない。

ここで見るフランス語の要素もとりわけ平叙文においては、そのような意味における<非強勢要素>である。

4.2. このことは、これらの要素を通じて<位置>がどのような働きをみせるかを後で考える場合にも、重要な意味をもって来る。<位置>の重さは、当然、どのような要素を通じて<位置>が現れるかにより決まる。それを考えずに<位置>の違いだけを一般化して機械的に論ずるのは、最大の愚であろう。

フランス語の<非強勢要素>が示す<位置>は、<非強勢要素>をめぐる二重、三重に発達してきた使い手の間違い防止のための予防策の一つであり、狭い意味での語形の区別だけでは頼り無いから更に<位置>の制約まで形態論の一部、つまり形の区別の一環として取り込まざるを得なかったわけで、そうならざるを得なかったのも<非強勢要素>には恒常的に調音努力の集中が欠け、その結果<非強勢要素>が一般に統辞的にも語彙的にも過大な役割は引き受け兼ねるからである。

ここでは<非強勢要素>のうち *sujet* の役割をもつ要素や否定の *ne* を除き、*accusatif*, *datif* をあらわす要素の、位置の問題を見る。

<位置>の問題をこのように、とりわけある役割をもった非強勢要素の問題と関連させて見るからには、位置が他のどのような要因と結びついて働くかをそれぞれの場合に分けて考察するのが筋道であろう。

たとえば1、2人称では、同一人称で、つまり双方が1人称、または2人称でありながら、<私>(*accusatif*) が<私>(*datif*) に関係をもたされるというようなことが一般に考えにくい。3人称では同一人称の内部で異なった参加者を扱わねばならない。このように3人称では同一人称の内部で絶えず異なった参加者を扱うから、同一の文の中で3人称の *accusatif* と *datif* が結合することが絶えず起きる。従って1、2人称では *accusatif*, *datif* の役割の区別が必ずしも形の上では必要でないが、3人称ではどうしてもその区別が形の上で必要となる。さもなければ必ず *le(datif)* *le(accusatif)* *donner* 「彼にそれを与える」のような表現が避けられなく

なる。この場合、仮に、極めて強力な<位置>の支援があったとしても、語形の上の頻繁な同形反復があって果たして日常の使用に耐える言語手段を供給できるかどうか、大いに問題となるところであろう。言語の通常の使用感からいえば恐らく *accusatif*, *datif* の役割をかたちで区別する方が楽であるに違いない。*accusatif*, *datif* の役割をかたちで区別しない場合は英語のように、*him(datif) + it*, *her(datif) + it* のような組み合わせを可能にする必要がある。つまりフランス語にはない *neutre (it)* を設けることが必要となる。これが1、2人称と3人称の大きな違いであろう。

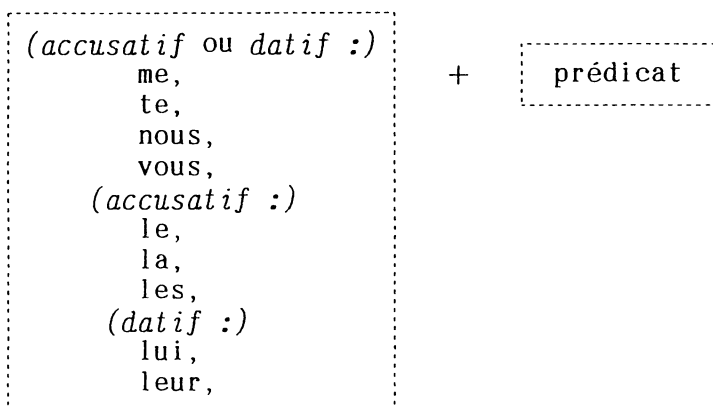
それ故ここでは、ここでいう複式結合の場合、まず1、2人称の要素 (*me*, *te*, *nous*, *vous*) と、それと同一の文の中で結合する3人称の要素 (つまり *le*, *la*, *les*) をとり上げて位置の問題を検討する。

3人称の *lui*, *leur (datif)* は別個に検討すべき問題として扱う。*lui*, *leur (datif)* はフランス語の現実の中ではやや特別な扱いを受けている。それは3人称の要素の中で *le*, *la*, *les* から区別されて生じるものであり、同じく *datif* とはいっても、*me*, *te*, *nous*, *vous* の中に形の上では *accusatif* と区別されずに含まれているものとは同じものとして扱うことはできない。

4.3. 単式結合と複式結合

現代フランス語では述部の前で *accusatif* または *datif* の代名詞の中から一つを選び述部に結合することができる。それを人称代名詞と述部の<単式結合>と呼んで置こう。

(1) 単式結合 (*accusatif* ou *datif*) :

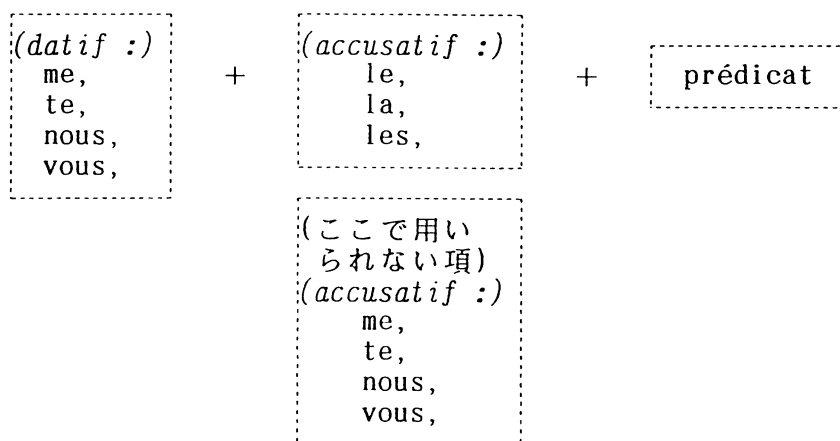


また代名詞の中から *accusatif* として働くもの、*datif* として働くもの、

それぞれ一つずつ、計 2 個を選び、述部に結合することができる。それを人称代名詞（2 個）と述部の＜複式結合＞と呼んで置こう。

(2) 複式結合 (*datif* + *accusatif*):

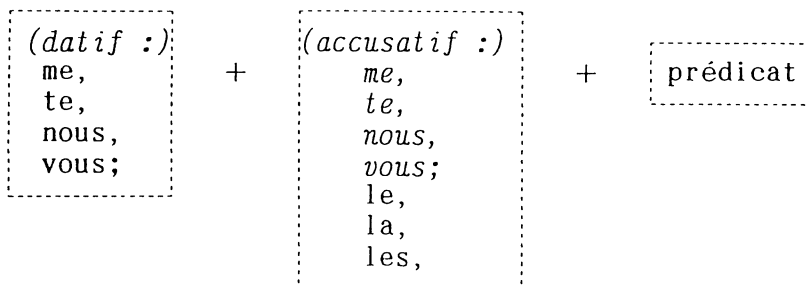
(まず 1, 2 人称の *datif* と 3 人称の *accusatif* の結合を示す。)



4.4. この問題の難しさ

確かにこの体系においては以上見てきたところ、前位置、後位置が、あるやりかたで *datif*, *accusatif* と結びついている。しかしこの結びつきは決して単純な、位置と統辞機能の結びつきではない。位置が、代名詞の統辞的な役割に対して決定的に重要な役割を果たしていることを言うためには、同形の *me*, *te*, *nous*, *vous* (*accusatif*) が後位置にも置かれていて *me*, *te*, *nous*, *vous* (*datif*) と役割の上で対立しているのでなくてはならない（後述）。ここではそのような（好都合な）材料は与えられていない。またこの体系で後位置に現れているものを見ると、それは *le*, *la*, *les* (*accusatif*) であるから、確かに後位置は *accusatif* の要素のために役立っている。しかし *le*, *la*, *les* は本来、形態的に *accusatif* の役割をうけもつ要素である。だからここでも、位置の働きがなくても *le*, *la*, *les* が *accusatif* の働きをもつことには変わりはないであろう。だとすればここで位置が果たしている役割はなんだろうか。どうやら単純な、位置と統辞機能の結びつきではないことはわかるが、そうすると却って問題はとらえにくくなる。以上のような状況が重なってこの問題の解釈をやや難しくしている。

確かにもしここで、前位置が *datif*, 後位置が *accusatif* のような *distinction* の役割を位置が果たしているのなら、当然：



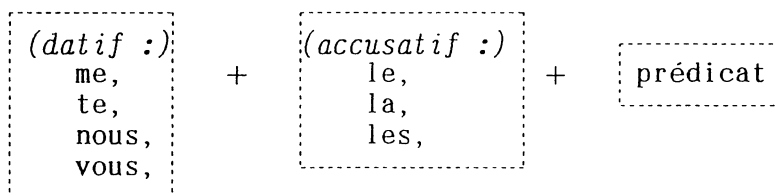
のような一般的組み合わせの図式が可能になっていて良かった筈であろう。
ただし :

Il *nous vous* a confié (*nous* datif + *vous* accusatif)
「彼は我々に(datif) あなたを(accusatif) 託した」

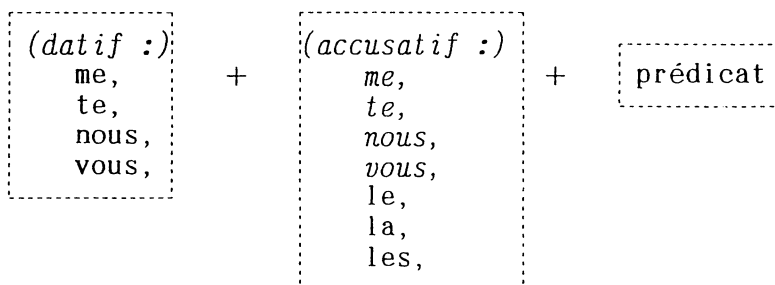
Il *vous nous* a confié (*vous* datif + *nous* accusatif)
「彼はあなたに(datif) 我々を(accusatif) 託した」

のように、位置だけで、同じ語形のdatif や accusatifの働きを区別しようとするのは、可能ではあってもやや、煩わしい(位置にかかる負担が大きすぎる)のではなからうか。いずれにせよ現代フランス語では同形の人称代名詞を用いて位置だけで働きを区別しようとする試み (*vous me*[=accusatif] / *me*[=datif] *vous*, etc.)はなされていない。

それ故、あるいは :



は、

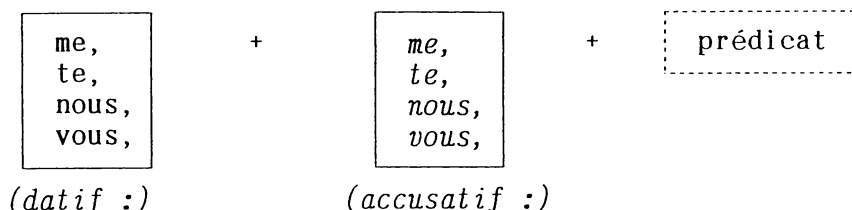


から、何らかの理由で（例えば上で見たように同形の代名詞： me, etc. の働きを位置のみで区別するのは負担が大きすぎる等の理由により）：

(accusatif :)
 me,
 te,
 nous,
 vous,

が使用に不能になったものと見る観方は、それなりに成立するであろう。

4.5. いずれにせよ前位置、後位置が、me, te, nous, vous (*accusatif ou datif*) のようにその働きに関しては両義的な要素に対して、使用者の行う位置の選択で明確な働きを決定できるためには、(1) 複式結合においても、単式結合におけると同じくそのような両義的な要素が自由に使用できることが前提となるし、また、(2) 両義的な要素の一つが選ばれそして位置の一つが選ばれれば、それにより要素の働きの両義性が消えるよう、位置の働きも明確でなければならない。1、2 人称についてそれを図示すれば：



これはフランス語において成立している体系とはまるで、似ても似つかぬ体系である。この体系では上で見た、*nous(datif) vous(accusatif) confier* や、*vous(datif) nous(accusatif) confier* が楽々と使いこなされているのだから、極端な仮定としては3人称において *le(datif) le(accusatif) confier* の様な表現が成立する可能性すらあったかもしれない。勿論3人称における関与的な位置に支えられた同形反復は、理屈の上で話が成立するかどうかというような問題ではなく、既に述べたように (cf. 4.2.) むしろ使用感の問題であろうから、この問題は脇に置いておくとして、このようなことが言えて初めて、関与的な位置が使える体系といえるであろう。

そこにくる要素とは独立して、完全にその位置だけで統辞機能の区別を果たす体系とはそういう体系である。

それに対して、上で見たように、同形の代名詞の働きを位置のみで区別する (*nous datif + vous accusatif* と *vous datif + nous accusatif*) のは紛らわしく、負担が大きすぎる、との理由はそれなりに頷ける。とりわけ、これらの要素が非強勢要素である場合は一層、そうである。我々の日常の行動型には常に二重、三重の、間違い防止のための予防装置が必要である。位置の要素はそれ故、それだけ単独に機能させられるのではなく、形による区別が既になされているときに、それを補強するものとして役立てられる場合はまことに有効な働きを発揮しよう。

おそらくはそのような理由により、非強勢形代名詞＋述部の＜複式結合＞の図式からは、*me, te, nous, vous (datif)* と *le, la, les (accusatif)* を残して *me, te, nous, vous (accusatif)* が脱落することになるのである。

4.6. 3人称 *lui, leur* の場合

me, te, nous, vous は、本来＜単式結合＞では *accusatif, datif* が同形のグループであり、いわば *accusatif, datif* の区別に関して無標 (*non marqué*) のグループである。それが＜複式結合＞では、*datif* の役割に専念するのは、そのことで使用者の側の負担を軽減するためだと考えられる。関与的な位置を用いる努力を避けようとしているのである。勿論そのことにより＜複式結合＞では1、2人称では *accusatif* が使用できず＜単式結合＞に切替えねばならない場合が生ずる^{*)}。幸い1、2人称においては同一の文脈において異なった人物が、同一人称を通じて *accusatif* と *datif* とで現れることはないから、そのような意味で、一つの文の中で *me datif + me accusatif* を連続して使う必要に迫られることはない。(*accusatif* と *datif* の区別がないからといって、*me me*, あるいは *vous vous* のような同形の反復に訴えなくてはならない危険は生じない。) それに対して3人称においては、異なった人物の間で、同一人称が異なった働き (*accusatif* または *datif*) を伴って絶えず現れる。だからもし *accusatif* と *datif* を形態で区別しなかったら必ず、複式結合において前位置、後位置に役割の表示を依存しつつ *le le* (あるいは *le la, la le, le les, les le*) のような同形反復を余儀無くされたり、あるいは単式結合においても同形で3人称の二つの働きを示さなくてはならなかったりするだろう。

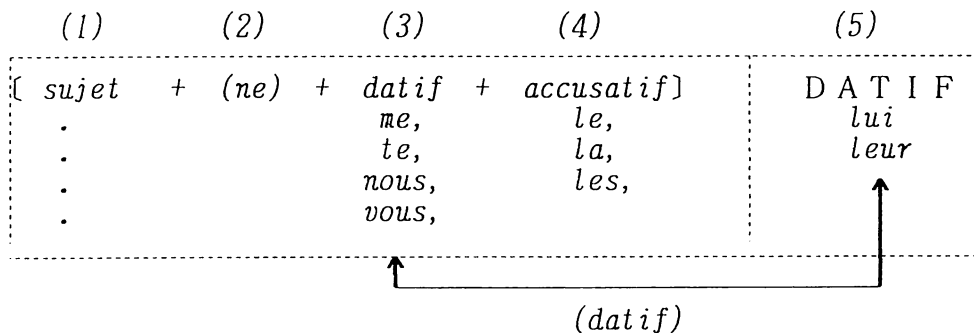
*) *Voulez-vous me présenter à lui?* では *à lui* を非強勢形に変え *me lui* とすることはできない。

このように3人称の代名詞表現では、＜複式結合＞において *accusatif* と *datif* を同一人称の中で区別し分けることが是が非でも必要であるから、

3 人称の代名詞表現は 1、2 人称の代名詞表現の枠には収まりきることができない。位置による区別、つまり *le, la, les (accusatif)* と同形の *le, la, les (datif)* を *me, te, nous, vous (accusatif ou datif)* と同じように立ててそれを位置で区別するという可能性は、先刻フランス語においては、同形の代名詞の働きを位置のみで区別するのは負担が大きすぎるとの理由で消去したばかりである。そうすると 3 人称では、*datif* が *accusatif* とは別の形を持たなくてはならない。

その形は理論的にも当然、*formes marquées* となり、その形（実際には周知のように *lui, leur* という形をとるが）はこの *non marqué* のグループには所属しない。

そこでこの *lui, leur* は *subj. + (ne) + me, te, nous, vous (datif) + le, la, les (accusatif)* の外側、つまり順位でいえば、次の順位に来ることになる。



ここで (3) *me, te, nous, vous (datif)* と (5) *lui, leur (datif)* とは共に *datif* であるから結合することはない。

勿論、この場合だけ *me, te, nous, vous* を *accusatif* に読み替えて *me, te, nous, vous (accusatif) + lui, leur (datif)* という複式結合を認めることは可能であったかもしれないが、それでは、＜複式結合＞においては *me, te, nous, vous* は *datif* であるという＜単純化＞（使用者に対する負担の軽減）を諦めなくてはならないことになったであろう。

実際にはだから、＜複式結合＞においては *me, te, nous, vous* は *datif* であるという単純化（使用者に対する負担の軽減）がすべてに優先したのである。

ここから伝統文法においてお馴染みの：

(1) sujet	+	(2) (ne)	+	(3) datif	+	(4) accusatif	—	(6) prédictat
.		.		me,		le,	—	
.		.		te,		la,	—	
.		.		nous,		les,	—	
.		.		vous,			—	

(1) sujet	+	(2) (ne)	—	(3) accusatif	+	(4) datif	+	(6) prédictat
.		.	—	le,		lui		
.		.	—	la,		leur		
.		.	—	les,				

という図式がでてくることになる。

5. 結論

5.1. 文中に現れる要素は、確かに例外なく、ある順番にあらわれる。どの様な要素もこの、いわば＜宿命的＞とも見える枠組みから逃れることはあり得ないように思える。

だがここでも言語伝達において、この＜宿命的＞な現実が、常に総ての言語要素に対して同様の重みと内容を以て働く、とは到底考えられない。この＜宿命的＞な現実はいわば外形をはめこむ物的な現実であって、その限りではいずれも等しい重さを持ち言語要素を囲んでいるであろう。だが人間が、絶えず、彼を取り囲む物的現実、人間の側から様々な意味あいと様々な重みを（一言でいえば＜価値＞を）与えていることは、誰もがよく知っていることである。

言語伝達においてもそうであって、我々は位置を＜選択＞することで位置に意味を与え（主辞、目的辞の場合）、また一定の要素の周りに、決まったクラスに属する要素を配することでグループの境界を明示する（前置詞、冠詞などの場合）。この二つの場合だけをとり上げて見ても位置が場合によって如何に多様な＜価値＞を帯びるか、見当がつこうというものである。

だから位置という＜宿命的＞とも見える枠組みが、絶えず言語要素を押し包んでいるのは紛れもない事実だが、そこにその枠組みがそれぞれの場合に果たしている役割の相違、いいかえれば＜価値＞の相違を読み取ることこそ大切であるといつてよかろう。それ無しには、我々は位置を物的現実としてのみ見ており、＜位置＞の物理学、生理学をやっているとはいへても＜位置＞の言語学に手をつけているとは、到底いえないであろう。

文中での要素の順番は絶対的な位置ではなく相対的な位置 — どの要素かの前か、後ろか (position respective) — によって意味をもつ。このような位置については、とりわけ<固定順位>あるいは<固定的位置>についてかつて論じたことがあるから*)、そのような<固定順位>あるいは<固定的位置>についてはここでは詳細を繰り返さなかった。また述部の前か後ろかにより統辞的役割を区別する<統辞的な位置> (統辞的に関与的な位置) についてもその時に扱ったので、ここでその詳細を繰り返すことはしなかった。ここではむしろ位置関係が人間の言語伝達にとって如何なる役割を果たすものであるかについて考え、若干の具体的な資料を整理した。

なお、フランス語のいわゆる人称代名詞 (非強勢形) については、話者がその位置を自由に選んで意味を区別する事はないから統辞的に関与的な位置とはいえず、その位置を守らなければ単位の同定に差し支えが生じる訳であるから正に<固定的位置関係>の一つに属するが、この<固定的位置>のもつそのような<性格>については必ずしもいつも明らかではないので、最後に若干の考察を試みた。

*) Y. WATASE, "Mode de signalisation et mode de choix" *La linguistique*, vol.11, 1974.

同、「言語単位の同時選択—信号形式と選択形式」 ふらんぼー 1号、1973; 「言語単位の同時選択—固定順位と démarcation—」 ふらんぼー 2号、1974; 「話者の選択と発話の形成」東京外国語大学 80 周年記念論集 1980

5.2. 文中の要素は一定の許容範囲 latitude の中での<自由>を持つ。ただし、注意しなくてはならないが、ここで<自由>とは、位置が統辞関係に直接かかわってはいない、境界画定機能に直接かかわってはいない、よってそのような機能から自由であるという意味での<自由>である。この<自由>の中で要素は様々な文体的変異を織りなす事ができる。文体的変異の中には、文の解読におけるわかりにくさ、わかりやすさに様々な程度で関与しているものがある。ここでは、このような文体的変異の範囲内で要素が動く範囲、そのような<自由>について、少しばかり考えてみた。それが<位置の自由な要素、そして遊離要素><いくつかの限定文句の間に生じる位置の拘束—限定要素間のゆるやかな限定関係—>で扱ったことである。後者、すなわち<いくつかの限定文句の間に生じる位置の拘束>は既に見たように、一般に妥当とされている内容の上から見た順序であって、敢えてこの順序を破ることも当然、許される。興味深いのは、後に続く限定文句が従位接続詞を戴く場合である (le soir, quand l'air est tranquille, ...)。この場合、前に位置する限定文句を後ろにまわすことは、多くの場合その限定文句

を、統辞論的に後続の節に含める結果を導く (*quand l'air est tranquille, le soir, ...* または *quand, le soir, l'air est tranquille ...*)。もし話者が先行の限定文句を主節に係留しておくことを望む場合は、*le soir, quand l'air est tranquille* の順序を守らなくてはならないことになるだろう。それが、この位置に、この順序の限定文句をしばしば発見する隠れた理由の一つになっていることは間違いない。従ってここで限定文句の順序を決めているのは、必ずしも一般的な内容のものを先に、より特殊化された内容のものが後にということに尽きないのである。この場合のように副詞と従節の組み合わせを考える場合、両者を共に主節に係留しておくことを望むのなら必ず、副詞のような単純な構成の限定文句が先に、そして従節の形式をとるものが後に、ということになる。これが見えないところで我々を支配している法則である。

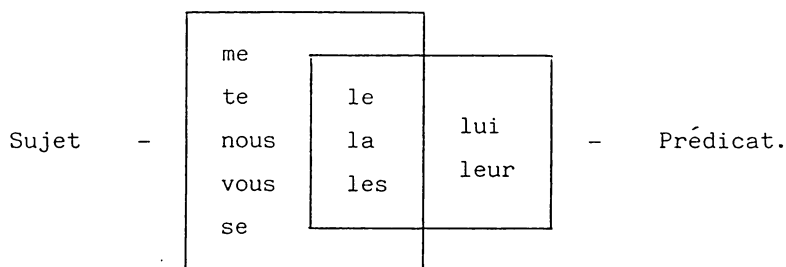
確かに一方では、そういったこともある。しかし他方では言語の秩序が許す範囲で、一般的な内容のものを先に、より特殊化された内容のものが後にという順序も叙述の順序としては極く自然な順序ではなかろうか。場所を指定するとき *Nous nous verrons à la gare de X, au quai, devant le kiosque ...* 「X 駅 (の)、ホーム (の)、売店の前で会いましょう」の如く極く一般的な話題から挙げ始めるのは、限定文句が限定文句である限り、つまり漠とした空間、時間の中で限られた部位を次第に限定していくことが必要である限り自然な流れである。しかしそういった自然な流れは、あくまでも言語の秩序が許す範囲で生ずるものであることを忘れてはならないだろう。

QUELQUES REMARQUES SUR LES POSITIONS RELATIVES DES PRONOMS ATONES EN FRANÇAIS

Yoichiro TSURUGA

1. Introduction

Il y a en français deux séries de pronoms personnels, l'un étant celle de pronoms dits atones je, tu, il, etc., et l'autre, celle de pronoms toniques moi, toi, lui, etc. Les formes toniques, comme le laisse supposer leur autre dénomination de "formes nominales", se distribuent à peu près comme les substantifs ordinaires, et leurs positions relatives dans l'énoncé n'attirent pas d'attention particulière. Par contre, les positions relatives des formes atones sont rigoureusement fixes devant le verbe, et leurs distributions particulières ne peuvent pas ne pas attirer l'attention de ceux qui s'intéressent à l'organisation linéaire du langage. Le schéma suivant, qui est souvent utilisé pour les apprenants débutants du français, montre bien les distributions en question.



Quand une des formes pronominales apparaît tout seule, elle se trouve devant le verbe prédicatif, et cela ne pose aucun problème. Mais quand il y a combinaison d'une forme d'objet direct et de celle d'objet indirect datif, les distributions sont réglées comme ci-dessus. Les formes me, te, nous, vous, se peuvent assumer la fonction d'objet direct ou celle d'objet indirect. Mais quand elles se trouvent avec une autre forme pronominale, elles assument toujours une fonction d'objet indirect, l'autre ayant nécessairement une fonction accusative. Et les formes me, te, nous, ... se placent devant les accusatives le, la, les. Remarquons que la suite me vous, par exemple, avec me

datif et vous accusatif est impossible, bien que les formes me et vous peuvent assumer chacune la fonction accusative et celle de datif. Les formes le, la, les viennent devant lui, leur. Et la combinaison entre me, te, nous, ... et lui, leur est inacceptable.

Le fait est évident, mais il semble qu'aucune explication suffisamment convaincante n'ait été donnée jusqu'ici. Nous nous proposons, dans cet article, de présenter quelques tentatives d'explication fondées sur une conception fonctionnelle hypothétique. Nous jetons d'abord un coup d'œil rapide sur la pertinence positionnelle et sur l'autonomie fonctionnelle de ces pronoms préverbaux. Ensuite nous examinerons l'explication d'E.Benveniste et celle de B.K.Barnes. Et à la fin nous essayerons, en tenant compte des explications de ces deux linguistes, d'avancer quelques remarques sur les distributions en question.

2. La pertinence positionnelle et l'autonomie

La position d'un élément constitutif de l'énoncé est pertinente s'il change de fonction en changeant de position. Deux expansions organisées autour d'un prédicat sont positionnellement pertinentes si elles s'échangent fonctionnellement lorsque s'échangent leurs positions (la fonction sujet et celle d'objet direct en français, par exemple). Remarquons que la fixité des positions en tant que telle ne démontre rien concernant la pertinence positionnelle. Les formes dépendantes positionnelles comme celles des substantifs ont bien sûr tendance à avoir une position pertinente dans l'énoncé. Mais ce n'est pas toujours le cas. En revanche, les formes munies d'un indicateur de fonction (comme les syntagmes avec une préposition) ont tendance à avoir une position non pertinente. Mais ce n'est pas, non plus, toujours le cas.

Les éléments autonomes (adverbes, par exemple) ou autonomisés (syntagmes prépositionnels, par exemple) sont ceux qui ont une combinabilité positive de détermination, c'est-à-dire une capacité positivement manifestée d'être subordonné à autrui. Ceux qui n'ont pas cette combinabilité sont les éléments dits dépendants positionnels. La pertinence positionnelle n'est la caractéristique indispensable ni des dépendants positionnels ni des autonomes. Il en va de même, remarquons-le, pour la non-pertinence positionnelle.

Dans les conditions précisées ci-dessus, peut-on dire que les positions relatives des pronoms en question, qui sont rigoureusement fixes, soient fonctionnellement pertinentes? La réponse sera non. Concernant les positions de le, la, les et de lui, leur, l'échange positionnel n'entraîne jamais d'échange fonctionnel, ceci grâce à leurs formes bien distinctes. Comme

résultats, les suites *lui le, *leur la, etc. sont tout simplement inacceptables et elles ne démontrent rien de fonctionnel. Les formes me, te, nous, ... peuvent assumer la fonction dative ou celle d'accusatif. Si donc ces formes pouvaient aussi appartenir au paradigme de lui, leur, la situation serait intéressante. Mais en fait ce n'est pas le cas. L'échange positionnel des deux séries me, te, nous, ... et le, la, les entraîne simplement des suites inacceptables *le me, *la vous, etc. La pertinence positionnelle de nous, vous est à peine démontrable si l'on tient compte du pronom sujet pronominal: Nous nous écrivons, Vous vous souvenez de cela, etc.

Les positions de ces pronoms, bien que fixes, ne sont donc pas pertinentes. Mais cela ne mène pas à conclure qu'ils sont autonomes ni qu'ils sont dépendants positionnels.

Concernant l'autonomie, il s'agit de savoir s'ils ont une combinabilité positive de détermination. Le problème peut se poser pour les formes nous, vous, lui. En effet, les formes toniques nous, vous, lui, appartenant aux paradigmes des dépendants positionnels indiscutables, sont manifestement dépendantes positionnelles. Ces formes toniques n'ont aucune combinabilité positive de détermination. Il n'en est pas de même pour les formes atones nous, vous, lui. La raison en est que nous, vous appartiennent au paradigme d'objet indirect ou à celui d'objet direct, et que lui appartient au paradigme d'objet indirect. Les trois paradigmes ont manifestement une combinabilité positive de détermination. Par exemple, le paradigme d'objet direct (l'ensemble des formes) a une capacité positivement manifeste d'être subordonné au prédicat, en assumant la fonction d'objet direct. Il faut donc conclure que les pronoms en question ont tous une combinabilité positive de détermination. Ils sont ainsi qualifiables d'autonomes. Il n'y a aucune contradiction entre leur autonomie et leur position fixe ¹⁾.

L'autonomie fonctionnelle et la pertinence positionnelle nous permettent une identification fondamentale des pronoms en question. Ces formes assument des fonctions positivement explicitées et elles sont largement indépendantes des contraintes positionnelles pertinentes malgré leur fixité de position. Mais ces délimitations fonctionnelles fondamentales ne permettent pas de cerner les questions suivantes: pourquoi telle fonction se trouve toujours devant telle autre dans la linéarité malgré les formes distinctes?, pourquoi le facteur de personne intervient-il dans les combinaisons de fonctions?, etc. Dans les positions non préverbales, l'ordre des éléments n'est pas si rigoureux que celui des pronoms en question. Et mises à part les contraintes stylistiques, ce sont fondamentalement les confusions fonctionnelles qui

contrôlent les distributions. Et là la présence et l'absence d'une combinabilité positive de détermination peuvent jouer un rôle assez important.

Le fait que les pronoms n'ont que les distributions indiquées ci-dessus concerne plutôt un aspect de la morphologie syntagmatique. Quand la série me, te, nous, vous, se apparaît avec une autre série, c'est toujours avec la série le, la, les et c'est toujours devant cette série. C'est une description détaillée de la réalisation linéaire des pronoms me, te, nous, ... Toujours concernant l'apparition simultanée des deux séries, si, par exemple, la série me, te, nous, ... changeait de fonction devant et après la série le, la, les, cela concernerait la syntaxe en ce que ce seraient les positions pertinentes qui interviendraient dans ce changement. Mais ce n'est pas le cas. Le problème du pourquoi de ces distributions rigoureuses relève donc plutôt de la morphologie syntagmatique. Mais certains côtés de la morphologie syntagmatique peuvent révéler des tendances de structures syntaxiques fondamentales.

3. L'explication formelle par E.Benveniste

C'est d'abord dans l'article de 1956 que E.Benveniste avance une importante distinction entre les pronoms de première et seconde personnes, d'une part, et de l'autre, ceux de troisième personne. Le pronom je indique "la personne qui énonce la présente instance de discours contenant je " (E.Benveniste, "La nature des pronoms", 1956, 1966, p.252) ²⁾. Et tu indique "l'individu allocuté dans la présente instance de discours contenant l'instance linguistique tu" (*ibid.*, p.253). Les formes comme il, le, etc. "ne servent qu'en qualité de substituts abrégatifs" et "remplacent ou relaient l'un ou l'autre des éléments matériels de l'énoncé" (*ibid.*, p.256). Dans la communication linguistique, il faut au moins deux personnes, celui qui parle et celui qui écoute. Celui qui parle, locuteur, correspond donc à la première personne, et celui qui écoute, interlocuteur, correspond à la seconde personne. Je et tu, donc, "ne peuvent exister comme signes virtuels, ils n'existent qu'en tant qu'ils sont actualisés dans l'instance de discours, où ils marquent par chacune de leurs propres instances le procès d'appropriation par le locuteur" (*ibid.*, p.255). Il n'y a en fait aucun élément matériel de l'énoncé qui soit indiqué par je ou tu.

En observant les nombreuses conjugaisons verbales bien rangées selon les personnes, on est tenté de mettre sur le même plan les trois personnes je, tu, il. Mais, même concernant les conjugaisons, on remarque facilement que la troisième personne n'a pas sa propre forme impérative, par exemple.

La distinction, du moins sémantique, entre je, tu, d'une part, et, de l'autre, il est fondamentale. Et on ne peut pas ne pas remarquer que cette distinction constitue un des facteurs qui permettent d'expliquer les distributions rigoureuses en question.

Et justement dans son second article sur les pronoms, E. Benveniste essaie d'explicitier le pourquoi de ces distributions.

Pour ce qui concerne les formes me, te, nous, vous, se, il n'y a pas de distinction entre la fonction d'objet direct et celle d'objet indirect, tandis qu'il n'y en a pour les formes le, la, les et lui, leur. Benveniste compare les deux séries je me le, tu te le, il se le et je le lui, tu le lui, il le lui (E. Benveniste, "Le pronom et l'antonyme en français moderne", 1965, 1974, pp. 209-210). Et d'après le modèle je me le, tu te le, on attendrait, dit-il, *il le le quand il s'agit d'un pronom non-réflexif. Et c'est justement cette succession de deux formes identiques mais fonctionnellement distinctes qui doit être évitée³⁾. C'est pourquoi on remplace *le objet indirect par lui. Et puisque l'ordre *(il) lui le est interdit, *lui le devient le lui. Et ainsi on a les séries je me le, tu te le, il se le et je le lui, tu le lui, il le lui.

Ci-dessus, le point de départ est la série je me le, tu te le, ... Et la nécessité de la série je le lui, tu le lui, ... est expliquée par le principe d'analogie et celui qui est fonctionnel.

Ensuite, pourquoi les suites *me te, *te nous, etc. (*on me te présente, *on te nous présente) sont-elles interdites? C'est, selon le même linguiste, que les pronoms de première et seconde personnes ne distinguent pas formellement les deux fonctions d'objets direct et indirect. La suite de deux pronoms de troisième personne est acceptée (on le lui présente), vu qu'ils sont formellement distincts (cf. ibid., p. 210). C'est aussi sur le principe fonctionnel qu'est fondée cette explication.

Troisièmement, pourquoi les suites comme *je me lui confie, *je te lui confie, qui ne posent aucun problème du point de vue de la confusion fonctionnelle, sont-elles interdites? C'est, selon toujours le même linguiste, que pronoms me, te, nous, ..., qu'ils soient directs ou indirects, se placent toujours immédiatement après le sujet et que la série me, te, nous, ... suivie d'une autre série de pronoms ne peut assumer que la fonction d'objet indirect. Par conséquent, la suite *je me lui confie contiendrait deux objets indirects successifs. On ne peut pas intervertir l'ordre pour avoir *je lui me confie parce que rien ne peut intervenir entre je et me. Il n'y a évidemment pas ces problèmes concernant la suite je le lui confie (cf.

ibid., pp.210-211).

Le point de départ, ci-dessus, est que la série me, te, nous, ... vient immédiatement après le sujet et que la même série suivie d'une autre série assume seulement la fonction d'objet indirect.

Dans les trois explications données ci-dessus, E.Benveniste constate d'abord les faits distributionnels, et le point de départ de son explication est aussi là. Et en se fondant sur la nature analogique du système et sur le principe bien fonctionnel, il essaie d'expliquer les pourquoi des distributions en question. Son point de vue semble bien synchronique et nous révéler des faits intéressants du microsystème des pronoms préverbaux. Mais malgré tout cela, ce qui est avancé ci-dessus ne nous donne pas l'impression d'une explication suffisamment convaincante.

Un de ses points de départ est la série je me le, tu te le, il se le. Il ne s'intéresse pas à expliquer pourquoi la série me, te, se, vient devant tout autre pronom. Pourtant il semble vouloir bien expliquer pourquoi lui, leur viennent après le, la, les. L'explication fondée sur l'impossibilité de *il le le nous semble très convaincante, d'autant plus qu'elle s'appuie sur le principe d'analogie et sur celui de confusion fonctionnelle. Mais son explication de l'interversion de l'ordre de *il lui le en celui il le lui ne nous paraît pas constituer une explication. Citons le passage.

"(...) En vertu de:

1re je me le ... — tu me le ... — il me le

2e je te le ... — tu te le ... — il te le

on devrait avoir:

3e *je le le ... — *tu le le ... — *il le le

C'est cela que la langue a voulu éviter: la succession de deux formes pronominales identiques portant deux fonctions distinctes, et particulièrement à la 3e personne, où le syntagme *il le le ... aurait inclus, en face de il₁ sujet, deux le objet pour il₂ et il₃ indistinctement. On a donc remplacé *le, objet direct de 3e personne, par lui. Mais alors une autre difficulté surgissait: lui ne précède jamais un autre pronom objet, ce qui rendrait impossible *je lui le ... On a donc interverti les pronoms; l'ordre est devenu je le lui ...; tu le lui ...; il le lui ...
(...)." (ibid., p.210)

Ci-dessus n'a-t-on pas l'impression que Benveniste utilise, pour expliquer le pourquoi de la suite le lui fixe, ce fait même de la fixité distributionnelle? N'a-t-on pas l'impression que ce qui doit être expliqué c'est justement le pourquoi de la suite me le et de celle le lui? Pourquoi l'objet indirect à la première personne précède l'objet à la troisième personne, tandis qu'entre les pronoms de troisième personne, c'est l'objet direct qui

précède l'objet indirect? Si ces deux faits-ci étaient liés par l'impossibilité fonctionnelle de la suite *il le le, l'explication deviendrait très convaincante.

Ensuite l'explication de l'impossibilité des suites *me te, *te nous, etc., bien que fonctionnelle, semble moins convaincante, vu les suites possibles nous nous, vous vous. Il faut rappeler que le cas de la suite *il le le est doublement inacceptable. Si on part du fait, avec Benveniste, que la série me, te, nous, ... vient immédiatement après le sujet, le problème serait plutôt de savoir pourquoi un autre pronom à la première ou seconde personne ne vient pas après. Ou, plus en détail, si l'on part du fait que la série me, te, nous, ... suivie d'un autre pronom assume la fonction d'objet indirect, le problème est de savoir pourquoi l'objet direct à la première ou seconde personne ne vient pas après l'objet indirect des mêmes personnes. Mais, ce qu'il faut rappeler, c'est que le fait même doit être expliqué que la série me, te, nous, ... suivie d'un autre pronom assume la fonction d'objet indirect.

Et enfin, pour expliquer l'impossibilité de la suite *je me lui confie, etc., Benveniste avance le fait que la série me, te, nous, ... suivie d'un autre pronom assume la fonction d'objet indirect. Cela veut dire que, puisque deux objets indirects ne sont pas compatibles, *je me lui confie est inacceptable parce que la suite je me le confie seule est acceptable. Cela ne nous semble pas constituer une explication. C'est presque comme l'explication donnée dans le premier cas, ci-dessus, qui, elle-même, nous paraît presque une tautologie.

Comme on a vu ci-dessus, l'explication avancée par E. Benveniste, bien qu'elle comporte quelques facteurs fonctionnels importants, ne nous semble pas suffisamment convaincante. B.K. Barnes semble répondre plus ou moins directement à ce que nous cherchons.

4. Le "thème" du syntagme verbal par B.K. Barnes

C'est la notion de thème que B.K. Barnes utilise pour expliquer les distributions rigoureuses des pronoms en question. Elle dit:

"We propose that the notion of dative as theme of the VP, along with certain assumptions about first- and second-person pr-forms, offers a reasonable explanation for the constraints (...)." (B.K. Barnes, The Notion of 'Dative' in Linguistic Theory and the Grammar of French, 1979, pp.205-206).

Les pronoms de première et seconde personnes n'ont besoin d'aucun support

anaphorique dans le contexte. Ils représentent celui qui parle et celui qui écoute. Ces pronoms constituent ainsi les éléments qui sont virtuellement les plus thématiques de l'énoncé. En tout cas, ils sont nettement plus thématiques que les pronoms de troisième personne. Alors si le datif est le thème du syntagme verbal et si un pronom de troisième personne mis au datif rencontre un pronom de première ou seconde personne, il peut bien y avoir une contradiction. B.Barnes dit:

"(...) we see that the deviance of these sentences (= *Il me lui a envoyé, etc.) is due to a contradiction in thematicity. The presence of the dative clitic indicates that the IO(=Indirect Object) is the most thematic element of the VP(=Verbal Phrase), and that the DO(=Direct Object) is subordinated to it thematically. However, this subordination is not possible here because the DO is of the first or second person and therefore inherently more thematic than the third-person IO. When the IO is no longer represented as the theme of the VP (i.e., in (14) (= Il m'a envoyé à lui) (...)), the contradiction is eliminated." (*ibid.*, p.206)

Dans le cas comme Il le lui a envoyé, il n'y a aucun problème, car le n'est pas par nature thématique. Pour ce qui concerne le pronom réflexif (par exemple, *Elle se lui présentera), il faudrait reconnaître aussi que se accusatif est thématique. Puisque se se réfère au même élément que le sujet de troisième personne, ce pronom ne serait pas thématique. Mais B.Barnes dit:

"It seems that the simple fact of identity with the subject is sufficient to make the reflexive clitic the theme of the predicate." (*ibid.*, p.208)

Avec la notion du datif comme thème du syntagme verbal et celle des pronoms de première et seconde personnes comme thématiques par nature, il semble en effet qu'on puisse donner une explication plus ou moins directe au pourquoi des distributions en question.

Mais les distributions mentionnées ne sont, en fait, pas littéralement rigoureuses. Et Barnes donne des exemples comme ?Il me lui a fait envoyer le chèque, ?Elle me lui semble infidèle, Je te lui casserai la figure ⁴⁾. Les suites me lui, nous leur, etc. sont, en effet, possibles. Mais à part le cas de datif éthique (Je te lui casserai ...), - car le datif éthique permet même des exemples comme Je te me vous lui donne une claque, à ce type - il faut remarquer qu'il s'agit de deux datifs successifs. B.Barnes dit:

"In (17)-(19) (= ?Il me lui a fait envoyer le chèque, etc.), there is no contradiction since each pro-form represents the theme of a different VP (...)." (ibid., pp.206-207)

Remarquons que dans ?Il me lui a fait envoyer le chèque, la suite de deux datifs pose un problème plus fondamental que celle de deux thèmes du syntagme verbal. Et c'est la possibilité de deux datifs qui doit tout d'abord être expliquée. La suite en question est acceptable parce que les deux datifs se rapportent chacun à leur noyau différent. La possibilité de deux thèmes du syntagme verbal est expliquée de la même manière par B.Barnes.

Mais si la présence de deux noyaux distincts peut expliquer les énoncés donnés ci-dessus, pourquoi un énoncé comme *Il m'amène au médecin pour me lui faire examiner (ibid., p.20) ne peut-il pas être accepté de la même manière?

L'hypothèse de B.Barnes semble plus ou moins expliquer pourquoi les énoncés comme *Il me lui a envoyé ne sont pas acceptables, mais elle ne vise pas à expliquer pourquoi les énoncés comme *Il le m'a envoyé, *Il lui l'a envoyé sont inacceptables. Mais à ce que nous comprenons, l'inacceptabilité de ces énoncés-ci est liée à ce qu'avancent B.Barnes et aussi E.Benveniste.

5. Quelques remarques hypothétiques

Dans la communication linguistique il faut au moins deux personnes. Et sans doute ne peut-on pas trop insister sur la caractéristique primordiale de la présence de deux personnes et du trait "humain", puisqu'il s'agit du langage humain. Et entre ces deux personnes il se peut qu'il y ait le déplacement d'un objet, que ce soit un échange, un offre, etc., que l'objet soit concret ou abstrait. Et supposons maintenant qu'un énoncé décrit la scène d'un déplacement de ce genre: Pierre offre un livre à Marie, J'offre un livre à Marie, etc. Quels liens alors peut-on reconnaître entre ces énoncés-ci et les énoncés contenant des pronoms: Il le lui offre, Je le lui offre, Je te l'offre, etc.?

Avant d'examiner les liens en question, mettons à part les cas où il se trouve des pronoms de première et seconde personnes. Parce qu'entre je, tu, d'une part, et de l'autre, il, il y a une différence fondamentale, comme le dit E.Benveniste, et surtout que je, tu ne correspondent à aucun élément matériel de l'énoncé. Dans le cas où on examine les correspondances entre les deux séries d'ordres d'éléments (ordre des pronoms préverbaux et ordre des éléments non préverbaux), il est bon de mettre à part les énoncés

contenant des pronoms qui ne remplacent aucun élément constitutif de l'énoncé.

Or, en comparant Pierre offre son livre à Marie et Il le lui offre, par exemple, on peut facilement reconnaître que dans les deux énoncés l'objet direct précède l'objet indirect. Si l'on peut supposer avec C. Blanche-Benveniste ⁵⁾ que ce sont plutôt les structures de pronoms qui sont fondamentales, que ce sont plutôt les substantifs qui remplacent les pronoms, et non l'inverse, et donc que les phrases avec des substantifs représentent les structures pronominales lexicalisées, on pourra penser de même pour l'ordre des éléments. Nous supposons donc que le lui de Il le lui offre représente un des ordres fondamentaux des constituants et que l'ordre son livre à Marie reflète justement cet ordre fondamental. Dans les phrases avec des substantifs, l'ordre d'objet direct - objet indirect est bien compréhensible parce que l'objet direct est plus étroitement lié au prédicat que l'objet indirect. L'intervention d'un indicateur de relation réduit nécessairement l'étroitesse du lien entre une expansion et le prédicat. Dans ce sens on peut dire que la fonction d'objet indirect est moins spécifique ⁶⁾ que celle d'objet direct. L'importance de l'objet direct est indiquée, dans le micro-système préverbal, par le fait qu'il précède l'objet indirect, et cette même importance est directement reflétée dans l'ordre postverbal où l'objet direct qui précède a sa position immédiatement après le prédicat. Cette position reflète aussi le lien étroit qu'a l'objet direct lexicalisé avec le prédicat.

Concernant les positions relatives postverbales des deux objets lexicalisés, il faut remarquer qu'elles ne sont pas pertinentes. Et en fait il y a de nombreux énoncés où l'objet indirect précède l'objet direct. Leurs positions relatives ne peuvent pas importer du point de vue de la confusion fonctionnelle. Ce sont plutôt des facteurs stylistiques comme longueur, complexité, etc. qui contrôlent l'ordre effectif des deux objets après le prédicat. Mais quand il n'y a pas de facteurs de ce genre, l'ordre est bien celui d'objet direct - objet indirect. Et effectivement il y a, de loin, beaucoup plus d'énoncés à ordre objet direct - objet indirect que de ceux avec l'ordre interverti.

Bref, nous supposons que l'ordre objet direct - objet indirect est un ordre fondamental en français. Et l'ordre des pronoms le lui représente donc cet ordre fondamental. Et là il faut bien remarquer que les pronoms sont tous deux à la troisième personne. Il n'y a que l'ordre d'importance fonctionnel que représente la suite le lui. Fondé sur cette supposition, nous pouvons

dire qu'il n'y a aucun facteur qui nous permette de reconnaître la suite *lui le.

Deuxièmement, nous supposons que la construction: "Sujet - Prédicat - Objet direct - Objet indirect (datif)" peut fondamentalement représenter le déplacement d'un objet entre deux personnes, avec "déplacement" et "objet" au sens le plus large du terme et avec "personne" au sens le plus primordial du terme. Dans cette perspective, si nous nous exprimons, sans craindre les malentendus, on peut dire que les fonctions sujet et objet indirect assument les rôles essentiellement plus "humains", plus "saillants" que la fonction objet direct. On peut même dire que la fonction objet direct a comme effet d'"objectiver", de "déshumaniser" les éléments qui assument cette fonction, qu'ils soient "humains" ou non. En revanche, les deux fonctions sujet et objet indirect ont comme effet d'"humaniser", de "désobjectiver" les éléments qui assument ces fonctions, qu'ils soient des "objets" ou non.

En comparant les trois fonctions en question, on pourra établir la hiérarchie suivante des degrés de traits "humains" ou "saillants".

a. (1) Sujet (2) Objet indirect (datif) (3) Objet direct

A ce qui est proposé ci-dessus, il faut ajouter la hiérarchie des degrés de mêmes traits selon les trois personnes. Comme indiqué déjà ci-dessus, la troisième personne indique toutes sortes d'éléments sauf le locuteur et l'interlocuteur représentés par les première et seconde personnes. On peut dire dans ce sens que tous ceux qui sont à la troisième personne sont plus ou moins "objectivés". Par contre, les première et seconde personnes sont par nature complètement "humains". On peut alors établir une autre hiérarchie.

b. (1) Première personne (2) Seconde personne (3) Troisième personne

Même s'il y a une différence de degré de traits "humains" ou "saillants" entre b.(1) et b.(2), il est évident qu'elle est presque négligeable, comparée avec la rupture entre b.(2) et b.(3).

Avec les deux hiérarchies a. et b-1, on pourra tenter d'expliquer les autres ordres possibles ou impossibles que les suites le lui et *lui le qui sont déjà expliquées ci-dessus.

D'abord, me le de Il me le donne. Cet ordre s'oppose à l'ordre à l'ordre fondamental qui commande que l'objet direct précède l'objet indirect. Mais

il y a ici l'intervention du facteur de la première personne. Compte tenu du paradigme de me (c'est-à-dire, me, te, nous, vous, se), il faut dire que l'importance de la hiérarchie b-1. dépasse celle de l'ordre fondamental. Autrement dit, le facteur de personnes importe plus que le facteur fonctionnel (bien que, rappelons-le, il ne s'agisse pas du facteur fonctionnel directement pertinent). Concernant se qui précède le, il faut reconnaître l'influence de la fonction sujet particulièrement "saillante", se se référant au même élément que le sujet. En termes de B.Barnes, on peut dire que les première et seconde personnes qui sont fondamentalement "thématiques" sont rendus doublement "thématiques" par la mise à la fonction dative. Les éléments doublement "thématiques" peuvent et doivent précéder l'objet direct, malgré l'ordre fondamental. De la même manière, inversement, la suite *le me sera difficilement acceptable.

Ensuite, *me lui de *Il me lui envoie. Et aussi *lui me de *Il lui m'envoie. L'impossibilité de *lui me est explicable par la même raison que dans le cas précédent. En aucun cas, la troisième personne ne peut, qu'elle assume la fonction objet direct ou celle d'objet indirect, précéder les première et seconde personnes qui ont la fonction accusative ou celle de datif. Ou plutôt il faut dire que l'ordre standard est celui d'objet direct - objet indirect et que c'est le facteur de première ou seconde personne qui fait précéder la fonction accusative à la fonction dative.

Quant à la suite *me lui, la première personne précède la troisième et, en plus, l'objet direct précède l'indirect. Cet ordre satisfait donc aux conditions qu'imposent la hiérarchie b-1 et l'ordre fondamental. Mais la suite est inacceptable. Comment alors peut-elle être expliquée? C'est l'équilibre entre les deux facteurs (personnes et fonctions) qui semble être en question. Dans *me lui, "me" serait "objectivé" dans la mesure où il assumerait la fonction d'objet direct et "lui", assumant la fonction d'objet indirect datif, est justement "humanisé". Selon la hiérarchie des degrés de traits "humains" ou "saillants", ce qui doit être supérieur est baissé (me) et ce qui doit être inférieur est élevé (lui). C'est justement la combinaison contradictoire de ces deux faits qui rend, pensons-nous, inacceptable la suite *me lui. Dans le cas de me le, ce qui doit être supérieur est élevé, ce qui doit être inférieur est baissé, et il n'y a aucun problème de ce genre.

Enfin, l'impossibilité de la suite *vous nous, *nous vous de *Il vous nous présente, *Il nous vous présente. Il y a deux interprétations possibles:
1. objet indirect - objet direct, 2. objet direct - objet indirect.

Dans le cas où le premier pronom assume la fonction d'objet indirect et le second, celle d'objet direct, l'impossibilité sera expliquée par la même raison que dans le cas de *lui le. Quand le facteur de personne ne fonctionne pas, c'est le facteur fonctionnel qui est décisif. Du point de vue des traits "saillants", il n'y a pas de différence importante entre première et seconde personnes (nous et vous). L'ordre doit donc être celui, standard, d'objet direct - objet indirect. Mais alors, quand le premier pronom assume la fonction d'objet direct et le second, l'objet indirect, comment l'impossibilité peut-elle être expliquée? Elle peut être expliquée presque par la même raison que dans le cas de *le me. Dans *Il vous nous présente, "vous", mis à l'accusatif, est "déshumanisé" et "objectivé", tandis que "nous" qui est "humain" est rendu encore plus "humain" par la mise au datif. Ce qui fait exception à l'ordre standard d'objet direct - objet indirect et qui fait précéder la série le, la, les à la série me, te, nous, vous, se, c'est le caractère doublement "humain" et "saillant" de la seconde série. Mais dans *Il vous nous présente, ce serait l'"objectivé" qui précède le doublement "humain".

En fait, les deux explications essayées ci-dessus semblent en partie se contredire. Finalement donc, il semble que ce soit la présence de deux pronoms de première et seconde personnes qui rend inacceptables les énoncés en question. La présence de deux pronoms fortement "humains" empêche l'équilibre qui peut s'établir dans les autres combinaisons où les deux personnes ne sont pas en même temps fortement "humains", "saillants": cf. me le, le lui, etc. Pourquoi les objets direct et indirect fortement "humains" empêchent-ils l'équilibre en question? C'est que le schéma essentiel qui est à la base de la construction de "Sujet - Prédicat - Objet direct - Objet indirect" est celui que nous proposons hypothétiquement, à savoir: "Personne - Verbe - Objet - Personne". Du point de vue des traits "saillants", l'élément jouant le rôle d'"Objet" doit être nettement inférieur par rapport à celui qui joue le rôle de "Personne" dative. Si donc une "Personne" joue le rôle d'"Objet", la "Personne" jouant le rôle datif est une "Personne" de trop et doit disparaître. Si l'élément jouant le rôle datif est une "Personne" et ainsi mis spécialement devant le rôle accusatif, ce rôle accusatif doit être, de la même manière, joué par un "Objet" et non par une "Personne". Ainsi, dans les deux cas d'interprétation de *vous nous, *nous vous (datif - accusatif, accusatif - datif), les énoncés en question deviennent inacceptables.

Ci-dessus toutes les suites types, acceptables et inacceptables, devant le prédicat sont examinées. Les clefs de l'analyse sont 1. l'ordre fondamental d'objet direct - objet indirect, 2. les deux hiérarchies des degrés de traits

"humains" ou "saillants".

6. Conclusion

Nous avons vu que les positions relatives des pronoms préverbaux ne sont pas pertinentes au sens fonctionnel du terme tel que nous le concevons, bien qu'elles soient rigoureusement fixes. Cette fixité non pertinente représente plutôt un aspect de la morphologie syntagmatique mais elle peut être mise en relation avec certains faits syntaxiques essentiels.

L'explication que donne E. Benveniste des distributions en question ne nous convainc pas, mais elle comporte une remarque importante, c'est-à-dire, la distinction primordiale entre je, tu, d'une part et de l'autre, il.

L'hypothèse qu'avance B. K. Barnes du pronom datif comme thème du syntagme verbal est intéressante. Nous jugeons que cette notion de thème est essentiellement la même que notre notion du datif comportant le trait "saillant". Mais cette hypothèse de Barnes ne nous paraît pas suffisante et nous sommes amené à proposer d'autres hypothèses.

D'abord, nous supposons que l'ordre fondamental est fonctionnellement celui de: "Sujet - Prédicat - Objet direct - Objet indirect", lorsqu'il n'intervient pas d'autres facteurs. Ensuite nous voudrions reconnaître l'importance primordiale des rôles de "personnes", d'"êtres humains" dans la communication langagière, et donc aussi dans les constructions syntaxiques. Et dans la construction donnée ci-dessus, ce sont, supposons-nous, le sujet et l'objet indirect qui représentent des "êtres humains", et on peut penser que l'objet direct correspond à un "objet" déplacé entre deux "être humains". Bien sûr il se rencontre fréquemment des énoncés avec l'objet direct "humain" et/ou le sujet et l'objet indirect "objets". Mais ce que nous avançons c'est la correspondance primordiale. Le trait "humain" ou mieux "saillant" - puisqu'il ne s'agit pas littéralement des référents "humains" - importe donc dans les constructions syntaxiques. Et précisons que le datif exprime plus fortement ce trait "saillant" que l'accusatif, bien que l'objet direct soit plus étroitement combiné avec le prédicat que l'objet indirect et par conséquent fonctionnellement plus spécifique que celui-ci. Enfin, il faut bien reconnaître que les 1e et 2e personnes correspondent au locuteur et à l'interlocuteur qui représentent les deux personnes indispensables à la communication langagière humaine. La 3e personne correspond à tout le reste. Les 1e et 2e personnes manifestent donc le trait "humain" ou "saillant" nettement plus que la 3e personne, bien qu'il y ait souvent des énoncés avec les 1e et 2e personnes se référant aux non-humains et/ou la 3e personne représentant l'humain.

Il est essentiel de remarquer le fait même banal que je et tu sont fondamentalement des êtres humains dans la communication langagière. En somme, le rôle des "êtres humains" est joué fonctionnellement par le sujet et l'objet indirect. Et du point de vue des personnes, ce sont les 1e et 2e personnes qui manifestent fortement ce trait "humain" ou "saillant". Quant au rôle de l'"objet" déplacé entre les deux "êtres humains", c'est fonctionnellement l'objet direct qui le joue, et c'est la 3e personne qui représente cet "objet". De ce point de vue précis, on peut reconnaître les intéressantes correspondances suivantes: la 1e personne correspond au sujet, la 2e, à l'objet indirect et la 3e, à l'objet direct.

Avec nos hypothèses, nous pensons qu'on peut donner au moins une forme d'explication, bien que fortement sémantique, aux curieuses distributions des pronoms préverbaux français qui résistent obstinément à toutes sortes de tentatives d'explication.

Il reste bien entendu des problèmes à expliquer: les distributions post-verbales des pronoms, les combinaisons avec y, en préverbaux, changement de me, te en moi, toi après le verbe, etc. Nous pensons qu'il est possible que nos hypothèses donnent aussi des explications plus ou moins convaincantes à ces problèmes.

NOTES

- 1) Le fait que ces pronoms ne déterminent que les prédicats verbaux pose un problème concernant la distinction entre les autonomes et les modalités. Pour cette distinction, voir Y.TSURUGA, 1978.
- 2) Les "'instances de discours'" sont "les actes discrets et chaque fois uniques par lesquels la langue est actualisée en parole par un locuteur" (ibid., p.251).
- 3) Remarquons que dans il le lui, les trois pronoms se réfèrent à trois personnes distinctes, tandis que les pronoms de première et seconde personnes, vu les identifications faites ci-dessus, ne peuvent se référer chacun qu'à une même personne dans un énoncé. En effet, la situation où *il le le fonctionnerait serait justement celle où les positions relatives seraient pertinentes. La succession de deux formes pronominales fonctionnellement distinctes *le le est choquante, mais les successions nous nous, vous vous sont bien possibles: vous vous souvenez de cela. Mais ce qui est important

dans la suite *il le le, c'est que *le le devrait indiquer non seulement deux fonctions distinctes mais encore deux personnes différentes, ce qui n'est pas le cas de nous nous, vous vous.

- 4) Concernant la nature non formelle des distributions, P.Postal la remarque aussi et donne des exemples comme Ça nous leur a fait donner des cadeaux, Pierre me lui a fait promettre de revenir (P.POSTAL, 1980, p.214).
- 5) Cf. C.BLANCHE-BENVENISTE, 1975, C.BLANCHE-BENVENISTE et alii, 1984.
- 6) Cf. A.MARTINET (dir.), 1979.

BIBLIOGRAPHIE

- BARNES, Betsy K. : The Notion of 'Dative' in Linguistic Theory and the Grammar of French, thèse de PhD, Indiana University, 1979. (polycopiée)
- BENVENISTE, Emile : "La nature des pronoms", 1956, repris dans BENVENISTE, E., Problèmes de linguistique générale, Paris, Callimard, 1966, pp.251-257.
- : "Le pronom et l'antonyme en français moderne", 1965, repris dans BENVENISTE, E., Problèmes de linguistique générale II, Paris, Gallimard, 1974, pp.197-214.
- BLANCHE-BENVENISTE, Claire : Recherches en vue d'une théorie de la grammaire française, essai d'application à la syntaxe des pronoms, Paris, Champion, 1975.
- BLANCHE-BENVENISTE, Claire, DEULOFEU, José, STEFANINI, Jean, VAN DEN EYNDE, Karel : Pronom et syntaxe. L'approche pronominale et son application au français, Paris, SELAF, 1984.
- MARTINET, André (dir.) : Grammaire fonctionnelle du français, Paris, Didier, 1979.
- POSTAL, Paul : "Un cas familier de non-cliticisation", Linguisticae Investigationes, IV-1, 1980, pp.213-215.
- TSURUGA, Yoichiro : L'Autonomie syntaxique en français contemporain (sa contribution à la communication linguistique), doctorat de 3e cycle, Aix-en-Provence, Université d'Aix-Marseille I, 1978.

在問 進

§ 1 言語の線条性

1. 言語表現の一つの不可避な制約として、意味を荷なう言語単位を時間軸にそって一線上に並べなければならないということが挙げられる。すなわち、たとえば「本が机の上にある」ということを表現しようとするとき、「本が」と「机の上に」と「ある」という三つの単位を並列的に並べなければならないのである。ここに、意味を荷なう言語単位の順序（すなわち語順）という問題が生じる。語順には、文肢のレベルにおけるもの（すなわち文肢の順序）と文肢内におけるものの2種類が認められる。文肢内における語順は、付加語や前置詞句などにおいて問題になるが、それらについてはここで問題にしない。

2. 文肢の順序、すなわち文肢配列を規定する規則は、文のタイプによって規定される「枠規定規則」と、発話内容によって規定される「順序規定規則」とに分かれる。前者は定動詞と述部成分（定動詞と意味的な一かたまりをなす動詞的成分）の位置に関するものであり、後者はそれ以外の文肢の位置に関するものである。

§ 2 枠規定規則

1. 文肢配列の枠組は、文のタイプに応じて文頭、第2位、あるいは文末のいずれかに置かれる定動詞、および定動詞に伴う述部成分を軸にして形成される。文のタイプに基づく定動詞および述部成分の配列規則を枠規定規則と呼ぶ。ただし述部成分は文中に現れないこともある。この規則により、たとえば、

（イ）平叙文の場合、定動詞は第2位に置かれる。定動詞が述部成分（たとえば過去分詞）を伴う場合、述部成分は文末に置かれる。

Er kommt morgen früh nach Mannheim.

彼は早朝マンハイムに来る。

Der Lehrer hat das Wort mit Kreide an die Tafel geschrieben.

教師はその単語をチョークで黒板に書いた。

(ロ) 疑問文の場合、決定疑問文では定動詞が文頭、補足疑問文では定動詞が第2位に置かれる。定動詞が述部成分を伴う場合、述部成分は文末に置かれる。

〔決定疑問文〕

Kommt er morgen wirklich ?

彼は明日本当に来るのか。

Haben Sie das Buch gelesen ?

あなたはその本を読みましたか。

〔補足疑問文〕

Wann kommt er eigentlich ?

彼は本来いつ来るのか。

Warum bist du nicht gekommen ?

なぜ君は来なかったの？

(ハ) 命令文の場合、定動詞は文頭に置かれる。定動詞が述部成分を伴う場合、述部成分は文末に置かれる。

Genieße deine Jugend !

君の青春を楽しめ！

Bring doch deine Freundin mit !

ガールフレンドと一緒に連れて来なさい！

(ニ) 副文の場合、定動詞は文末に置かれる。定動詞が述部成分を伴う場合、述部成分はその直前に置かれる。

Er fragte sie, warum sie immer zu spät komme.

彼は彼女になぜいつも遅刻をするのかと尋ねた。

Das ist das schönste Schloß, das ich je gesehen habe.

これは私がかつて見た最も美しい城である。

【注】 -----

「主語＋動詞＋…」の配列を正置、「…＋動詞＋主語＋…」の配列を倒置と呼ぶことがあるが、これは主語が動詞の前に置かれるのが基本であるという考えに基づくものである。しかし、ドイツ語では主語はかならずしも動詞の前に置かれるとは限られないため、正置、倒置という用語は用いない。

２．定動詞が第２位あるいは文頭に置かれる主文では、定動詞と述部成分が、また、接続詞文、関係文などの副文では接続詞、関係詞などと定動詞が一種の枠を形成する。これを枠構造と呼ぶ。

（イ）定形第２位：

文頭 第２位（定動詞） 文末（述部成分）
Heute hat er ein Buch gekauft.

（ロ）定形文頭：

文頭（定動詞） 文末（述部成分）
Hat er heute ein Buch gekauft ?

（ハ）定形文末

接続詞／関係詞 文末（定動詞）
wenn er heute ein Buch kauft

述部成分を伴わない定動詞が第２位に置かれる場合、文末が明示されないことになるが、このような場合でも、動詞と密接な関係がある文肢ほど（たとえば、述語、方向規定など）文末に置かれるため、一種の枠構造を想定することは可能である。

Er war sich seines Erfolges gewiß.

彼は成功を確信していた。

Er legt ein Tuch sorgfältig auf den Tisch.

彼はクロスを丁寧にテーブルの上に敷く。

【注】-----

英語の場合、文末に置く語句、また日本語の場合、文頭に置く語句を規則的に規定することができない。したがって、英語でも日本語でも、枠構造が形成されることがないが、ドイツ語では、文の基本になる文肢（定動詞と述部成分）が文頭ないし第２位と文末に配列されるため、一種の枠が形成され、文肢配列の基盤になるのである。なお、枠構造によって文の構造に統一と緊張が与えられるため、枠構造は、ドイツ語における論理的な表現の基盤であると言われる。

３．枠構造の後ろに文肢を置くことを枠外配列と呼ぶ。枠外配列には文法的な要因による場合と伝達的（文体的）な要因による場合の２つがある。

３．１．文法的な要因による枠外配列として、次の３つの場合がある。

（イ）比較対象を表す wie／als-句

Ich habe schneller geschwommen als er.

私は彼よりも速く泳いだ。

Du hast dich benommen wie ein kleines Kind.

君は小さな子供のように振舞った。

(ロ) 副文

Ich nahm an, daß ihr mitgehen wolltet.

私は君達が行きたがっているのかと思い込んだ。

Er ist heute nicht gekommen, weil er krank war.

彼は病気なのできょう来なかった。

Er lädt mich in das Wochenendhaus ein, das seinen Eltern gehört.

彼は両親の所有する週末の家に私を招待する。

(ハ) zu 不定句

Er wurde aufgefordert, seinen Ausweis zu zeigen.

彼は証明書を見せるように要求された。

Er hat sich beeilt, um den Zug zu erreichen.

彼は列車に間に合うように急いだ。

3. 2. 伝達的（ないし文体的）な要因による枠外配列として、次の2つの場合がある。

(イ) 述部の全体的把握を困難にする程長い文肢（特に前置詞句）

Er ist stolz auf seinen Sohn, der ein bekannter Arzt ist.

彼は有名な医者である息子のことを誇りに思っている。

Was sie sprachen, war aus der Entfernung nicht zu verstehen wegen des brausenden Windes, der in den Baumwipfeln wühlte.

彼らの話していることは遠くからでは木の梢を通り抜けるごうごういう風の音のために理解できなかった。

(ロ) 強調する文肢

Er ließ nicht nach mit Bitten.

彼は頼むことを止めなかった。

Du hast mir sehr gefehlt im letzten Jahr.

君がいなくて去年は本当に寂しかった。

§ 3 順序規定規則

枠構造内における文肢配列は形態的要因、統語的要因、伝達的要因によって規定される。これらの3つの要因に基づく文肢配列規則を順序規定規則と呼ぶ。それぞれの要因は、独立して文肢配列を規定するのではなく、相互にからみあいながら、様々な文肢配列を作り出すのである。

1. 形態的要因に基づく順序規定規則は、文肢の形態的長さに関連するもので、「形態的に長い文肢、あるいは構造的に複雑な文肢ほど後方に置く」という規則である。たとえば名詞の目的語と代名詞の目的語が並列する場合、名詞の目的語が代名詞の目的語より後方に置かれるが、これは形態的要因に基づくのである。

Ich habe ihm ein Buch geschenkt.

私は彼に本を贈った。

Ich habe es dem Freund geschenkt.

私はそれを友人に贈った。

Hat Sie Ihre Frau Gemahlin begleitet ?

奥様はあなたに付き添って行かれたのですか。

また、前置詞格目的語と自立格目的語が並列する場合、および前置詞句と副詞が並列する場合、それぞれ前者が後方に置かれるが、これも形態的要因に基づくのである。

〔前置詞格目的語と自立格目的語〕

Er bittet seinen Vater um Geld.

彼は父親に金をくれるように頼んだ。

Er schreibt einen Brief an seinen Freund.

彼は手紙を友人に書く。

〔前置詞句と副詞〕

Er bleibt deshalb am Sonnabend zu Hause.

彼はそれ故に土曜日家に留まる。

以上のように、ドイツ語では、形態的に長い文肢、あるいは構造的に複雑な文肢ほど後方に置かれるのである。

【注】-----

意味的に近似した副詞類を同格的に並べる場合も、一般的な意味内容で形態的に軽い副詞類よりも意味的に詳細で形態的に重い副詞類の方を後ろに置く。

Ich fahre morgen um 6 Uhr ab. 私は明日6時に発つ。

2. 統語的要因に基づく順序規定規則は、動詞との統語的關係に関連するもので、「動詞と統語的に密接な關係にある文肢ほど後方に置く」という規則である。たとえば、述語および補足成分としての場所・方向副詞類は、（定動詞と述部成分を除いて）文末にもっとも近いところに置かれるが、これは統語的要因に基づくのである。述語および補足成分としての副詞類は動詞と一つの意味的なかたまりを形成するもので、動詞と統語的にもっとも近い文肢なのである。

Er war heute sehr müde.

彼は今日非常に疲れていた。

Er muß heute sehr müde sein.

彼は今日非常に疲れているに違いない。

Er wohnte damals in Köln.

彼は当時ケルンに住んでいた。

Er will mit ihr in Köln wohnen.

彼は彼女と一緒にケルンに住むつもりだ。

また、補足成分と添加成分が並列する場合も、補足成分の方が動詞との結び付きが強いため、補足成分が添加成分よりも後方に置かれるが、これも統語的要因に基づくのである（太字体が補足成分、下線部が添加成分）。

Er fährt in diesem Sommer an die Ostsee.

彼はこの夏バルト海へ行く。

Er hat gestern mit seinem Freund seinen Lehrer besucht.

彼は昨日、友人とともに先生を訪ねた。

以上のように、ドイツ語では、動詞と統語的意味的に密接な關係にある文肢ほど後方に置かれるのである。

【注】-----

補足成分が代名詞の場合は、形態的要因の方が適用される。また、添加成分を強調する場合、添加成分の方が補足成分よりも後ろに置かれることもある。

Er hat sie gestern mit seinen Freunden besucht.

彼は彼女を昨日友人とともに訪ねた。

3. 伝達的要因に基づく順序規定規則は、伝達すべき情報の順序に関連するもので、「伝達上の情報価値が大きい文肢ほど後方に置く」というものである。たとえば、定冠詞の付いた目的語と不定冠詞の付いた目的語が並列する場合、不定冠

詞の付いた目的語が定冠詞の付いた目的語よりも後方に置かれるが、これは伝達的要因に基づくのである。すなわち、定冠詞の付いた既知の情報より、不定冠詞の付いた未知の情報の方が情報上の価値が大きいのである。

Ich habe dem Freund ein Buch geschenkt.

私は友人に本を贈った。

Ich habe das Buch einem Freund geschenkt.

私はその本を友人に贈った。

補足疑問文の答でも、疑問文の中で前提とされている情報よりも新たに提示される未知の情報が後ろに置かれるが、これも伝達的要因に基づくのである。

Was hast du heute gekauft ?

君はきょう何を買ったの。

— Ich habe heute ein Fahrrad gekauft.

私はきょう自転車を買いました。

Wann hast du das Fahrrad gekauft ?

いつ君はその自転車を買ったの。

— Ich habe das Fahrrad heute gekauft.

私はその自転車をきょう買いました。

以上のように、ドイツ語では、情報価値の小さなものほど前方に置き、情報価値の大きい文肢ほど後方に置かれるのであるが、それは、情報価値の少ない既知の情報が先送りされることによって、情報価値の大きい未知の情報を受け入れる心構えが聞き手に作り出され、情報の伝達が容易になるからである。

【注】 -----

情報価値の大きい文肢ほど後方に置かれるという伝達的要因は、枠規定規則による配列を除けば、ドイツ語の文肢配列の基本になるものである。形態的規則によって名詞句は代名詞よりも後方に置かれるとされるが、名詞句の方が基本的に代名詞よりも伝達価値が高いのであり、したがって、伝達の観点から眺めた場合でも、名詞句が代名詞よりも後方に置かれるのは当然なのである。また、統語的規則によって補足成分は添加成分よりも後方に置かれるとされるが、補足成分の方が一般的に添加成分よりも伝達価値が高いのであり、したがって、伝達の観点から眺めた場合でも、補足成分が添加成分よりも後方に置かれるのは当然なのである。なお、日本語の語順規則も、原則的には伝達的要因に基づくのであるから、定動詞の位置を除けば、ドイツ語と日本語の語順は同一であると言える。した

がって日本語をドイツ語に直す場合、日本語と同一の順序でドイツ語の語句を並べ、定動詞の位置を適当な位置（平叙文の場合は第2位）に移すことによって、正しいドイツ語の文を作ることができるのである。

太郎は きょう 花子と コンサートに 行く
Taro ----- heute mit Hanako ins Konzert gehen

Taro geht heute mit Hanako ins Konzert.

§ 4 文頭

1. 定動詞が第2位に置かれる平叙文の場合、文頭に置く文肢は、日本語と同様に、主語とは限られておらず、様々な語句が置かれる。平叙文の文頭には、叙述的機能と強調的機能が与えられる。

2. 叙述的機能とは、先行する文から予想される既知の情報が文頭に置かれる場合である。既知の情報を文頭に置くことによって、脈絡の流れが保持され、伝達内容の理解が容易になるのである。叙述機能を持つものとして、大ざっぱに述べて、次のような2種類の文肢が文頭に置かれる。

(イ) 先行する文に関連する場所、時間、理由などを表す文肢――前文に関連する語句を文頭に置くことによって、事柄の展開に連続性がもたらされる。

Vor ihm lag eine Waldlichtung, und dort saßen beim Schein
eines Lagerfeuers drei Gestalten sehr unterschiedlicher Art
und Gestalten.

彼の前に林の間の空き地が横たわっていた。そしてそこには焚火に照らされた非常に異なった様子と形をした三つの姿があった。

(ロ) 先行する文で言及され、新しく述べる事柄の話題（テーマ）になる文肢――聞き手にとって既知である話題（テーマ）を文頭に置くことによって、未知の情報が一定の心構えのもとに提示されうる。

Dort steht ein Wagen. Er gehört meinem Vater..

そこに車がある。それは私の父のものだ…

Es war einmal eine neugierige Alte, die schwatzte gern über
ihre Nachbarn..

昔、好奇心の旺盛なおばあさんが一人おりました。おばあさんは隣人の噂話をするのが好きで…

3. 強調的機能とは、先行する文から予想されない未知の情報が文頭に置かれる場合である。未知の情報を担う文肢を文頭に置くことは、「既知の情報→未知の情報」という伝達にもっとも自然な配列順序に逆らうため、そこに強調という文体的効果が生じる。

Ein Lügner ist er !

うそつきだ、奴は！

対比的なテーマを文頭に置く場合も、強調的な意味合いが伴う。

An seinen Freund hat er nicht geschrieben.

友人には彼は手紙を書かなかった。

Diese Reparatur muß ein Mechaniker machen.

このような修理は機械工にまかせなければならない。

Bei einem solchen Lärm kannst du arbeiten ?

こう騒々しくても君は仕事出来るの。

【注】-----

先行する文に関連する文肢も話題（テーマ）を形成する文肢もない場合、伝達価値の低い副詞類を文頭に置くのが原則である。したがって、文脈がまだ形成されていない小説の冒頭の場合、もっとも多く用いられるのは場所、時などを表す副詞類である。

In einem Hafen an der westlichen Küste Europas liegt ein

ärmlich gekleideter Mann in seinem Fischerboot und döst.

ヨーロッパの西海岸のある港で貧しい服装をした一人の男が漁船に横たわり、うとうとしていた。

Im August des Jahres neunzehnhundertvierzehn lebt in New

York ein junger Mann namens Nikolaus Tarabas.

1914年の8月、ニューヨークにニコラウス・タラバスという名前に男が暮らしている。

なお、「穴埋めの es」と呼ばれる非人称の es を文頭に置くことがある。「穴埋めの es」は特に存在文や出来事文などに用いられる。このような文では、主語がふつう未知の情報を担うため、文中に置かれ、文頭が空位になることが多いのである。

Es ist ein Unglück geschehen.

事故が起きた。

Es war einmal vor Zeiten ein König.

昔ある時王様が一人おりました。

Es bleibt ihm nur eine schwache Hoffnung.

彼にはかすかな望みが残されているだけである。

Es ist gestern ein Kind von einem Auto überfahren worden.

昨日子供が一人自動車にひかれた。

§ 5 各文肢の位置

1. 定動詞

1. 1. 定動詞は、文頭、第2位、あるいは文末のいずれかに置かれる。これらのどの位置が選ばれるかは、文のタイプによって決まる。

1. 2. 定動詞が第2位に置かれる文タイプは、平叙文、補足疑問文、要求話法の文である。

〔平叙文〕 Er kommt heute nicht.

彼は今日来ない。

〔補足疑問文〕 Wann kommt er eigentlich ?

彼はいったいいつ来るの。

〔要求話法〕 Man nehme täglich eine Tablette.

一日一錠服用のこと。

【注】 -----

(a) 接続詞 daß を省いた間接話法の文（および独立的間接話法の文）の場合にも定形第2位になる。

(Er sagte,) er sei krank gewesen.

← (Er sagte,) daß er krank gewesen sei.

彼は病気だ（と言った）。

(Ich denke,) er liest das Buch noch.

← (Ich denke,) daß er das Buch noch liest.

彼はまだその本を読んでいる（と私は思う）。

(b) 断わり書きや認容文が先置される場合も、定形第2位になることがある。

Um die Wahrheit zu sagen, ich bin weder dafür noch dagegen.

本当のことを言うと、私はそれに賛成でも反対でもない。

Magst du recht oder unrecht haben, du mußt mir immer zuhören.

君が正しかろうが誤っていようが、私の言うことにいつも耳をかさなくて

はならない。

1. 3. 定動詞が文頭に置かれる文タイプは、決定疑問文、命令文である。

〔決定疑問文〕 Kommt er heute wirklich ?

彼はきょう本当に来るの。

〔命令文〕 Kommt schnell bitte !

すぐに来てくれ！

Seien Sie vorsichtig !

危ないから注意してください！

【注】 -----

(a) wenn 文で wenn を省略した場合も、定形は文頭に置かれる。

Kommt Zeit, kommt Rat.

← Wenn Zeit kommt, dann kommt Rat. 時来れば、助けあり。

(b) 認容文、要求話法、wollen/lassen を用いた提案文でも、定形が文頭に置かれることがある。

Ist der Himmel auch heiter, mein Herz ist es doch nicht.

天澄み渡れども、我が心さにあらず。

Möge er doch gesund bleiben ! 彼が健康であり続けんことを！

Wollen wir ins Kino gehen ! 映画へ行こう！

Lassen Sie uns spazieren gehen ! 散歩へ行きましょう！

1. 4. 定動詞が文末に置かれる文タイプは副文で、これには、接続詞文、関係文、間接疑問文の三つがある。

(Er leugnet,) daß er mit ihr ins Konzert gegangen ist.

(彼は彼女とコンサートに行ったこと(を否定する。))

(Ich kenne den Mann,) der ihn ermordet hat.

彼を殺した(男を知っている。)

(Ich weiß,) wer ihn ermordet hat.

誰が彼を殺したのか(知っています。)

【注】 -----

副文において不定詞(zu 不定詞)が二つ以上連続する場合、定動詞は不定詞群の前に置かれる。

Ich bin heute sehr müde, weil ich gestern den ganzen Tag

habe arbeiten müssen.

私は昨日一日中働かなければならなかったので、きょうは非常に疲れている。

2. 述部成分

2. 1. 述部成分（分離前つづり、複合的動詞の不定詞、話法の助動詞文の不定詞、完了形・受動形の過去分詞、熟語成分）の位置は、定動詞の位置に関連して決められる。

（イ）定動詞が第2位に置かれる主文では述部成分は文末に置かれる。

Er fährt morgen ab.

彼はあす出発する。

Er geht heute schwimmen.

彼はきょう泳ぎに行く。

Er muß einen Brief schreiben.

彼は手紙を書かなければならない。

Er hat einen Brief geschrieben.

彼は手紙を書いた。

Der Brief wurde gestern geschrieben.

手紙は昨日書かれた。

Er fährt gern Auto.

彼は自動車の運転が好きだ。

Darin hat vielleicht Ihr Vater recht.

この点ではひょっとしたらあなたのお父さんが正しい。

【注】-----

述部成分を強調する場合、文頭に置くことがある。

Schlittschuh laufe ich sehr gern.

スケートは私は非常に好きだ。

Kann er Deutsch sprechen ? - Nein, sprechen kann er es nicht.

彼はドイツ語を話せますか。－ いいえ、話せません。

Abgeschickt habe ich das Paket gestern nicht.

昨日私は小包の発送はしなかった。

Informiert wirst du rechtzeitig.

連絡は遅れずにしてもらえるよ。

(ロ) 定動詞が文末に置かれる副文では、述部成分は定動詞の直前に置かれる。

..., daß er morgen ab- fährt.

彼があす出発すること…

*分離前つづりの場合は、一語として綴られる。

..., daß er heute schwimmen geht.

..., daß er einen Brief schreiben muß.

..., daß er einen Brief geschrieben hat.

..., daß der Brief gestern geschrieben wurde.

..., daß er gern Auto fährt.

2. 2. 述部成分が複数個ある場合、それらは、一定の規則に従って並べられ、文末ないし定動詞の前に置かれる。

Er muß schon den Brief geschrieben haben.

彼はもう手紙を書いてしまったに違いない。

..., daß der Brief gestern geschrieben worden ist.

その手紙が昨日書かれたということ

【注】-----

ドイツ語の述部成分はすべて文末に集中し、また定動詞が文末に置かれる副文では、定動詞と述部成分が日本語と同一の配列を見せる。したがって、日本語の語順から出発するならば、副文の文肢配列はもちろんのこと、述部成分が複雑に並列するような主文も、末尾の定動詞を第2位ないし文頭に移し変えることによって自動的に形成することができる。

彼は 手紙を 書い た に違いない

er einen Brief geschrieben haben muß

→ Er muß einen Brief geschrieben haben.

このように、日本語とドイツ語の語順を比べた場合、主文の語順で異なるのは原則的に定動詞の位置のみなのである。

3. 枠構造内の文肢配列

定動詞、述部成分以外の、枠構造内に現れる文肢の配列は、形態的、統語的、伝達的規則に基づいて規定される。

3. 1. 主語述語

主語述語は、コブラ動詞と統語的に密接に結び付く文肢であるため、コブラ動詞

が第2位ないし文頭に置かれる場合、文末に、コブラ動詞が文末に置かれる場合は、その直前に置かれる。

Er ist begabt.

彼は才能がある。

Er ist Lehrer geworden.

彼は先生になった。

Wirst du mit der Arbeit bald fertig werden ?

もうすぐ仕事終わるかい。

Er hat gesagt, daß ihm der Abend unvergeßlich bleiben wird.

彼は自分にとってその晩が忘れ難いものとなるでしょうと言った。

強調の場合は、文頭に置かれることもある。

Eine Millionenstadt ist Berlin.

百万都市なんだよ、ベルリンは。

Wichtig ist diese Frage für mich nicht.

この問題は私にとって重要というわけではない。

【注】-----

(a) 形容詞的述語は、前置詞格目的語の前に置かれることがある。

Er ist entrüstet über diese Ungerechtigkeit.

彼はこの不正に激怒した。

(b) 述語が代名詞 es の場合、定動詞の直後に置かれる。

Er ist es gern geworden.

彼は喜んでそれになった。

(参照: Er ist gern Lehrer geworden.)

3. 2. 目的語述語

目的語述語は、主語述語に準じて（原則的に文末、定動詞が文末に置かれる場合は、その前に）配列される。

Man nennt ihn ein Talent.

人は彼を才人と呼ぶ。

Alle haben seine Entscheidung als falsch bezeichnet.

みんな彼の決定を間違っていると言った。

【注】-----

強調の場合、目的語述語は文頭に置くことができるが、意味的に主語の関係にある4格目的語の直前に置くことは出来ない。

3. 3. 主語

主語は、原則的に文頭に置かれるが、伝達の規則によって文中にも置かれる。

〔文頭〕 Die Zuschauer erhoben sich von ihren Sitzen.

観衆たちは席から立ち上がった。

Er hat heute drei Stunden gerudert.

彼はきょう三時間ボートを漕いだ。

〔文中〕 Im Sturm knickten die Bäume wie Streichhölzer.

嵐の中で木々はマッチ棒のようにへし折れた。

Mit ihm kann zur Zeit niemand konkurrieren.

彼には目下誰もかなわない。

【注】 -----

(a) 主語は未知の情報を担うか、人称代名詞あるいは man のように、あまり重要でない情報を担う場合に多く文中に置かれる。

Das kann ein Laie nicht beurteilen.

そういうことは素人では判断できない。

Auf dem Boden liegen teure Teppiche.

床には高価な絨毯が敷いてある。

Zu einer modernen Wohnung gehört eine Klimaanlage.

近代的な住居には冷房は必要である。

So kannst du das nicht machen.

そんなふうにはそれは出来ないよ。

In diesem Sessel sitzt man sehr bequem.

この安楽椅子は座りごちが非常にいい。

(b) 主語が自立格目的語と文中で並列する場合、主語が名詞で、自立格目的語が代名詞ならば、主語が自立格目的語の後ろに置かれることがある。ただし、前置詞格目的語の場合は、前置詞格目的語が代名詞でも、主語は前置詞格目的語の前に置かれる。

Sie waren in einer solchen Lage, daß ihnen der Mut
verschwand.

彼らは勇気が消え失せるような状況にあった。

Heute schreibt der Student an sie.

きょうその学生は彼らに手紙を書く。

3. 4. 目的語

目的語は原則的に文中に置かれる。

(イ) 4格目的語と3格目的語が並列する場合、4格目的語の方が原則的に動詞との関係が密接であるため、4格目的語は3格目的語の後ろに置かれる。伝達価値が高いものほど、後方に置かれるのである。

Er zeigt dem Freund das Bild. 彼は友人に絵を見せる。

不定冠詞、無冠詞を伴う(すなわち未知の情報を担う)4格目的語は、3格目的語の後ろにかならず置かれる。

Er schenkt dem Freund ein Buch.

彼は友人に本を贈る。

Sie streut den Vögeln Körner als Futter.

彼女は鳥たちに餌として穀粒を撒く。

【注】-----

(a) 3格目的語が代名詞で、4格目的語が名詞の場合、4格目的語は3格目的語の後ろに置かれる。

Er zeigt dem Freund das Bild.

彼は友人に絵を見せる。

Ich habe ihm meinen Standpunkt klargemacht.

私は彼に私の立場をはっきりさせた。

(b) 4格目的語が代名詞の場合、3格目的語が名詞でも代名詞でも、その前に置かれる。

Er zeigt es dem Freund. 彼はそれを友人に見せる。

Er zeigt es ihm. 彼はそれを彼に見せる。

ただし、4格目的語が指示代名詞の場合は「3格目的語→4格目的語」の語順になる。

Er zeigt ihm das. 彼は彼にそれを見せる。

(c) 少数だが、一部の動詞で3格目的語の方が4格目的語よりも後方に置かれる。

Er widmet sein Leben der Kunst. 彼は人生を芸術に捧げる。

(ロ) 前置詞格目的語と自立格目的語が並列する場合、前置詞格目的語は原則的

に、形態（名詞か代名詞か）に関係なく、自立格目的語の後ろに置かれる。

〔4格〕 Er kehrte das Gesicht zum Himmel.

彼は顔を空の方へ向け。

Er fragt den Polizisten danach.

彼は警官にそのことを尋ねる。

〔3格〕 Er hilft seinem Bruder bei den Schulaufgaben.

彼は弟の宿題の手助けをする。

Er dankt dem Lehrer dafür.

彼はそのことで先生に感謝する。

新しい情報を担う場合は、自立格（4格・3格）目的語も前置詞格目的語の後ろに置かれることがある。

Er knüpfte daran die Bedingung, daß..

彼はそのことに…という条件を付けた。

【注】 -----

前置詞格目的語は他の文肢よりも文末に置かれる傾向がある。

Er jagte sein Leben lang nach Ruhm.

彼は一生涯名声を追い求めた。

Er bat kleinlaut um Verzeihung.

彼は小さな声で許しを乞うた。

（ハ）目的語が主語と並列する場合、目的語は原則的に主語の後ろに置かれる。

Heute schreibt der Student seinen Eltern.

Heute schreibt der Student an seine Eltern.

きょうその学生は両親に手紙を書く。

3. 5. 述語の目的語

述語の目的語の場合、目的語が自立格であるか前置詞格であるかによって、配列規則が異なる。

（イ）自立格の場合、目的語は述語の前に置かれる。

Er ist Kälte gewöhnt.

彼は寒さに慣れている。

Ist er seinem Vater ähnlich ?

彼は父親に似ているの。

Es heißt, daß er große Leistungen fähig ist.

彼には大きなことを成し遂げる力量があると言われている。

(ロ) 前置詞格の場合、目的語は述語の前にも後ろにも置かれる。

Er ist an dem Unfall schuld < schuld an dem Unfall > .

その事故の責任は彼にある。

【注】 -----

自立格目的語と前置詞格目的語が並列する場合、前置詞格目的語が後ろに置かれる。

Er ist dem Lehrer für die Ratschläge dankbar.

彼は先生に助言してくれたことに感謝する。

3. 6. 副詞類

副詞類は、補足成分として用いられるか、添加成分として用いられるかによって配列規則が異なる。

3. 6. 1. 補足成分として用いられる副詞類は、動詞と統語的に密接な関係にあるため、文末に置かれる。

Er legt eine Vase auf den Tisch.

彼は机の上に花瓶を置く。

Die Straße führt in steilen Kehren zum Paß.

道は急なカーブを描きながら峠に通じている。

Wenn du klug bist, fährst du erst im September nach Japan.

君は賢ければ、日本へは9月になってから行くだらうよ。

3. 6. 2. 添加成分として用いられている副詞類は、原則的に自由である。文中に置かれる場合、伝達上重要なものほど後ろに置かれる。

Am nächsten Tag hatte er einen Kater.

次の日彼は二日酔いだった。

Die Menge jauchzte über diese Nachricht vor Begeisterung.

群衆はこの知らせに感激のあまり歓声を挙げていた。

Sie lebten mit den Studenten drei Wochen in einem Lager zusammen.

彼らは学生たちと3週間キャンプ地で一緒に暮らした。

【注】-----

(a) 添加成分の副詞類が目的語と並列する場合、情報価値の大きい方が後方に置かれる。したがって、目的語が代名詞の場合、副詞類は後ろに、目的語が不定冠詞を伴うような不特定のものを指す場合、副詞類は目的語の前に置かれる。

Das Kind sah ihn mit klugen Augen.

その子供は彼を賢そうな目で見た。

Wir haben ihn neulich kennengelernt.

私たちは彼と最近知合いになった。

Ich habe ihn mehrmals in der Stadt getroffen.

私は彼に何度か町で会った。

Ich kenne hier ein nettes Lokal.

私はこの近くに感じのよい店を知っている。

Man muß im Leben Kompromisse machen.

人生には妥協が必要だ。

ただし、添加成分の副詞類が強調される場合、副詞類が目的語の後ろに置かれることもある。

Er klopft das Fleisch mehrmals.

彼は肉を何度も叩く。

Der Kranke hat die Krise gut überwunden.

病人は無事に峠を越えた。

(b) 添加成分の副詞類と主語と並列する場合、副詞類は主語の後ろに置かれるのがふつうである。

Gestern ist der Student trotz seiner Erkältung gekommen.

昨日その学生は病気だったのかかわらず来た。

Sie sagt, daß ihr Sohn auf Grund seines Fleißes Sieger geworden ist.

彼女は息子が熱心であったために勝利者になったと言う。

ただし、副詞類よりも主語が強調される場合、主語が副詞類の後ろに置かれることもある。

Wohnt hier dein Freund ?

ここに君の友達が住んでいるのか。

Er sagt, daß heute sein Freund kommt.

彼はきょう彼の友人が来ると言う。

(c) 添加成分の副詞類が並列する場合、空間および様態副詞類は、文末に向う傾向を持つ。

Er jagt zur Zeit in Afrika.

彼は目下アフリカで獵をしている。

Er kennt Deutschland, er hat lange dort gelebt.

彼はドイツのことを知っている、長い間そこで暮らしていたのだ。

Er lebte jahrelang unter falschem Nahmen.

彼は何年にもわたって偽名で暮らしていた。

Sie haben sich gestern nett unterhalten.

彼らは昨日楽しい語らいの一時を持った。

Die Mutter ernährt das Kind selbst.

その母親は子供を母乳で育てる。

Du gehst mit deinen Sachen nachlässig um.

君は自分の持ち物をそまつに扱う。

接続副詞は前方に向う傾向を持つ。

Er arbeitet trotzdem seit einiger Zeit sehr eifrig.

彼はそれにもかかわらず少し前から非常に熱心に働いている。

Wir sind zur Zeit in Urlaub und können Sie daher leider erst

in zwei Wochen später besuchen.

私たちは目下休暇中なので、あなたを訪問出来るのは残念なことに2週間後になります。

4. nicht の位置

4. 1. 否定には、文全体（主語と述部からなる事柄）を否定する文否定と文の一部（文肢ないし語）を否定する部分否定の二種類がある。たとえば日本語で、「彼はドイツに行かない」と言えば、文全体（「彼はドイツに行く」）を否定しているのであり、「彼はドイツには行かなかった」と言えば、文の一部（「ドイツ」）を否定している。前者が文否定であり、後者が部分否定である。

【注】-----

文否定と部分否定では意味が異なり、それに応じて nicht の位置も本来異なるのであるが、一部の否定文では、nicht の位置が同一になり、多義になることがある。

Er stellte die Vase nicht auf den Tisch.

〔文否定〕彼は花瓶をテーブルの上に置かなかった。

〔部分否定〕彼は花瓶をテーブルの上には置かなかった。

4. 2. 文否定の nicht の位置は、原則的に規定できる部分と、文肢の種類によって影響を受ける部分とがある。

4. 2. 1. 文否定の nicht は原則的に、述部成分（不定詞、過去分詞、分離前つづり、述語）がない場合、文末に置かれ、述部成分がある場合、それらの前に置かれる。

〔述部成分がない場合〕

Er kommt heute nicht.

彼は今日来ない。

Das lohnt die Mühe nicht.

それは苦勞に見合わない。

Er besucht uns vermutlich nicht.

彼は私たちを恐らく訪ねて来ないだろう。

〔述部成分がある場合〕

Er wird nicht Arzt. 彼は医者にならない。

Er reist heute nicht ab. 彼がきょう出発しない。

Er ist heute nicht abgereist. 彼はきょう出発しなかった。

Er wird heute nicht abreisen. 彼がきょう出発しないだろう。

【注】-----

(a) 述語が副詞の場合、nicht の位置はどちらも可能である。

Er ist nicht dort<..dort nicht>. 彼はそこにいない。

(b) ドイツ語の基本語順として、動詞が文末に置かれたものを考え、文否定の nicht は動詞の前に置くと仮定するならば、述部成分がある場合もない場合も、nicht の位置は同一の原理によって支配されることになる。すなわち、述部成分がない場合、nicht が文末に来るのは基本語順の動詞を第2位に移した後に文末に何も残らないからであり、述部成分がある場合、それらの前に位置するのは、基本語順の動詞が第2位に移動した後に述部成分が文末に残るからなのである。

Er, _____, heute, nicht, kommen

Er kommt heute nicht.

Er, _____, heute, nicht, abgereist, sein

Er ist heute nicht abgereist.

4. 2. 2. 目的語と文否定の nicht に関して次のような規則がある。

(イ) 自立格の場合、文否定の nicht はふつうその後に置かれる。

Er nahm das Geld nicht.

彼はそのお金を取らなかった。

Er findet das Buch nicht.

彼にはその本がみつからない。

Er wollte seine Komplizen nicht nennen.

彼は共犯者の名前を言おうとしなかった。

【注】 -----

(a) 代名詞の場合、文否定の nicht は後ろに置かれる。

Mit Geld kann man mich nicht ködern.

お金で僕を釣ろうとしても無駄だ。

(b) 動詞と熟語的に結びついている目的語の場合、nicht はかならず目的語の前に置く。

Er fährt nicht Auto. 彼は車を運転しない。

Er nahm nicht Abschied. 彼は別れを告げなかった。

(ロ) 目的語が前置詞格の場合、文否定の nicht は、その前にも後ろにも置かれる。

Er erinnert sich nicht an mich<..an mich nicht>.

彼は私のことを覚えていない。

Er zweifelt nicht an seinen Fähigkeiten<..an seinen Fähigkeiten nicht>.

彼は自分の力量を疑っていない。

4. 2. 3. 副詞類と文否定の nicht に関して次のような規則がある。なお、イントネーションは、特定の文肢に強勢が置かれられないふつうのものとする。

(イ) 補足的副詞類の場合は、その前に置く。

Er legt das Buch nicht auf den Tisch.

彼は本を机の上に置かない。

Die Sitzung dauert nicht den ganzen Tag.

その会議は一日中続くことはない。

(ロ) 添加的副詞類の場合、次のような細則が認められる。

場所の副詞類の場合、その前にもその後ろにも置くことができる。これは本来的

な副詞の場合にも当てはまる。

Ich traf ihn im Kino nicht<..nicht im Kino>.

私は彼に映画館で会わなかった。

Er arbeitet nicht dort<..dort nicht>.

彼はそこで働いていない。

時間の副詞類が前置詞句の場合、その前にも後ろにも置くことができる。副詞的
4格および本来的な副詞の場合は、その後ろに置かれる。

Er arbeitet am Abend nicht<..nicht am Abend>.

彼は夕方仕事をしない。

Der Zug fährt eine Woche nicht.

その列車は1週間運行しない。

Sie besuchte ihn gestern nicht.

彼女は彼を昨日訪ねなかった。

【注】-----

(a) 話者の判断に基づいて使用される副詞 (bald など) の場合は nicht はか
ならずそれらの前に置かれ、部分否定の解釈を受ける。

Er besucht uns nicht bald<*...uns bald nicht>.

彼は私のところにすぐには訪ねて来ない。

(b) 様態を表す副詞類の場合、nicht はかならずそれらの前に置かれ、部分否
定の解釈を受ける。

Er kommt nicht pünktlich. 彼は遅れて来る。

Er arbeitet nicht fleißig. 彼の働きぶりは真面目ではない。

4. 3. 部分否定の nicht は原則的に否定すべき文肢や語の直前に置く。部分
否定には文肢全体、文肢の一部の語、語の一部を否定するものがある。ただし、
主文の定形の動詞の前に置くことはない。また、sondern を伴うことも多い。

Er konnte das Knie nicht krumm machen.

彼は膝を曲げることが出来なかった。

Wir wollen das Problem nicht unnötig komplizieren.

私たちはその問題を不必要に複雑にしたいくない。

Er fährt nicht heute, sondern morgen ab.

彼は出発するのはきょうではなく、明日です。

Sie sind nicht aus-, sondern umgestiegen.

彼らは降りたのではなく、乗り換えたのだ。

Sie trafen sich nicht vor, sondern nach der Vorstellung.

彼ら上演の前ではなく、後で会った。

Er stellte das Buch nicht ins Regal, sondern legte es auf den Tisch.

彼は本を棚に立てかけたのではなく、机の上に置いた。

Sie hat mir nicht den blauen Bleistift, sondern den roten gegeben.

彼女は私に青の鉛筆ではなく、赤のをくれた。

【注】-----

否定される語句に強勢を置く場合、nicht を文否定に準じる場所に置くことが出来る。

Ins Kino gehe ich nicht, aber ins Konzert.

映画には私は行かないが、コンサートには行く。

中 澤 英 彦

0.

周知のごとくロシア語は屈折語であり、名辞（名詞、形容詞、数詞）や動詞類は他の語との関係を示す語尾を内蔵している。したがって、名辞や動詞類は位置の助けによらずにそれ自体で統語関係を示しうる。そこで他の言語に比べた場合、ロシア語は、語の文中における位置（つまり、語順）は自由であるという印象を与えやすい〔1〕。

しかし、現実には、位置の自由さはあくまで相対的なものであり、かつ、それは、語順の自由さを意味するものではない。原則として語の順序は恣意的に変えられるものではない。恣意的なのは文の成分〔2〕であり、それとても相対的な恣意性を持つにすぎない。例えば、Петя бросил рыбу кошке. [1-27] という文は、24通りの語順が可能であるが、ここでは語は単に語にとどまらず、同時に文の成分でもある。その上、例えば Бросил Петя кошке рыбу (и заплакал). [1-27] という語順は単独では不可能で、()内のような文を付け加えなければならない。

このように語順を少しでも包括的に考えようとするならば、語、語結合、文複文、文章、、、といった階層を峻別することが是非とも必要になる。これからそれらのうち、語のレベルから単文のレベルまでを概観しよう。

1.0

まず語のレベルである。

Я иду в школу.

の文では 文成分となる я ,иду,語の結合 в школу ならば、文中の配置は比較的に自由である。しかし、в と школу は上記以外の語順は不可能であろう。

このように語尾を持たない補助語（前置詞、接続詞、助詞）の語順は不自由である。わずかに ради, навстречу, спустя が関係する名詞と位置を交換しうるにすぎない〔3〕。韻文の中では稀には前置詞と関係する名詞との位置のずれも

あるが、あくまで例外的である。

1.1

次は語結合のレベルであるが、語順は不自由である。しかし、語のレベルではほとんど通常の語順からずれる語順、つまり倒置がありえなかったのに対して、語結合のレベルではありえる。

語結合を一致、支配、付加という結合の特性によって、伝統的な説の代表として、Гвоздевの説を核にまとめよう [4-164/168]。

一致による結合（定語）の場合

一致定語は被定語に先行する。したがって被定語－定語の語順は定語の強調となる。例えば、русские ученые「ロシア人の学者」と ученые русские「学者のロシア人」のように、形態的に品詞の区別ができない語の結合の場合であっても、前置された語が定語（形容詞）とみなされる。

不一致定語は被定語に後置するので、定語－被定語の語順は定語の強調となる。

支配の場合。動詞や形容詞や名詞と従属する語の場合は、支配語－従属語（不定形を含む）の語順

付加の場合

付加自体が形態的な特徴よりも、意味的、音声的によりまとまった結合なので、付加される語の意味、時には形態により異なる語順となる。

(1) 動詞と質的な意味の副詞や名詞から派生した副詞との場合

動詞－副詞の順

質的な意味の副詞と形容詞や副詞

副詞－形容詞や副詞

(2) 状況語的な意味の副詞と動詞

動詞との結び付きが弱く、文全体の構造で決定

複数の従属語の場合――省略

1.2

最後は文のレベルである。文、正確には発話 [4] はコミュニケーションの単位であるので、このレベルでは語順は主に文の現実区分 актуальное членение предложенияと強勢（情動性）の課題によって決定される [5]。

ここで、まず情報と言う観点から、簡単にコミュニケーション（情報伝達）

行為について考えてみたい。

交話的機能、詩的機能などの副次的機能をもちながらも、言語の第一義的機能が伝達機能であることは論を待たない。伝達機能とは情報を交換する機能である。

そこで、コミュニケーションを成立させる最底条件は、話し手・書き手と聞き手・読み手および情報の存在となる。このとき、話し手・聞き手の持つ情報量と聞き手・読み手の持つ情報量の差が前提となる。そして話し手（書き手は以後省略）の持つ情報が聞き手（読み手は以後省略）に完全に移転されて、一区切りのコミュニケーションが終了する。もちろん、実際には話し手はただちに聞き手になり、聞き手はただちに話し手になるというように、交互に役割を交換するが、理論的には上のように考えてよいだろう。

このとき、話し手と聞き手との情報量に差があればよいのではなく、両者にとって理解の前提となる共通の情報というものがなければならない。それは社会言語学でいうところの背景となる知識と本質的には同じであるが、そのような共通の基盤となる情報を背景として、話し手の持つ「新たなる情報」が聞き手に伝達され、理解される。さらにコミュニケーションが続くならば、その「新たなる情報」が今度は両者にとっての共通の情報となり、さらに別の新しい情報が伝達されるのである。

これをコミュニケーションの単位である発話（ここでは文とする）に即して考えると、未分化の情報が言語の二重分節性、線状性により何らかの情報の塊の組み合わせに転換されることになる。その際、状況、文脈に規定され、聞き手と話し手とに共通の基盤となるいわば旧情報と聞き手にとって初めての新情報を考慮して、話し手は文を組み立てる。

ここまでは言語を問わず一般にいえることである。ところで、その旧情報、新情報を言語化する手段・手法なると、言語によって差がでてくる。

ロシア語の場合について、以下の文とそれを答えとする疑問文を用いて考えてみよう。

左の文を答えとする疑問文

Александр пошел в Большой театр. Что сделал Александр?

В Большой театр пошел Александр. Кто пошел в Большой театр?

Пошел Александр в Большой театр. Куда пошел Александр ?〔6〕

左側の文はどれも同一の統語的成分からできているが、右の問が示す通り、その現実に対する関係は異なっている。

各文は、それぞれ、Александр、в Большой театр пошел、Пошел Александр ないし Александр пошел の部分が元となっており、答えの部分、Пошел в Большой театр、Александр、в Большой театрを導きだしている〔6〕

左側にある3文では、いずれも最初の部分はふつう聞き手に知られている情報を表し、答えにあたる部分は知られていない情報を含んでいる。このように文を伝達の導入部、基礎となる部分（テーマ）とその導入部について述べる部分（レーマ）に区分けすることを現実区分という〔7〕。

現実区分はこのように二項的であるが、文の成分は必ずしも二項例えば、主語、述語の二項があるわけではない。レーマだけしかない（ゼロテーマの）文も存在しうる。

従って、現実区分の観点からは文は、テーマとレーマに区分される、有区分の文と、レーマしかない無区分の文とに二分される。

このようにテーマ、レーマの区分は、文の統語的、文法的区分と必ずしも一致するものではなく、どのような文の成分、または語結合の成分でもテーマやレーマになりうるし、統語的にまとまったもの、まとまっていないものもある。

Гостей она принимала//часто.（//はテーマとレーマの境界を示す）

Книгу купить я// успел.

同一の語順の文、例えば上で見た文も Александр// пошел в Большой театр. と Александр пошел// в Большой театр. というように異なる現実区分に対応しうる。

このように語順では区別できない場合には、イントネーションで区分を示すしかない。即ち、テーマの末尾でイントネーションは上昇調になり、レーマの末尾（театр）で下降調を取る。

逆に テーマが主語＋述語、レーマが目的地を示す語句という同一の現実区分に対して次のように一通り以上の語順が可能なこともある。〔8〕

Александр пошел// в Большой театр. Пошел Александр// в Большой театр. どちらになるかは先行の文の構造・文脈や文体、つまりコミュニケーション

ヨンの課題が決定する。例えば、下の例を考えてみよう。

"Осенний день в Сокольниках"— единственный пейзаж Левитана, где присутствует человек, и то его написал Николай Чехов. После этого люди ни разу не появлялись на его полотнах. Их заменили леса и пажити,... (Паустовский) (下線——中澤)の文では、先行の文、文脈の制約を受けず、相対的に位置が自由なのは第一文だけであって、第二文、第三文は完全に文脈に従属し、それぞれ 前文を受け継ぐПосле этого Ихで始めざるを得ないと言う [6-150]。

ロシア語においては現実区分を表す代表的なものがいま扱っている語順である。語順以外の補足的な手段にはイントネーション、さらに助詞、特定の構文がある [9]。

以上から、文の成分が文中常に一定の位置を占めるわけではないという意味では語順は自由だが、現実の文章を考えると、文の成分は文脈、コミュニケーションの課題に従って定まった位置をとり、語順は自由ではないと言えよう。

2.0

ところで、語順は文の統語構造および現実的区分のレベルで機能する。上で現実区分について概観したので、今度は統語的な構造の面からも文をみよう。

文を文成分から分類すると、述語と主語とのある文、主語のない文に二分されよう。さらに述語を、単純述語と合成述語とに二分できる。これは結局伝統文法の分類である。

単文

一肢文

二肢文 述語 { 単純述語 動詞述語
 合成述語 { 名辞述語
 動詞述語

(一般に、語順の問題を検討するにあっては、最初に状況、文脈に最も捕われない文における語順を取り上げ、次に、状況、文脈に影響された文を検討するのが妥当であろう。

本稿では文脈に捕われない文、しかも合成名辞述語を持つ文の一部を取り上

げて、語彙・意味的な要因と語順の関係を探る糸口を得たいと思う。)

ここで合成述語とは連辞および連辞と結びついた成分との二つの成分からなる文である。この文においては連辞が文法的なカテゴリーを表すことをその第一の機能としているのに対して、連辞に結びついた成分は語彙的意味を表すことを第一の機能としている。

合成述語には動詞述語と名辞述語の二つがある。動詞述語については助動詞的な語と動詞不定形からなると言うにとどめよう。

名辞述語とは一般に、連辞に結びついた成分が名辞(名詞、形容詞、数詞)、人称代名詞等によって表されているものを言う。

これらの文においても、中立的な語順の文では、テーマは文中第一位に立ち、レーマは文末に来る。さらにレーマには常にイントネーションの中心が来る。

Море было пустынно. 中立的語順 テーマ→レーマ

Пустынно было море 強調の語順 レーマ→レーマ

イントネーションの中心は文頭にある。

これらのうち主語も述語も名辞、とくに名詞によって表現されるものを見てみよう。主語も述語も名詞の場合には連辞が半自立的でないかぎり、主語、述語という文の成分、つまりこの場合、テーマ、レーマを決定するのは位置になる。これはロシア語において、語順が文の成分を決定するという稀な例の一つとなる。[4-164] この場合名詞は両方とも形態的な特徴から、同時に二つの機能を果たす可能性を示しているからである。

Сестра—врач. 主語—述語の順 (その) 姉は医師です。

Врач—сестра. 主語—述語の順 (その) 医師は姉です。

この場合も、ふつうの語順では述語は第二位を占める。第一位になるのは倒置の時である。

Сибирь — богатейшая страна. 正語順

Богатейшая страна — Сибирь. 倒置 このとき述語は句アクセントをになわなければならない。主語は弱いアクセントしか伴わない。

では、主語も述語も名詞のとき、語順のみが統語的機能を果たしているのであらうか。次の例を見よう。

- а) Моя сестра — этот врач. 倒置 述語—主語
Иванова — этот врач. 倒置 述語—主語

- б) Моя сестра — врач. ふつうの語順
Иванова — врач. ふつうの語順

а) б)の差異は、それぞれがイントネーションの点が異なること、および б)では、врачが一般の概念を指し、特定の人物の名前になっていないことから判断できる。この場合には述語に指示代名詞этотを付けることは不適當である。

а) б)の文で見るように、名詞と名詞が主語と述語（テーマ、レーマ）になっている場合であっても語順は決定要因にはなっていない。それ以外の要素の影響みられる。

実は、合成名辞述語には下に見られるように基本的に2つの関係があるのである。

- (1) 同一名詞が主語と述語になっている場合を典型的な例とするが、主語が述語の表す概念に含まれる場合である。

Дети есть дети. 主語—述語の順 （それらの）子供は子供。 [8-154]

主語となる名詞は通常外延が狭く、特定の対象をさすのに対して、述語となる名詞はより広い類概念を表したり、質的な特徴付けを行ない、事物の状態を表す。

- (2) もう一つの関係は同一性、同値を示す関係である。この場合には述語には、固有名詞のような特定のものを指す名詞が立ちうる。

в) Этот врач — моя сестра. この医師は私の姉です。

Этот врач и есть Иванова. この医師こそイヴァノヴァなのです。

Этот врач — Иванова. この医師はイヴァノヴァです

- (2)の場合も上で見たように倒置になる

Иванова — этот врач. イヴァノヴァなのですこの医師は。

Моя сестра — этот врач. 私の姉なのですこの医師は。

上の文の主語のврачは類概念をさしていない。そのことをэтотの存在が示している。〔10〕〔4-67〕

このように同一性を示す文では述語が外延の広い語になる場合にはそれを狭める要素が必要である。このような文で человек, животное, вещь, люди, народ, штука, делоなどを用いると、実質的な意味を失い統辞論的な結び付きを示す手段になる。

Он — неглупый человек.

Лиса — хитрое животное.

Гимнастика -- вещь полезная.

Ловкая штука — умишко человеческий. ой ловкая! 倒置

Хитрейшая старушонка — эта ваша Шмит. 倒置

さらに、 мечта, цель, дело, задача, принцип など、先行の文書を指摘することを前提とする、一定の語彙グループが述語になると、それはテーマの機能が普通である〔7-513〕。

Мечтой его детства было иметь сенбернара.

このように、語の語彙・意味は微妙に主語、述語、テーマ、レーマの区分に影響していることがわかる。

以上、テーマ、レーマと言う問題より、主語、述語と言う文の成分の問題に重点をおいて記述した。論理関係、語彙・意味関係と現実的分析には一定の関係があることが伺われた〔11〕。厳密には主語、述語とテーマ、レーマとがずれる場合の可能性、拡大要素の問題、連辞との関係などを考察する必要がある。それらの問題については別の機会に譲りたい。

※ 拙稿中の〔 〕は注を、[] は文献を示す。[] 内の最初の数字は文献番号を、次の数字はその文献におけるページを表す。

注

1. 本稿の目的は、ロシア語の語順全般について概括することと、合成名辞述語

における語順と語彙の関係の実態を探ることにある。合成名辞述語を特に選んだのは、すでに動詞述語については Ковтунова И.И. Порядок слов и лексико-семантическая структура предложения. — Грамматическое описание славянских языков. М., 1974. に研究があり、その結果との照合関係を探れること、さらにロシア語の統語的關係のなかで最も基本的な文のタイプの一つであることによる。小稿は我々の次の研究の準備段階となるものである。

2. 80年文法 [2] では、成分の考えが否定され、文を語のレベルでの構成要素の種類によって分類しているが、ここでは伝統文法で言うところの成分を指す。
3. 辞典 [3] 扱いに差があり、時に文体、時に品詞の差異としている。
4. ふつうコミュニケーションの組織の観点から見た文のことを высказывание 発話と言う。発話については、Ковтунова И.И. の上記の文献や Гак В.Г. Высказывание и ситуация. — Проблемы структурной лингвистики, 1972. などに詳細な記述がある。語順論の歴史、訳語の適否については本稿では割愛する。
5. Адмони В.Г. Формы, факторы и функции порядка слов — Грамматическое описание славянских языков, М., 1974. は、語順の研究の方法論についての述べ、さらに、律動・イントネーション的要因、形態的要因、話し手認識的志向 установка など合計 8つの要因を挙げているが、本稿では最も主要なものにとどめた。
6. [5-6] を援用した。
7. 物語や章の出だしなどで、聞き手や読み手に「未知の情報」をあたかも「既知」であるかのように呈示する文学的な手法や、また出来事の発生、物事の生起や事実の確認などの文（シャルル・バイイ著『一般言語学とフランス言語学』岩波書店、小林英男訳参照）など、新旧情報の区別とテーマ、レマは一致しなくなる。
8. [5-9/5-10] を援用した。
9. 特定の構文や助詞には以下のものなどがある。
что касается + 生格, то (この言い回しは従属文に似ているが、全構文

が助詞である。従って、toに後続する部分の時制の如何を問わず常に
касаетсяである) さらに、что до + 生格。助詞 to、жеなどがある
[Белошапкина В.А. и другие Современный русский язык . М.,1981. стр.
505]

10. [4-66] を援用した。

11. [4-164,4-165] には、語順が文成分を決定する稀な例。語彙・意味と語
順、主語・述語との関係について以下のような記述がある。

語順は重要な統語的機能を果たし、

Дуб заслоняет ель.という文では最初の語がふつう主語とされる。しか
し、これも一つの傾向を示すに過ぎず、絶対的とは言えない。下にみる例
ではこの傾向も打ち消されている。

Дуб заслоняла ель. Дуб заслоняет старая ель.

このように語や文全体のの意味が主語を決定することは稀ではない。

Солнце закрыло облако.

Ровно в шесть часов ночь сменяет утро.

Лес освежил дождь.

または文脈の助けによることもある。

Отца любит сын, а мать любит дочь.

Не падайте духом:гре сменит радость!

引用および参考文献

1. Леонтьев А.А. Путешествие по карте языков мира.М.,1981.
2. АН СССР Русская грамматика.М.,1980.
3. АН СССР Институт русского языка Словарь русского языка в четырех
томах. М.,1983.
4. Гвоздев А.Н. Современный русский литературный язык.М.,1973.т2.
5. Ковтунова И.И. Русский язык/Порядок слова и актуальное членение
предложения.М.,1976.
6. Валгина Н.С. Синтаксис современногго русского языка. М.,1978.
7. Шведова Н.Ю.и другие Краткая русская грамматика.М.,1989.
8. Jespersen O. The Philosophy of Grammar .New York,1965.

1. はじめに

本論ではマレーシア語の自動詞構文と他動詞構文に就いて、主として通常の語順のパターンとはその布置を異にする有標な語順、即ち所謂倒置構文に課せられる様々な制約という観点からのアプローチをするつもりである。論の展開の中で、これまで無批判に倒置文であると考えられてきたものの幾つかの構文に再検討を加え、それらに別の解釈が有り得ることを示すつもりである。又、他動詞構文の中のあるグループは能格構文と呼ばれるものであることを主張すると共に他のKE-AN構文やTER-構文にもこれらと同類の能格構文が存在することを示す。

本論では説明の簡略化の為に若干の略号を使用する。それらの略号と意味は次の通りである。

T : 主題	O : 目的語
S : 主語	M : 修飾要素
V : 動詞	ADP : 副詞句
AD : 副詞	ADC : 副詞節
ABS : 絶対格	

2. 通常の語順と倒置

2.1. 自動詞構文

大部分の自動詞構文の基本的なパターンは、次の(1)が示す如くS + Vであり、VがSの前に出る、即ち倒置が起こる時には、通常(2)の様に前置したVに強勢辞の-lah が付加される。

(1) Budak-budak itu sedang berenang.

子供達は泳いでいるところです。

(2) Tibalah mereka di sebuah bukit kecil. ¹⁾

(終に) 彼等は或る小さな丘に辿り着いた

しかし乍ら、存在、運動、出現を表す自動詞の一部には、意味上の主語が動詞の前にも後にも自由に現れるという特徴を有するものがある。次に掲げる例は孰れも動詞の後に意味上の主語が現れている場合である。

(3) Tetapi kemanisan itu hampir terusik bila suatu malam berlaku sesuatu yang nyaris menjahanamkan diriku. ²⁾

しかし、或る晩私の身に振り掛かった私を絶望のどん底につき落とすよ

うな事件の為にその甘美な陶酔の夢は破られそうになった。

- (4) “Apabila datang musim hujan ,aku akan jualkan gandum ini dengan harga dua kali ganda ,” fikir saudagar itu.³⁾

「雨期が来たら、この小麦を倍の値段で売ろう」とその商人は考えた。

- (5) Malam kelemarin ada rumah terbakar. ⁴⁾

一昨日の晩火事で家が焼けた。

- (6) Di sebuah negeri Arab ada seorang saudagar yang sangat pandai berniaga tetapi tamak. ⁵⁾

アラビアの或る国に一人の商才に長けてはいるが欲張り者の商人が居りました。

- (7) Di pinggir sebuah hutan tinggal dua porang peladang. ⁶⁾

森の外れに二人の耕作人が住んで居りました。

- (8) Di bawah pokok itu terdapat sebuah telaga yang jernih airnya. ⁷⁾

その木の下に水が澄んだ一つの井戸がありました。

- (9) Sedang mereka berbual-bual itu, melintas seorang gadis yang cantik di hadapan mereka. ⁸⁾

彼等がお喋りをしているところへ一人の綺麗な女の子が前を通り過ぎた。

これらの例は、(2)とは異なり、自動詞に強勢辞の-lahが付加されていない。このことは、この構文が意味上の主語が動詞の前に出た文から派生した倒置文ではないことを示している。

意味上の主語がこれらの動詞の前に出ている例を掲げることにする。

- (10) Oleh kerana tempat itu aman dan tenteram ,maka labah-labah itu terus tinggal di ladang itu ⁹⁾

その場所は安全で気が休まる場所だったので、蜘蛛達はその儘そこに住み着いた。

- (11) Kakak saya tidak ada di sini.

姉さんは此処には居ません。

- (12) Ahli-ahli silap mata itu datang bermain di istana. ¹⁰⁾

その手品師達は宮殿へ手品を披露しにやって来た。

以上の例を眺めてみると、動詞の後に意味上の主語が来ている場合、その主語は不定名詞であることが多く、逆に、動詞の前に意味上の主語が来ている場合、その主語は定名詞であることが多いと言える。もしすべての場合を通じて、動詞の後には不定名詞のみが現れるのであれば、ここに‘Definiteness Effect’の原則

が当て嵌まるから、動詞の後にある意味上の主語は θ 連鎖で結ばれた空範疇の主語の位置から格を受け継ぐという格付与の方式を採ればいいことになる。しかし乍ら、これらの類いの動詞は、次の例の様に、動詞の後に定名詞が来ることもあるので、従って又、‘Definiteness Effect’の原則が当て嵌まらないことになる。そうであれば、動詞の後に位置している名詞はこの位置で格を付与される何らかの方式を考える必要がある。

(13) Marilah kita berdoa kepada Allah hubaya-hubaya janganlah datang lagi bala itu.¹¹⁾

アラーの神にどうぞ二度とこの様な災厄が起こりません様にと祈ろうではないか。

その方式の一つとしてKenneth J. Safir(1985)が主張する様な格付与の方式、即ちINFLから主格を得た無形の主語接辞が今度はそれを動詞の後の名詞に付与するという方法が考えられる。マレーシア語に於いては(14)の如く他動詞に付加される主語接辞はあるが、(15)の様に自動詞に主語接辞が付加された形はない。

(14) Kubaca buku itu.

私は本を読んだ。

(15) *Kupergi ke sekolah.

「私は学校へ行った」の意ではアウト

このことから、他動詞との釣り合いの面でも自動詞には本来的に無形の主語接辞が付加されていると考えることはそれ程アド・ホックな前提ではない。従って、この前提に立てば、(3)から(9)迄の例の様な動詞の後に意味上の主語が来ている形では、INFLによって主格を得た無形の主語接辞がこの動詞の後の名詞に主格を譲渡するという方式を考えることができる。そして、これとは異なり、

(10)から(12)の様に動詞の前に意味上の主語がある形の場合には、INFLから直接に主格を付与されると考えることができる。この様な格付与の前提に立てば、この類いの動詞に於いては、動詞の右の位置と左の位置とは格付与を受けられる資格という観点から見れば、全く対等であると言うことができる。つまり、どちらかの形が基本の形であって、他方はその倒置した形であると考えられることはできなくなるということである。

この類いの動詞には、更に次の例に観られる様なV(-lah) + Sの形も出現する。

- (16) Pada suatu hari datanglah rombongan dari Pahang hendak menyatukan di antara Raja Umar dengan Raja Fatimah.¹²⁾

或る日パハンからの一行がウマル王子とファティマ王女を結婚させる為にやって来た。

これは次の様な形から動詞の 'datang' が主語の前に出てきたものと考えられる。

- (17) Pada suatu hari rombongan dari Pahang datang ...

次に、自動詞構文の倒置を種々の要素の前置の可能性とその制約という面から眺めてみることにする。先ず自動詞だけを主語の前に前置させる場合から考えてみる。この場合には前置に際しての制約は無く、どんな場合でも可能である。次はその例である。

- (18) Masuk Aminah ke dalam bilik.

アミナは部屋に入った。

- (19) Sembahyang dia di rumah semalam.

昨日彼は自分の家で祈祷をした。

- (20) Pergi guru itu ke pasar pagi tadi.

その先生は今朝市場へ行った。

今度は自動詞と A D P を一緒に主語の前に前置させる場合を考えてみよう。この場合には、動詞と密接な関係を有する A D P、即ち動詞を下位範疇化する A D P を動詞と一緒に出すことは次の例に観られる様に可能である。

- (21) Pergi ke pasar guru itu pagi tadi.¹³⁾

今朝その先生は市場へ行った。

- (22) Akan berlepas ke Mekah emaknya dengan kapal terbang besok.

彼の／彼女のお母さんはメッカへ飛行機で明日旅立ちます。

しかし乍ら、動詞の下位範疇化に関連しない A D P を動詞と共に前置させることは不可能か若しくはかなり許容度の低い文を派生させることになる。例えば、次の様子がそれである。

- (23) * Sembahyang semalam dia di rumah.

彼は昨日家で祈祷をした。

- (24) * Pergi pagi tadi guru itu ke pasar.

その先生は今朝市場へ行った。

- (25) ? Sembahyang di rumah dia semalam.

彼は昨日家で祈祷をした。

(26) ? Akan berlepas ke Mekah dengan kapalterbang emaknya besok.

明日彼の／彼女のお母さんはメッカへ飛行機で旅立つ。

(27) * Akan berlepas ke Mekah besok emaknya dengan kapalterbang.

飛行機で彼／彼女のお母さんは明日メッカへ旅立つ。

今度は、自動詞句全体を主語の前に出す場合に就いて考察してみる。この場合述部が動詞と動詞を下位範疇化するADPだけから成っている時には、(21)、(22)が許容される文であったのと同様に、許される。次例を参照されたい。

(28) Pagi tadi pergi ke pasar guru itu.

今朝その先生は市場へ行った。

述部が動詞の下位範疇化に関係の無いADPを少なくとも一つ含んでいる場合には、(23)から(27)迄の文が許容されない文であったのと同様にして、許されない。次例を参照されたい。

(29) * Sembahyang di rumah semalam dia.

昨日家で彼は祈祷をした。

(30) * Akan berlepas ke Mekah dengan kapalterbang besok emaknya.

メッカへ飛行機で明日彼の／彼女のお母さんは行きます。

しかし乍らもし(29)、(30)の文を次の様に変えれば許容される形となる。

(31) Sembahyang di rumah semalam akan dia.

昨日家で彼は祈祷をした。

(32) Akan berlepas ke Mekah dengan kapalterbang besok akan emaknya.

メッカへ飛行機で明日彼の／彼女のお母さんは行きます。

これらの両文に於ける‘akan’は出遅れて後で付け足された主題を示している。

次にADPの主語の前への移動に就いて考えてみる。ADPの前置はそれが動詞を下位範疇化するものであれ、そうでないものであれ、どちらも自由である。次例を参照されたい。

(33) Ke Mekah emaknya akan berlepas dengan kapalterbang besok.

メッカへ彼の／彼女のお母さんは飛行機で明日行きます。

(34) Dengan kapalterbang emaknya akan berlepas ke Mekah besok.

飛行機で彼／彼女のお母さんがメッカへ明日行きます。

(35) Besok emaknya akan berlepas ke Mekah dengan kapalterbang.

明日彼／彼女のお母さんがメッカへ飛行機で行きます。

そして又、次の例が示す様に、ADPを二つ以上同時に前置させることも可能で

ある。

(36) Ke Mekah dengan kapalterbang emaknya akan berlepas besok.

メッカへ飛行機でお母さんは明日出発します。

(37) Besok dengan kapalterbang emaknya akan berlepas ke Mekah.

明日飛行機で彼の／彼女のお母さんはメッカへ出発します。

(38) Ke Mekah dengan kapalterbang besok emaknya akan berlepas .

メッカへ飛行機で明日彼の／彼女のお母さんは出発します。

以上観てきたのは平叙文の倒置のパターンであったが、これを疑問倒置のパターンと比較してみよう。疑問文に於ける倒置のパラダイムを示すと次の如くである。尚、訳文中下線を施した部分はそこが疑問の焦点と成っていることを示している。

(40) Masuk ke dalam bilikkah Aminah ?

アミナは部屋に入りましたか？

(41) * Sembahyang di rumah semalamkah dia ?

彼は家で祈祷をしたのは昨日のことですか？

(42) Sembahyang di rumahkah dia semalam ?

彼が昨日祈祷をしたのは家ですか？

(43) Sembahyang semalamkah dia di rumah ?

彼が家で祈祷をしたのは昨日ですか？

(44) Ke Mekahkah emaknya akan berlepas dengan kapalterbang besok ?

彼の／彼女のお母さんが飛行機で明日行くのはメッカですか？

(45) Dengan kapalterbangkah emaknya akan berlepas ke Mekah besok ?

彼の／彼女のお母さんがメッカへ明日行くのは飛行機でですか？

(46) Ke Mekah dengan kapalterbangkah emaknya akan berlepas besok ?

メッカへはお母さんは明日飛行機で出発するのですか？

(47) Dengan kapalterbang besokkah emaknya akan berlepas ke Mekah ?

飛行機でお母さんは明日メッカに旅立つのですか？

(40) は動詞と動詞の下位範疇化に関連する A D P を共に主語の前に移動させた形であり、これは平叙文の場合と同様に許容される。(41) は動詞と動詞の下位範疇化には関係しない A D P と A D を共に主語の前に移動させたものであるが、これも平叙文の場合と同様に非文となる。(42) は動詞と動詞の下位範疇化に関与しない A D P を共に主語の前に出した形であるが、対応する平叙文の倒置の形が許容度が低いのに対して、こちらの方は許容される形である。(43) は、動詞と A D を共に主語の前に出した形であるが、これも疑問文の場合には許

それに対して、次の様な平叙文は許されない形である。

(48) * Sembahyang semalam dia di rumah.

昨日祈禱を彼は家で行った。

即ち、平叙文の場合、動詞と一緒に前置し得る要素は動詞を下位範疇化するADPか、動詞と密接な関係を持つADに限られると言える。この原則に依り、次の(49)と(50)は文法的な文となるが、(51)は排除される。

(49) Bermain dengan buaian budak-budak itu di taman.

ブランコ遊びを子供達は公園でした。

(50) Membesar dengan cepat pokok itu.

速く成長するその木は。

(51) * Bermain dengan buaian di taman budak-budak itu.

ブランコ遊びを公園でした子供達は。

(51)が排除されるのは、動詞の下位範疇化には関与しない‘di taman’という句が動詞と一緒に主語の前に前置しているからである。(44)と(45)はADP若しくはAD一つが疑問の焦点として前置されている例であるが、対応する平叙文の倒置の場合と同じく許される形である。(46)と(47)はADP二つ、或いはADP一つとAD一つの組合せが前置したものであるが、これも対応する平叙文の場合と同じく、許される形である。

2.2. 他動詞構文

マレーシア語の他動詞構文は、大きく分けてME-形と人称形の二つのグループになる。前者は次の(52)が示す如く、語根に付加された接頭辞のME-によって特徴付けられる動詞のグループを指し、後者は、次の(53)が示す如く、語根とそれに付加される人称接辞或いは人称代名詞によって特徴付けられる動詞のグループを指す。

(52) Saya sudah membaca buku itu.

私はその本を既に読んだ。

(53) Kubaca/Saya baca buku itu.

私は本を読んだ。

上記(52)のME-形構文の目的語である‘buku itu’を主題化によって前置させると次の(54)を生じる。

(54) Buku itu, saya sudah membacanya.

その本は私は既に読んだ。

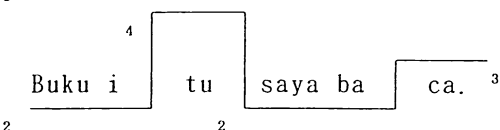
それでは、次の(55)も同様に、(53)の‘buku itu’が主題化変形によって前置した形として捉えていいのであろうか。

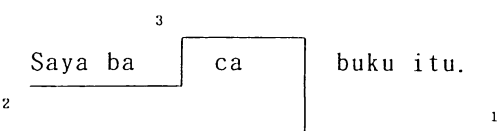
(55) Buku itu kubaca/saya baca.

その本を私は読んだ。

これに関して, Asraf H. Wahab(1988) では, 音調パターンの面から (53) の様な文が他の倒置文の音調パターンと同じ音調を示すところから, (55) の述部を倒置させて文頭に出したものが (53) であるという主張をしている。

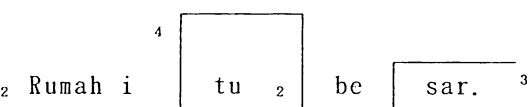
今, Asraf H. Wahab(1988) に従って (55) と (53) の音調パターンを示すと次の様になる。

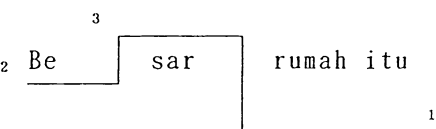
(56) 

(57) 

(56) は (58) の様な通常の語順の文と同じ音調パターンを示すのに対して,

(57) は (59) の様な倒置文した文と同じ音調パターンを示す。

(58) 

(59) 

もし (56) と (57) の間に見られる音調パターンの違いが, (58) と (59) の構造上の相違とパラレルな関係にあると想定すれば, (57) の様な文は (56) の様な文を倒置させたものということになる。勿論, (57) や次の (60) の様に意味上の目的語が定名詞となっているものは, 主題としての地位を獲得しやすい名詞であるからそのような考えとは旨く整合する。

(60) Maka oleh hamba Seri itu diambilnya tulisan ramal itu, segera dibawanya kepada tuannya. ¹⁴⁾

それでスリの従僕はその占文を記したものを受け取ると早速に主の所へとそれを持って行った。

そして又, 実際に (59) の様な構文に於ける, 動詞の後に現れる意味上の目的

語の主題との関連を示唆する例も存在する。例えば、次の（６１）では意味上の目的語の前に前置詞の‘akan’が見られる、これは（６２）に現れる主題を示す‘akan’と関連があると考えられる。

（６１）Maka oleh hamba raja itu lalu diupahnya akan orang tua itu, disuruhnya pergi menawar isteri saudagar itu. (下線筆者) ¹⁵⁾
それで王様の従僕はその老女に金を渡しその商人のおかみさんを旨く騙す様に命じた。

（６２）Maka pada suatu hari hamba diam di dalam sangkaran hamba ,maka datanglah seekor kucing ditangkapnya hamba,shahadan ,akan hati hamba pun dikeluarkannya lalu dimakannya. (下線筆者) ¹⁶⁾
抑或る日私が籠の中に居りますと一匹の猫が参りまして私を捉えました、そして、私の心の臓を取り出しますとそれを食べてしまったのでございます。

又、次の例も主題が‘akan’で導かれているが、こちらの方は（６２）とは異なり、意味上の動作主が主題として前置している。そして、この場合には主題化された動作主は動詞の接尾辞の形で代名詞のコピーを元の位置に残している。

（６３）Mka akan isteri saudagar itu segeralah dihamparkannya tikar yang amat indah-indah dengan seperti adat raja-raja. ¹⁷⁾
それで、商人のおかみさんは早速にその立派な素晴らしい絨毯をば宮廷流に敷いた。

（６２）の文を参考にして考えると、（６１）の文は次の様な文に於ける‘akan’に導かれる主題の‘orang tua itu’が動詞の後の位置に移動したと考えられる。

（６４）Maka oleh hamba raja itu akan orang tua itu lalu diupahnya, disuruhnya pergi menawar isteri saudagar itu.

しかし乍ら、次の様な動詞の後の意味上の目的語が定名詞となっていない例も存在する。

（６５）Maka pada suatu hari tiada diketahui raja ,diambil oleh Seri sehelai sapu tangan terlalu baik sujinya itu. ¹⁸⁾
抑或る日王様に気付かれぬ様スリは占文を刺繍してある一枚の手巾を取り出した。

(66) Maka setelah dilihat oleh baginda cincin itu ,maka ia pun
terlalu sukacita lalu diambilnya akan anak raja itu menjadi
anaknya serta dikurniainya persalinan.¹⁹⁾

その指輪をご覧になって王様は大層お喜びになりその王子を養子にな
さり着衣一式を御下賜になった。

以上のことを総合して考えると、動詞の後に定名詞が来ている場合には、それは
主題から移動してきたものと考え、一方、動詞の後に定名詞以外のものが来てい
る場合には又別の由来を考えるというのは、余りにもアド・ホックな説明の方法
であろう。動詞の後に不定名詞が来ている場合、その出自を主題に求めるのには
無理があるから、その不定名詞は移動によってその位置を占めることになったの
ではなく、最初からその位置を占めていたと考えるのが妥当であろう。不定名詞
の場合との整合性という点からは、定名詞の場合にも同様に、最初から動詞の後
の位置を占めていたと考えなければならないだろう。こういう考えに立てば、先
程の(57)は,Asraf H. Wahab(1988)で主張された様に、(56)の倒置形であ
るという考えは逆転することになる。即ち、(57)の方が基本の形であり、

(56)はこれに主題化変形が掛かることにより生じたものであると考えなくて
はいけないだろう。動詞の後にあった定名詞が主題化により左方に出た例を次に
挙げる。

(57) Maka akan burung dua ekor itu pun diberinya makan kepada
tangan patung itu sehari-hari hingga besarlah anak burung itu
...²⁰⁾

彫刻師はその二羽の鳥達が毎日その像の手から餌を食べるようにさせ
たので、臈その鳥達は成長して大きくなった。

(58) Maka Seri Dewa Raja menyeru anaknya katanya, 'Umar ,Umar, naik
kuda itu.' Maka kuda itu pun dinaiki oleh Tun Umar.²¹⁾

それでスリ・デワ・ラジャ王は王子に「これウマルや、馬に乗ってご
らん」と言った。それでウマル王子は馬に跨った。

最初の例の(57)では、主題に特徴的に現れる‘akan’が主題と共に出ている。

(58)では、主題と‘pun’が一緒に現れている。この‘pun’は又、(57)に
も現れている。この小辞も‘akan’と同じく、主題を特徴付ける語であると考えら
れる。この小辞の‘pun’が主題と関わっているということは、次の様な例を見れ
ば、分かる。

(69) Maka pandai emas itu pun pergilah ia pada tempat itu lalu diambilnyalah ditanamkan kepada tempat yang lain pula. ²²⁾

それでその金細工師はそこに出かけて行ってそれを取り出し又別の場所に埋めた。

ここでは、‘pun’ が付加されている主題の ‘pandai emas itu’ が元の位置に ‘ia’ という代名詞のコピーを残している。この例を参考にして類推すると、‘pun’ が付加された主題は動詞の後から主題化により前置されたことを示していると言えそうである。例えば、先程の (68) の後半の文は、次の様な文から主題化により ‘kuda itu’ が前置することにより派生したと考えられる。

(70) Maka dinaiki oleh Tun Umar kuda itu.

次例の後半部も動詞の後の位置から主題化により ‘budak itu’ が前置したと考えられる。後に残された代名詞のコピー ‘-nya’ が ‘budak itu’ の元占めていた位置を示している。

(71) Budak itu pun ditangkap dan diikatkedua belah kakinya. ²³⁾

それでその子は捕らえられ両足を縛られた。

マレーシア語に於いては、主題化は元の位置に代名詞のコピーを残すということは他の構文に於いても見られる共通した特徴である。例えば次の様な形容詞構文に於いてもこの特徴は看取される。

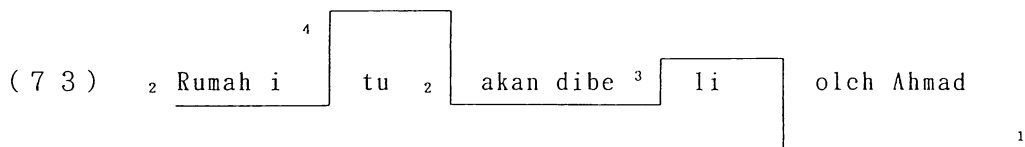
(72) Kedua-duanya sangat baik parasnya dan cerdik-cerdik pula. ²⁴⁾

二人の子供は両方とも顔立ちが良く、その上聡明でもありました。

この例に於いても、主題である ‘kedua-duanya’ は、元々は ‘paras’ の後の位置で所有格の資格を有していたものが前置したものである。

以上のことから、(56) は、Asraf H. Wahab の主張とは逆に、(57) の主題化による倒置形と考えざるを得ない。しかし乍ら、もしこの様な立場を取るとすると、(57) が音調パターンの面で他の倒置構文と同じパターンを取るという事実を如何に説明すべきであろうか。それに対する一つの解決策として、

(57) は、主題－題述文の題述部だけの構文であると考えることができると思う。Asraf H. Wahab(1988)では、通常の構文、即ち倒置が起こっていない構文の音調パターンは(58)で見たように、2－4－2－3というパターンが標準的パターンとして挙げられている。しかし乍ら、述部が幾らか複雑になっている次の様な文ではの音調パターンは2－4－2－3－1になるという。

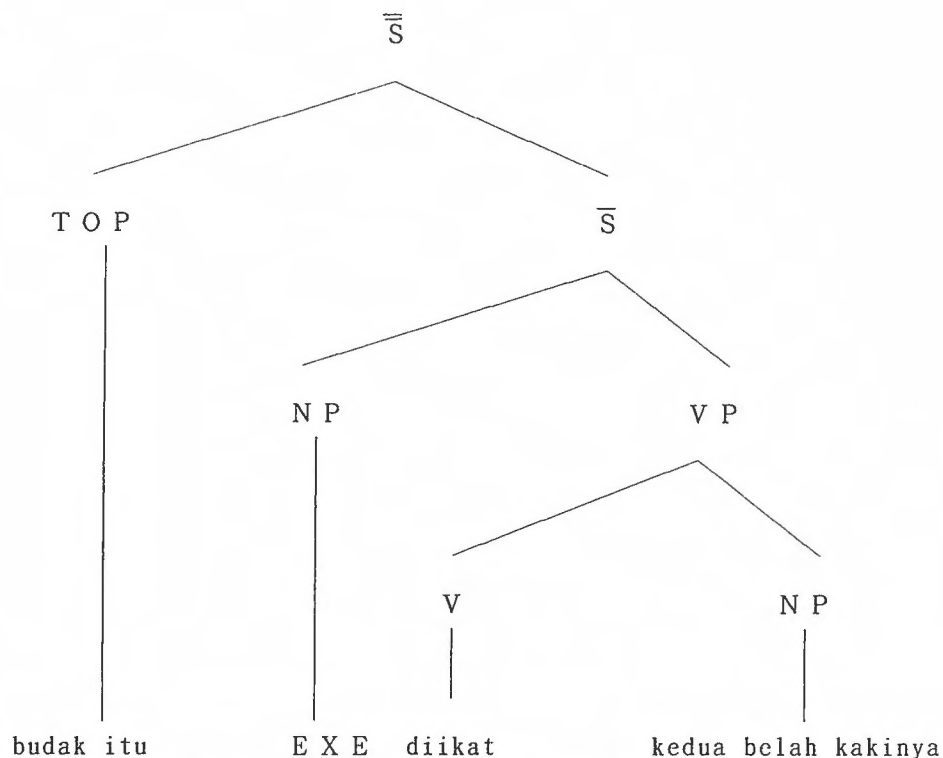


この文の後半部，即ち述部の音調パターンは2－3－1となっており，このパターンは先に見た（57）の音調パターンと一致している。従って，一見すると，倒置構文の音調パターンを示していると考えられていたものは，実は，述部だけから成っている文の音調パターンであると考えれば，本論の立場を支持する証拠となる。（57）がこれまで考えられてきた様に，（56）からの主題の右方への移動の結果派生したものではなくて，寧ろ（56）の主題文の派生の土台となる構造であるということになれば，この構造に於いて動詞の後に位置している名詞句はこの位置で格を取得すると考えられる。Paul J. Hopper(1983)に依れば，（57）の様に人称接辞或いは人称代名詞に先行される語根動詞で始まる構文は能格構文であるという。もしこのPaul J. Hopper(1983)の説に従うならば，動詞の後方に位置する名詞句の獲得する格はABS（絶対格）であると考えられる。そして動詞の後の位置で直接格を付与された名詞句はTの位置に移動することが可能である。この移動が可能であるのは，Tの位置がA位置ではないのでこの位置では格付与が為されないから，従って同一の名詞句が二カ所で異なる格を付与されることがないからである。そして，この能格構文の不在主語の位置には，Kenneth J. Safir(1985)がpro 脱落言語の不在主語や自由倒置構文の不在主語に対して提案したEXE（冗語的無形の代名詞）が充填されていると考えれば，次の（74）の構造は（75）に示す様なものとなるであろう。

（74）Budak itu diikat kedua belah kakinya.

その子供は両足を縛られた。

(75)



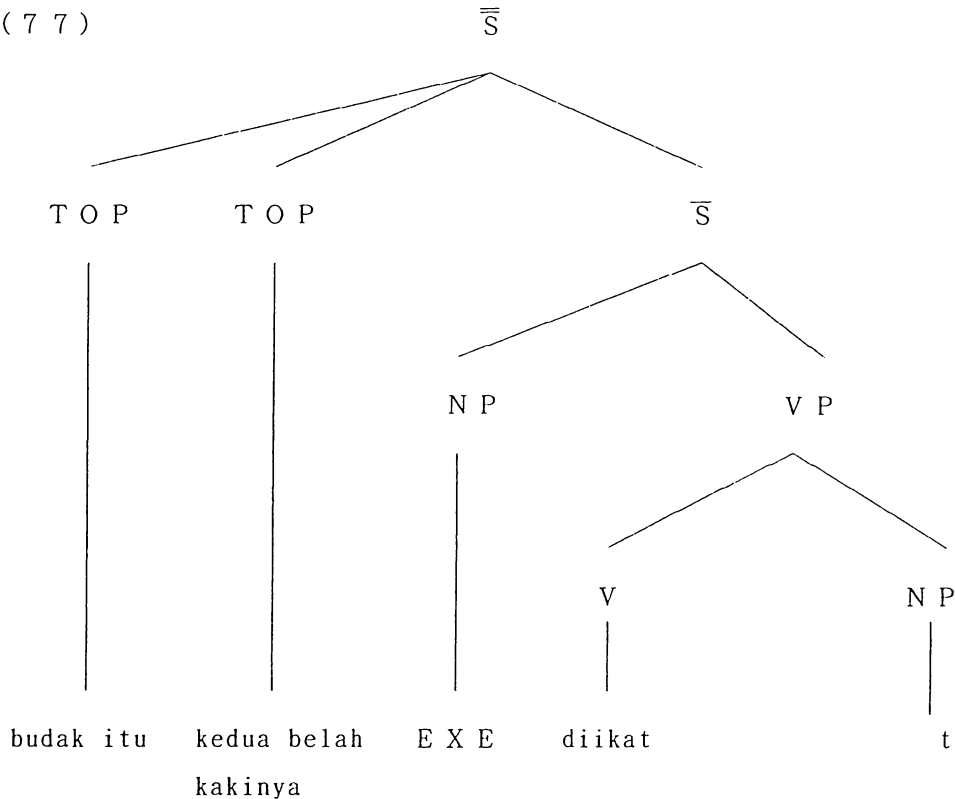
(74)とは別に次の様な形もありうるが、この場合には‘kedua belah kakinya’は(75)の樹形図に於けるEXEの位置を占めているのではなく、‘budak itu’と並ぶ主題であると考えられる。その理由としては、‘kedua belah kakinya’が意味解釈の面でも主題として機能しているという事実を挙げることができる。更に、もし(76)の‘kedua belah kakinya’が主語の位置を占めているとすれば、この名詞句は動詞の後のA位置から動詞の直前のA位置への移動という経路を経たことになるが、これは非Aの位置からAの位置へという通常の α 移動の原則に反することになり、望ましい方法ではないということも別の根拠となる。従って、主題化によってそこから移動が可能な位置は動詞の後の位置のみであることになり、(75)に於けるEXEが占めている動詞の直前の位置から主題の位置への移動は許されない移動経路であることになる。

(76) Budak itu ,kedua belah kakinya, diikat.

その子は、足は、縛られた。

今、この(76)の構造を図示すれば(77)の如くである。

(77)

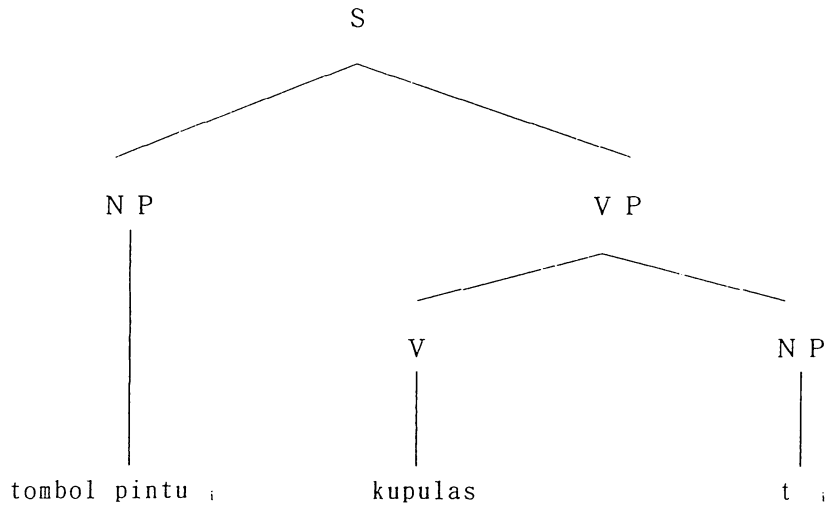


では、次の様な文の下線部の構造はどうなっているのでしょうか。

(78) Ketika tombol pintu kupulas, Ku Izham menghabiskan lafaz doanya yang terakhir kukira, Tangannya diraupkan ke wajah bujurnya, lalu bangun menyangkutkan tikar ke kerusi. ²⁵⁾

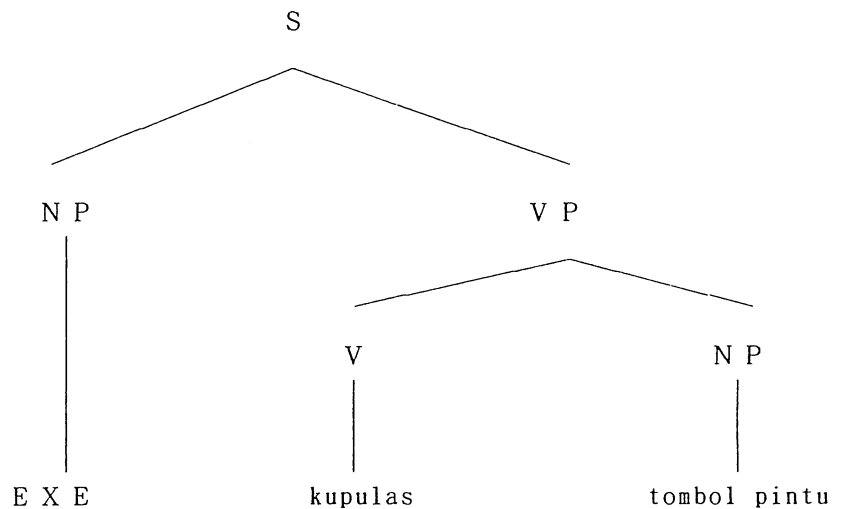
ドアのノブを回すと、ク・イズハムは多分お祈りの文句の最後の部分を唱え終えたところなのであろう。両手を手を細面の顔に当て、立ち上がり、祈祷用の敷物をイスに掛けた。

ここに現れる 'tombol pintu' 及び 'tangannya' は両語とも初出の語であり、主題としての地位は確立していないと考えられるからこれらの語がTの位置にあるとは考えられない。もしT以外の非θ位置を探すとすれば、何もそこに入らなければEXEが充填される場所、即ち動詞の直前の位置を考えることができる。この様に考えると、これまで考えられてきた様に、意味上の目的語が動詞の後に来ている構文、即ち(57)に代表される様な構文は、実は意味上の目的語が動詞の前にある構文、即ち(56)に代表される様な構文の倒置形ではなく、寧ろ逆に、(57)に代表される構文から主題化変形を経て(56)に代表される様な構文が派生すると考えなければならない。以上の結論を踏まえた上で、(78)の最初の下線の部分を図示すれば次の如くである。



動詞の直前の位置，即ち元 E X E が占めていた場所は，非 θ 位置であるから，動詞の直後の θ 位置からこの位置への移動は， θ 位置から非 θ 位置へという α 移動の原則に従っている。又，この位置は通常主格が付与される位置であるが，主格は人称接辞に吸収される為この位置では主格が付与されないことになる。仮にもし，動詞の後の名詞句が移動を行わなかった場合には，動詞の直前の位置には E X E が充填されることになる。これは，非項であるから， θ 役は付与される必要がないので，この非 θ 位置を占めることが可能である。動詞の後の位置からの移動が起らなかった場合の構造を図示すれば，次の如くである。

(80)



2.2.2. ME - 形動詞

本節では他動詞のもう一つのグループである、接頭辞のME-が付加された形の動詞に就いて考察することにする。先ず、動詞だけの前置に就いて観てみる。次の例が認められない形であることから分かる様に、ME-形動詞だけを前置させOを置き去りにすることは許されない。

(81) * Membasuh Aminah pakaian.

着物を洗ったアミナは。

(82) * Menulis dia surat.

手紙を書いた彼／彼女は。

次に述部全体の前置に就いて考察してみよう。もし述部がME-形動詞とOだけから成っている場合には、上の(81), (82)が非文だったのに対してこちらの方は許される形となる。

(83) Membasuh pakaian Aminah.

着物を洗ったアミナは。

(84) Menulis surat dia.

手紙を書いた彼／彼女は。

それに対して、述部がV + O + AD / ADP / ADCの形をしていて、しかもAD / ADP / ADCが動詞の下位範疇化に関与しない或いは動詞と密接な関係を持たない要素である場合には、それらの要素を含む述部全体を前置させることはできない。次の例がそのことを示している。

(85) * Menulis surat di perpustakaan dia.

図書館で手紙を書いた彼／彼女は。

(86) * Membunuh Isabella semalam Amy.

昨日イサベラを殺害したエミーは。

次に述部の一部を前置させる場合を考えてみよう。次の例が示す様に、動詞の下位範疇化に関与する副詞的要素だけをS + V + Oと共に前置させその他の要素を置き去りにするのは許される。

(87) Membunuh Isabella dengan pisau Amy di belakang rumahnya semalam.

ナイフでイサベラを殺害したエミーは家の裏手で昨日。

しかし乍ら、次の例が示す様に、動詞の下位範疇化に関与しない副詞的要素をS + V + Oと共に前置させ動詞の下位範疇化に関与する副詞的要素を置き去りにする形は許されない。

(88) * Membunuh Isabella di belakang rumahnya Amy dengan pisau.

家の裏手でイサベラを殺害したエミーはナイフでもって。

この文が認められないのは、動詞の下位範疇化に關与するADPが置き去りにされたことによるのではなくて、動詞の下位範疇化に關与しないADPがV+Oと共に前置したことによると考えられる。

次にV(+AD/ADP/ADC)を置き去りにしてOだけを前置させる場合を考えてみよう。(89)が示す様に、この様にして派生する文は認められない形である。

(89) * Isabella Amy membunuh dengan pisau di belakang rumahnya
semalam.

イサベラをエミーはナイフで家の裏手で昨日殺害した。

次に副詞的要素を副数個前置させる場合に就いて考えてみる。これは、以下の例が示す様に、可能であり、しかも要素総互間の順序はこの文の文法性には關与しないと言える。

(90) Dengan pisau semalam Amy membunuh Isabella di belakang rumahnya.

ナイフで昨日エミーはイサベラを家の裏手で殺害した。

(91) Di belakang rumahnya semalam Amy membunuh Isabella dengan pisau.

家の裏手で昨日エミーはナイフでイサベラを殺害した。

これまで観てきたのは、全て平叙文の倒置形であったが、これを疑問文の倒置形と比較すると、自動詞の場合と同様若干の相違が見られる。疑問倒置文のパラダイムを次に掲げることにする。

(92) * Menulis surat di perpustakaankah dia ?

手紙を図書館で書いたのか彼／彼女は？

(93) Menulis suratkah dia di perpustakaan ?

図書館で彼／彼女は手紙を書いたのか？

(94) * Membasuhkah Aminah pakaian ?

アミナは洗ったのか着物を？

(95) * Menuliskah dia surat ?

彼／彼女は書いたのか手紙を？

(96) Mahukah saudara kopi susu ?

あなたはカフェ・オレにしますか？

(97) * Membunuh Isabella dengan pisaukah dia ?

イサベラをナイフで殺害したのかエミーは？

(98) * Membunuh Isabella dengan pisaukah Amy di belakang rumahnya
semalam ?

イサベラをナイフで殺害したのかエミーは家の裏手で昨日？

(99) Membunuh Isabella di belakang rumahnyakah Amy dengan pisau
semalam ?

イサベラを家の裏手で殺害したのかエミーはナイフで昨日？

(100) Membunuh Isabella semalamkah Amy dengan pisau di belakang
rumahnya ?

イサベラを昨日殺害したのかエミーは家の裏手で？

(101) Dengan pisau semalamkah Amy membunuh Isabella di rumahnya ?
ナイフで昨日エミーはイサベラをを殺害したのか家の裏手で

(102) Di belakng rumahnya dengan pisaukah Amy membunuh Isabella
semalam ?

家の裏手でナイフでエミーはイサベラを昨日殺害したのか？

(92) は V + O を動詞の下位範疇化に関与しない A D P と共に前置させたものであるが、平叙文の場合と同様にこれは非文となる。一方、(93) は V + O だけを前置させ動詞の下位範疇化には関与しない A D P を置き去りにしたものであるが、こちらの方は許される形である。(94) と (95) は他動詞だけを前置させ O を置き去りにした形であるが、これは平叙文の場合と同様に許されない。しかし乍ら、疑問倒置の場合には、M E - 形動詞ではない幾つかの他動詞がこの形を取ることが許されるようである。例えば (96) に挙げた 'mahu' や 'tahu' がそうである。しかし乍ら、次の様な平叙文の倒置は許されない形である。

(103) * Mahu saya kopi susu.

私はカフェ・オレが欲しい。

(97) は、V + O と動詞の下位範疇化に関与する A D P を共に前置させたものであるが、こちらの方は平叙文の場合とは異なり許されない。(98) から

(100) までの文は、V + O + M という形の述部の一部を前置させたものであり、ここで M は A D P 若しくは A D であり、しかも一個だけ前置させた形である。このパラダイムを観て気が付くのは、平叙文の場合には、M が動詞の下位範疇化に関与する副詞的要素である場合には (87) に観られた様に、許される倒置形になるが、疑問倒置の場合には、それとは逆の現象が看取される。即ち、動詞の下位範疇化に関与する副詞的要素を前置させると非文となる、逆に言えば、動詞

の範疇化に寄与する副詞的要素を置き去りにする必要があるということである。動詞がそれと密接な関連を持つ要素を引き連れて一族全体で移動することは許されないようである。(101)と(102)は副詞的要素を二個一緒に前置させたものであるが、これは平叙文の場合と同様に許されしかもその要素間相互の順序は文法性に関しては影響を与えない。

3. 能格構文の共通の特徴 ——むすびに代えて

所謂人称形その他動詞に就いての項で触れたが、人称接辞若しくは人称代名詞と共に現れる動詞の語根の形の構文は、動詞の直前の位置が非 θ 位置であって、そこに移動によって名詞句が入らない場合には、EXEが充填されるという特徴を有していることを観てきた。そして又、動詞の後ろの位置から主題の位置への移動が起こり、その際には移動した要素の元あった位置に代名詞のコピーが残るという特徴があることも分かった。この所謂人称形動詞の他にも、ほぼ同じ特徴を有する構文がある。先ず最初に、KE-ANの構文から観てみる。KE-ANの構文は、次の様にこの述語動詞の後にも、前にも名詞句が現れるという特徴がある。

(104) Suara penyanyi itu kedengaran dari jauh.

その歌手の声は遠くからでも聞こえた。

(105) Pada musim padi berbuah, kedengaran suara orang bersorak bersaut-sahutan menghalau burung.

稲が実る頃になると人々の鳥追い歌のかけ声が聞かれる。

KE-ANの前に立つ名詞句は殆どの場合定名詞であり、KE-ANの後に立つのは殆どの場合不定名詞である。この定名詞と不定名詞の分布に関する特徴も前節で観た人称形の構文のそれと同じである。又、(105)の様な構文が、述部動詞の前置変形の結果派生した形であれば、通常は強勢辞の-LAHが付くのであるが、実際にはそうなってはいないのであるから、述部動詞の後の名詞句は、人称形の場合と同じく、この位置で格を得ると考えられる。そして、もしこの構文が人称形の一部と同じく、能格構文だとすれば、述部動詞の後で取得する格はABSであるということになる。こういう前提に立てば、(104)の様な構文は最初KE-ANの後ろの位置占めていた名詞句の'suara penyanyi itu'が、もしそうでなければEXEが占める筈のKE-ANの直前の位置へ移動することにより派生したと考えられる。一方、これらの例とは別に、次の様な例もある。

(105) Ramai orang tidak kedengaran suara azan dari masjid yang terletak jauh di tengah sawah itu.

遙か彼方の田んぼの中に建っているので寺院の祈禱を呼びかける声は人々には聞こえなかった。

この構文が能格構文であるとすれば、K E - A Nの直前の位置は非 θ 位置でE X Eが充填されている筈である。従って、この位置には非項しか入れないので、名詞句‘ramai orang’はこの位置には来られないということになる。そうなると、‘ramai orang’は主題の位置を占めていると考えるのが妥当であろう。

接頭辞のT E R - が付いた構文にも能格構文と見做せるものがある。例えば、次の例がそれである。

(106) Sangat tertarik hatinya dengan kecantikan bandar itu.

その都市の美しさに彼は魅了された。

(107) Hatinya sangat tertarik hendak mengambil telur itu.

その卵を盗んでしまいたい衝動に駆られた。

(106) に於ける動詞の後の名詞句はこの位置でA B Sを得ることになる。その後で、もしこの名詞句が、動詞の前のE X Eの占めている位置へと移動すれば、

(107) の様な形の文が派生されることになる。又、次の様な文も存在するが、この文は、動詞の後の名詞句が主題化により直接文頭の主題の位置へ移るというプロセスを経て派生したと考えられる。従って、文頭の‘dia’は主語ではなく、主題であることになる。

註

- 1)Daud Baharum(1989),P. 550.
- 2)Gila-Gila ,1 HB. Disember 1991 ,P. 39.
- 3)Siti Rosnah Haji Ahmad(1986)-a,P. 3.
- 4)Prof.Dr.Asmah Haji Omar(1986),P. 176.
- 5)Siti Rosnah Haji Ahmad(1986)-a,P. 1.
- 6)Siti Rosnah Haji Ahmad(1986)-b,P. 17.
- 7)Siti Rosnah Haji Ahmad(1986)-b,P. 9.
- 8)Sheikh Othman bin Sheikh Salim et al.(1989),P. 239.
- 9)Siti Rosnah Haji Ahmad (1986)-b,P. 19.
- 10)Siti Rosnah Haji Ahmad (1986)-b,P. 3.
- 11)Sheikh Othman bin Sheikh Salim et al.(1989),P. 429.
- 12)Matlob(1980), 18.
- 13)Mashudi B. H. Kader(1981),P. 65.
- 14)R. O. Winstedt(1985),P. 69.
- 15)R. O. Winstedt(1985),PP. 25-26.
- 16)R. O. Winstedt(1985),P. 14.
- 17)R. O. Winstedt(1985),P. 29.
- 18)R. O. Winstedt(1985),P. 69.
- 19)R. O. Winstedt(1985),P. 62.
- 20)R. O. Winstedt(1985),P. 35.
- 21)W. G. Shellabear(1989)P. 149.
- 22)R. O. Winstedt(1985),P. 34.
- 23)Siti Rosnah Haji Ahmad(1986)-b,P. 5.
- 24)Matlob(1980),P. 17.
- 25)Dewan Siswa,Ogos 1990,P. 33.

参考文献

- 1)Prof.Dr.Asmah Haji Omar(1986).Nahu Melayu Mutakhir.Kuala Lumpur:Dewan Bahasa Dan Pustaka.
- 2)Asraf H. Wahab(1988).Intonasi dalam Hubungan dengan Sintaksis Bahasa Melayu (Siri Khazanah Bahasa Bil.8).Petaling Jaya:Sasbad sdn bhd.
- 3)Daud Baharum(1989).An Illustrated Malay-English Dictionary.Kuala Lumpur: Agensi Penerbitan Nusantara.
- 4)Mashudi B. H. Kader(1981).The Syntax of Malay Interrogatives.Kuala Lumpur: Dewan Bahasa Dan Pustaka.

- 5)Matlob(1980).Raja Kesuma Dewi(Cerita Anak-Anak Siri Serikandi).Kuala Lumpur:
Penerbitan Pustaka Antara.
- 6)Safir, Kenneth J. (1985).Syntactic Chains. Cambridge:Cambridge University Press.
- 7)Sheikh Othman bin Sheikh Salim(et al.)(1989).Kamus Dewan.Kuala Lumpur:Dewan
Bahasa Dan Pustaka.
- 8)Sheikh Othman bin Sheikh Salim(et al.)(1989).Kamus Dewan.Kuala Lumpur:Dewan
Bahasa Dan Pustaka.
- 10)Siti Rosnah Haji Ahmad(1986)-a.Saudagar Malang (Siri Cerita Warisan Rakyat).
Kuala Lumpur :Arenabuku sdn bhd.
(1986)-b.Kisah Permaisuri Laut(Siri Cerita Warisan
Rakyat).Kuala Lumpur:Arenabuku adn bhd.
- 11)Winstedt, R. O. (1985).Hikayat Bayan Budiman.Petaling Jaya: Penerbit Fajar
Bakti sdn bhd.

中国語の語順

望月圭子

0. はじめに

中国語は一応分類上はSVOという語順をもった言語とされている。しかし、中国語は、同じSVO言語である英語と比べると、目的語以外の成分がまったく英語とは異なる語順をとる。Greenberg (1963, 1966) で提出された「語順の包含的普遍性」(implicational word-order universals) からみれば、SVO言語が統計的に多くもつとされる特徴にはあまりあてはまらず、むしろ、SOV言語が統計的に多くもつとされる特徴により多くあてはまるのである。このような現象を捉えて、「中国語は完全なSVO言語ではなく、現代中国語はSOV言語への変遷過程にある」という主張が Li and Thompson (1974a, 1974b, 1975, 1981) をはじめとしてしばしば提出されている。

本稿では、まず中国語の語順を概観した上で、目的語が前置されている構文である「把」構文に焦点をあて、「把」構文の存在が中国語をSOV言語とみなすのにたる強力な根拠となりうるかについて考察したい。

1. 語順のパターン

この節では、中国語の語順のパターンについて概観する。パターンの基準としては、角田(1991)で挙げられている1～18までの語順のパターンを用いることにする。(15については、表現を筆者が変えてある。)

1 S, OとV: SVO

我(S) 喫(V) 飯(O)。
Wo chi fan.
< 私 > < 食べる > < ご飯 >
< 私はご飯を食べる >

2 名詞と側置詞：前置詞

在(PRE) 家 里(N)
Zai jia li
< で > < 家 >
< 家で >

3 所有格と名詞：所有格前置

我 的 (G) 書 (N)
W o d e S h u
<私> <の> <本>
<私の本>

4 指示詞と名詞：指示詞前置

這 (DET) 学 生 (N)
Z h e x u e s h e n g
<この> <学生>
<この学生>

5 数詞と名詞：数詞前置

一 (Numeral) 個 (Classifier) 学 生 (N)
Y i g e x u e s h e n g
<ひと り> <学 生>
<ひとりの学生>

6 形容詞と名詞：形容詞前置

好 (ADJ) 人 (N)
H a o r e n
<よい> <ひと>
<よい人>

7 関係節と名詞：関係節前置

我 買 的 (Relative Clause) 書 (N)
W o m a i d e s h u
<私> <買う> <の> <本>
<私買った本>

8 固有名詞と普通名詞：固有名詞前置

大 阪 (Proper N) 大 学 (Common N)
D a b a n d a x u e
<大 阪> <大 学>
<大阪大学>

9 比較の表現：基準後置

比 (PRE) 日 本 (N)
B i R i b e n
<よ り> <日 本>
<日本より>

10 本動詞と助動詞：助動詞前置

應 該 (AUX) 去 (V)。
 Y i n g a i q u.
 <～すべきだ> <行く>
 <行くべきだ>

11 副詞と動詞：副詞前置

馬 上 (ADV) 去 (V)。
 M a s h a n g q u.
 <す ぐ に > <行く>
 <すぐに行く>

12 副詞と形容詞：副詞前置

非 常 (ADV) 好 (A)。
 F e i c h a n g h a o.
 <と て も > <よ い >
 <とてもよい>

13 疑問の印：文末

馬 上 (ADV) 去 (V) 吗 (ITG particle)?
 M a s h a n g q u m a ?
 <すぐに> <行く> <か>
 <すぐに行きますか>

14 一般疑問文でのS, Vの倒置：なし

你 (PRO) 去 (V) 吗?
 N i q u m a ?
 <あなた> <行く> <か>
 <あなたは行きますか>

15 疑問文でのWH移動：なし

你 (PRO) 買 (V) 什 麼 (WH)?
 N i m a i s h e n m e ?
 <あなた> <買 う> <何 >
 <あなたは何を買いますか>

16 否定の印：動詞、助動詞、形容詞、副詞、前置詞の前

我 (PRO) 不 (NEG) 去 (V)。
 W o b u q u.
 <私 > <な い > <行 く >
 <私は行かない>

17 条件節と主節：条件節前置

天 氣 不 好 (Conditional Clause), 我 就 不 去 (Main Clause)。

Tianqi buhao, wo jiu buqu.

<天気><悪い> <私> (ければ) (行かない)

<天気が悪いければ、私は行かない>

18 目的節と主節：目的節前置

為 了 学 習 漢 語 (Purpose Clause), 去 中 国 (Main Clause)。

Weile Xuexi Hanyu, qu Zhongguo.

(ために) (勉強する) (中国語) (行く) (中 国)

<中国語を勉強するために中国へ行く>

さて、1～18までに挙がっていない語順のパターンで、非常に重要なパターンがもう一つある。それは、動詞と前置詞句の位置関係である。このパターンを19として挙げる。

19 動詞と前置詞句：前置詞句前置 (但し、前置詞句が動詞の内項 (internal argument) である場合は、前置詞句は動詞の後におかれる。)

我 在 中 国 (PP) 買 了 (V) 中 藥。

Wo zai Zhongguo mai le Zhongyao.

<私> <中 国 で> <買う>ASP. <漢方薬>

<私は中国で漢方薬を買った>

以上が中国語の語順の概観であるが、同じSVO言語である英語とは、どのような部分で異なっているのだろうか。注目すべき相違点は、次のとおりである。

- (1) 関係節が名詞の前にくる。(7を参照)
- (2) 疑問文では、主語・動詞の倒置が起らず、疑問文の標識の一つとして「吗 ma」という終助詞が文末におかれる(14を参照)。
- (3) 疑問詞疑問文 (WH疑問文) では、疑問詞の文頭への移動が行なわれない。(15を参照)
- (4) 前置詞句が動詞の前におかれる。(19を参照)

上に挙げた英語との四つの相違点を検証してみると、これらの英語との相違点はとりもなおさず、そのまま日本語との共通点になっている。

Greenberg (1963, 1966) は、世界の主要言語30種あまりについて、分類を試み、自然言語の「表層構造類型」(surface structure typology)について、「語順の包含的普遍性」(implicational word-order universals)という仮説

を提出している。これに、Tai (1973) が付け加えた普遍性を加え、この仮説を次にまとめてみよう。

I. SVO言語がもつ統計的普遍性：

- (1) 名詞の修飾語は、名詞の後にくる。
- (2) 動詞の修飾語は、動詞の後にくる。
- (3) アスペクトや時制の標識は、動詞の前にくる。
- (4) 法助動詞 (modal auxiliary) は、主動詞の前にくる。
- (5) 比較級形容詞は比較されるものの前にくる。
- (6) 前置詞は名詞の前にくる。
- (7) 疑問を表す終助詞が存在しない。
- (8) 疑問文と陳述文とが同じ語順をとらない。

II. SOV言語がもつ統計的普遍性：

- (1) 名詞の修飾語は、名詞の前にくる。
- (2) 動詞の修飾語は、動詞の前にくる。
- (3) アスペクトや時制の標識は、動詞の後にくる。
- (4) 法助詞は、主動詞の後にくる。
- (5) 比較級形容詞は、比較されるものの後にくる。
- (6) 後置詞は名詞の後にくる。
- (7) 疑問をあらわす終助詞が存在する。
- (8) 疑問文と陳述文とが同じ語順をとる。

さて、上に挙げた8点をも参考にしながら、中国語はどちらの特徴をもっているかを調べてみると、次のようにSVO言語の特徴とSOV言語の特徴の両方を兼ね備えているということがわかる。

I. SVO言語的特徴：

- (1) 目的語が動詞の後にくる。
- (2) 前置詞（中国語では「介詞」と呼ぶ）が名詞の前にくる。
- (3) 法助動詞（中国語では「能願動詞」と呼ぶ）が主動詞の前にくる。

II. SOV言語的特徴：

- (1) 名詞の修飾語が、名詞の前にくる。
- (2) 動詞の修飾語が、動詞の前にくる。
- (3) アスペクトや時制の標識が、動詞の後にくる。
- (4) 比較級形容詞は比較されるものの後にくる。
- (5) 疑問を表す終助詞が存在する。
- (6) 疑問文と陳述文とが同じ語順をとる。
- (7) 目的語が、主題化や左方転位による前置以外に、前置されることがある。

上の対比からわかることは、中国語はSVO言語と分類されているにもかかわらず、SOV的言語の特徴を多く備えているということである。この事実に基づき、なかでも、II. (7)の目的語の前置という中国語の言語現象を強い根拠として、「中国語はSVO言語からSOV言語へと変遷しつつある」という主張が Li and Thompson (1974a, 1974b, 1975, 1981) で提出されている。また、Tai (1976) も、Hashimoto (1976) の理論に基づき、中国語は北方アルタイ語の影響を受け、SVOからSOVの語順へと変遷してきているという主張をしている。これに対する反論が、Mei (1979), Light (1979), Tang (1983) などで行なわれているが、本稿では、目的語が「把 ba」という前置詞によって動詞の前にくる 文型（「把」構文）に焦点をあて、果たして「把」構文が「中国語はSOV言語へと変遷しつつある」という主張の強力な根拠になるのかどうかについて2節で述べたい。

2. 「把+NP」は目的語か？

日本語の＜私はあの本を読み終えた＞に対応する中国語の表現は、次の2種類がある。

- (1) 我 看 完 了 那 本 書 。
Wo kan wan le na ben shu.
＜私＞＜読む＞＜終わる＞ASP. ＜あの＞＜冊＞＜本＞

- (2) 我 把 那 本 書 看 完 了 。
Wo ba na ben shu kan wan le.
＜私＞ ＜あの＞＜冊＞ ＜本＞ ＜読む＞＜終わる＞ASP.

(1) では「看」＜読む＞の目的語「那本書」が動詞の後に置かれているが、

(2) では「那本書」が「把」をともなって動詞の前におかれている。「把那本書」は、(1) の「那本書」と同じステータスをもった目的語とみなしてよいのだろうか。筆者の結論では、「把那本書」は、確かに動詞から「対象」という意味役割を付与されているが、統語的には、もはや動詞から「構造格」(Structural Case) を付与される目的語ではなく、動詞の修飾成分(「状語」)となっている。この結論を支持する根拠を以下に挙げていこう。

2. 1. 「把」構文への制約

「把」は目的語を前置された際の標識であるが、全ての目的語が「把」によって前置できるわけではない。前置できない例を挙げると、次のようになる。

① 不特定の事物を表すNPは、「把」と結合せず、前置できない。

a. 買 了 很 多 書。
 Mai le hen duo shu.
 <買う> ASP. <とても><たくさんの><本>

b. *把 很 多 書 買 了。
 Ba hen duo shu mai le.
 <とても><たくさんの> <本> <買う> ASP.

② ‘把+NP+V’のVは、通常、裸のままであってはならない。

a. 把 那 本 書 看 完 了
 Ba na ben shu kan wan le.
 <あの><冊> <本> <見る><終わる> ASP.

b. *把 那 本 書 看。
 Ba na ben shu kan.
 <あの> <冊> <本> <見る>

③ 知覚動詞は、たとえ動詞に後置成分が付加されていても、その目的語を前置できないことがある。(例文は、Mei (1979) による)

a. * 我 没 有 把 那 個 人 看 見。
 Wo mei you ba na geren kan jian.
 <私><～しなかった> <あの人> <見る>
 <私はあの人をみなかった>

b. * 我 把 你 的 話 聽 見 了。
 Wo ba ni de hua ting jian le.
 <私> <あなたの話> <聴く> ASP.
 <私はあなたの話をききました>

さらに、「把」の用法には次のような現象が見られる。

④ ‘把+NP+V’のNPを動詞の後に置くことが不可能な場合がしばしばある。

a. 把 炉 子 添 了 煤。
 Ba lu zi tian le mei.
 <ストーブ><足す> ASP <石炭>.
 <ストーブに石炭を足した>

b. * 添 了 炉 子 煤。
 Tian le lu zi mei.
 <足す> ASP. <ストーブ> <石炭>

c. * 添 了 煤 炉 子。
 Tian le mei lu zi.
 <足す> ASP. <石炭> <ストーブ>

⑤ 「死」「病」のような自動詞に後続するNPも「把」で動詞の前におくことができる。

a. 他 死 了 妻 子。
 Ta si le qi zi.
 <彼> <死ぬ> ASP. <妻>
 <彼は妻に死なれた>

b. 他 把 妻 子 死 了。
 T a b a q i z i s i l e .
 <彼> <妻> <死> ASP.

c. 他 的 妻 子 死 了。
 T a d e q i z i s i l e .
 <彼> の 妻 ><死> ASP.

①～⑤からわかることは、「把」による目的語の前置は単純ではなく、多くの制約と問題をはらんでいるという点である。そしてさらに言うならば、こうした「把」をもちいた文型は、中国語においては、決して無標の語順とはいえないのである。

2. 2. 「把+NP」と動詞との距離

中国語においても、動詞とその後に置かれる目的語は、常に隣接している。両者の間には、いかなる要素も挿入することはできない。では、「把+NP」と動詞は常に隣接しているのだろうか？

① 「把+NP」+ADV. +V：副詞の挿入可能

a. 把 他 狠狠地 打 了。
 B a t a h e n h e n d e d a l e .
 <彼> <激しく> <殴る> ASP.
 <彼を激しく殴った>

b. 狠 狠 地 打 了 他。
 H e n h e n d e d a l e t a .
 <激しく> <殴る> ASP. <彼>

c. * 打 了 狠 狠 地 他。
 D a l e h e n h e n d e t a .
 <殴る> ASP. <激しく> <彼>

② 「把+NP」+PP+V：前置詞句の挿入可能

- a. 彙 報 了 選 民 此 事。
 Hui bao le xuanmin cishi.
 <総括報告する> ASP. <選挙人> <この事>
 <この事を選挙人にまとめて報告する>
- b. 向 選 民 彙 報 了 此 事。
 Xiang xuanmin huibao le cishi.
 <～に> <選挙人><総括報告する> ASP. <この事>
 <選挙人にこの事をまとめて報告する>
- c. 把 此 事 彙 報 了 選 民 。
 Ba cishi huibao le xuanmin.
 <この事> <総括報告する> ASP. <選挙人>
 <この事を選挙人にまとめて報告する>
- d. 把 此事 向 選 民 彙 報 了。
 Ba cishi xiang xuanmin hui bao le.
 <この事><～に><選挙人><総括報告する>ASP.
 <この事を選挙人にまとめて報告する>

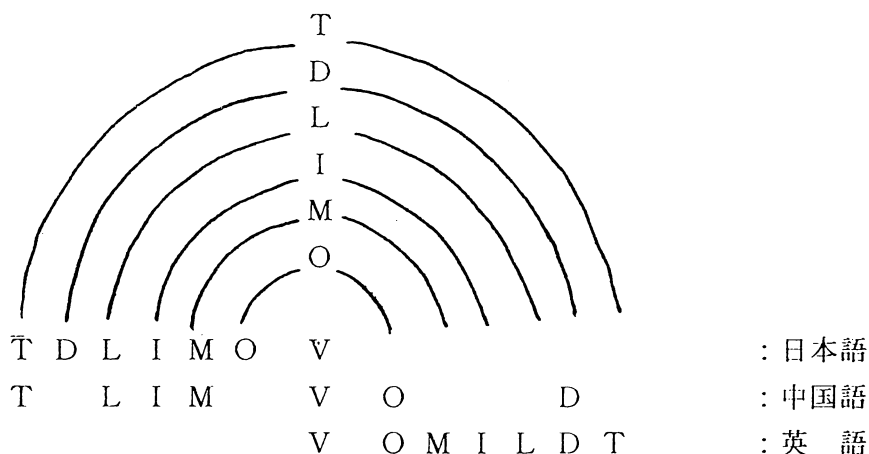
a. よりわかることは、動詞「彙報」が内項として、目的語を2つ、すなわち、「選民」と「此事」をとる動詞だということである。b. c. d. から、この2つの目的語は、「着点」(goal)という意味役割をもつ「選民」は、「向」によって、「主題」(theme)という意味役割をもつ「此事」は、「把」によって、いずれか一方を、あるいは両方とも動詞の前におくことが可能であることがわかる。ここで問題となるのは、d. では、「把此事」と動詞「彙報」の間に「向選民」という別の前置詞句が挿入されている点である。もうひとつの問題点は、前置詞「向」も、「把」と同様、目的語を前置する働きをもつにもかかわらず、目的語前置標識とは一般にはみなされておらず、着点という意味役割をもつ前置詞として位置づけられているという点である。

さて、上の①, ②より、「把+NP」が必ずしも動詞の直前に位置するわけ

ではないことがわかった。これらの言語事実から筆者は、「把+NP」を目的語とみなすことはできない、という結論に達する。その根拠は、次に挙げるような陸（1991）の理論に基づく。陸が主張する理論とは、ある句において、中心語をとりまくさまざまな要素の語順は、中心語の右にくるか左にくるかわからず、中心語から近いかわいという観点からみると、一定の普遍性がある、というものである。以下、陸の主張を要約する。まず、例文（3）をみてみよう。

- (3) a. 他 [去年 [在實驗室 [用電腦 [努力地 [干了]]]] 十個月]]
 Ta qunian zaishiyanshi yongdiannao nulide ganle shigeyue.
 (彼) (去年) (實驗室で) (コンピューターで) (一生懸命) (する) (十ヵ月)
 <彼は去年実験室でコンピューターを用いて十ヵ月間一生懸命仕事をした>
- b. He [[[[[[worked] hard] with computers] in the lab] for ten months] last year].

(3) の a. と b. を比べてみると、主語の位置は一致しており、‘時幅連用修飾語’（‘十個月’ ‘for ten months’ を指す－引用者注）の位置は、いずれも動詞の後に置かれているが、それ以外の5つの成分は、中心語（‘干了’ と ‘worked’）を中心にちょうど左右に鏡像関係をなしていることがわかる。つまり、中国語では、5つの成分がすべて動詞の左側に位置し、英語ではすべて動詞の右側に位置しているのである。ところが、ここで、この5つの成分の語順を左右関係からではなく、中心語からの遠近という観点からみれば、中国語と英語の語順は完全に一致している。すなわち、様態連用修飾語は動詞に最も近く、次に道具連用修飾語が動詞に近く、……そして動詞からもっとも遠いのは主語である、というように両語で遠近の語順が完全に一致しているのである。（3）の例では自動詞が用いられているので、目的語が出現していないが、目的語がある場合、当然動詞にいちばん近い距離に置かれるはずである。このことをさらに一般化すると、次のような半円軌道階層で説明できる。（主語は省略する）



V : 中心動詞 O : 目的語 M : 様態連用修飾語
I : 道具連用修飾語 L : 場所連用修飾語 D : 時副連用修飾語
T : 時間連用修飾語

このような遠近による語順は各言語に共通する普遍性をもつと考えられるが、これは各言語の規範的語順に過ぎず、各言語とも多くの語順転換がある。しかし、転換される場合も、多くの場合（主題化などをのぞいては）、上の半円軌道階層をもちいて説明可能である。

(4) Last year, he worked hard with computers in the lab for ten months.

(5) Last year, in the lab, he worked hard with computers for ten months.

((4) の ‘last year’ は右端から左端に移動し場面設定語として働いているが、動詞から最も遠い位置から動詞から最も遠い位置への移動である。

(5) では、‘in the lab’ が右から2番目の位置から左から2番目の位置へと移動し、場面設定語として働いている。(4)においても、(5)においても、移動後の動詞との遠近関係は、移動前の動詞との遠近関係と一致している。

以上が、陸の主張の要約である。彼の理論を「把」構文に適用するならば、次のような説明ができる。もし、動詞の後にある目的語がそのままの文法機能を担ったままで「把」によって前置されるならば、移動先は、移動前と同様、

動詞より最も近い動詞の左側でなければならない。しかし、上の①②でみたように、「把＋NP」は常に動詞の左に隣接しているわけではなく、副詞（様態連用修飾語）や前置詞句が挿入される場合がある。このことから「把＋NP」はもはや目的語とはみなされず、連用修飾語としての機能しかもっていないと結論できる。

以上、「把」構文に関する制約および問題点と、「把＋NP」の動詞からの距離というふたつの観点から、「把＋NP」を目的語とみなせるかということについて考察した。結論として、筆者の立場は「把＋NP」は動詞の目的語ではなく、連用修飾語だという立場をとる。

3 結び

2節で考察したように、「把＋NP」を前置された動詞の目的語とみなす立場は多くの問題点をはらんでいる。とするならば、「把」構文の存在を強力な根拠として「中国語はSVO言語からSOV言語へと変遷しつつある」という立場をとるのは、これもまた多くの問題点をはらんでいるといわざるをえない。筆者の立場としては、中国語はかなり安定したSVO言語であるという観点をもつ。この観点をささえる根拠として、上に述べたことに加えて、以下の2点をあげて本稿をしめくりたい。

- (1) 目的語を動詞の前におくことができるといっても、目的語節は常に動詞の後に位置する。
- (2) 中国語の複合語の構造は、中国語の基本的統語構造を反映しているが、「読書、乾杯、犯罪、……」など、多数がVO語順であるのに対し、OV語順の複合語がほとんどみつからない。たとえば、「足温器」という和製漢語は、「足を温める機器」という日本語の語順を反映した複合語であって、中国人留学生などは、この語にかなり違和感をもつ。こうした中国人ネイティブ・スピーカーの反応は、OVの語順を有標なものとして捉えていることの反映ではないだろうか。

参考文献

- Greenberg, J. (1963) "Some Universals of Grammar with Particular Reference to the Order of Meaningful Elements", in J. Greenberg (ed.) Universals of Language, 2, MIT Press, Cambridge, Massachusetts, 58-90.
- Greenberg, J. (1966) "Some Universals of Grammar with Particular Reference to the Order of Meaningful Elements", in J. Greenberg (ed.) Universals of Language, 2nd ed., MIT Press, Cambridge, Massachusetts, 73-113.
- Hashimoto, M. (1976) "Language Diffusion on the Asian Continent," Computational Analysis of Asian and African Languages and Cultures.
- 橋本萬太郎(1983) 「北方漢語的結構發展」、『語言研究』第一期、88-99、華中工学院出版部。
- Li, C. and S. Thompson. (1974a.) "Historical Change of Word Order: a Case Study of Chinese and its Implication", in J. M. Anderson, C. Jones (eds.), Historical Linguistics I, North Holland Publishing Co., Amsterdam, 199-218.
- Li, C. and S. Thompson. (1974b.) "Co-verbs in Mandarin : Verbs or Prepositions?", Journal of Chinese Linguistics, 2. 3, 257-278.
- Li, C. and S. Thompson. (1975) "The Semantic Function of Word Order : a Case Study in Mandarin ", in C. Li (ed.) , Word Order and Word Order Change, University of Texas Press, Austin, Texas, 163-196.
- Li, C. and S. Thompson. (1981) Mandarin Chinese : a Functional Reference Grammar, University of California Press , Los Angeles, California .
- Light, T. (1979) "Word Order and Word Order Change in Modern Chinese ", Journal of Chinese Linguistics , 7. 2, 149-180.

陸丙甫(1991) 「關於建立深一層的漢語句型系統^句議」 「第3屆世界華語文教學研討會(台北)」でのハンドアウト。

Mei, K. (1979) "Is Modern Chinese Really a SOV Language?", in T. Tang. F. Tsao, I. Li (eds.), Papers from the 1979 Asian and Pacific Conference on Linguistics and Language Teaching, Student Books Co., Taipei, 275-297.

Tai, J. H. Y. (1973) "Chinese as a SVO Language", Papers from the Ninth Regional Meeting, Chicago Linguistic Society, Chicago, Illinois, 659-671.

湯廷池(1983) 「国語語法的主要論題：兼評李訥与湯遜著『漢語語法』(之一)」、『師大學報』、28, 391-441.

湯廷池(1988) 「關於漢語的詞序類型」、『漢語詞法句法論集』、449-537. 台灣學生書局。台北。

角田太作(1991) 『世界の言語と日本語』、くろしお出版、東京。

Travis, L. (1984) "Parameters and Effects of Word Order Variation", Doctoral dissertation, MIT, Cambridge, Massachusetts.

A BAN VOCABULARY

—Preliminary Report—

NAKAGAWA Hiroshi

Tokyo University of Foreign Studies

This preliminary report is part of the result of my field research conducted in Nigeria from July to September 1990¹ financially supported by the Japanese Ministry of Education.²

The Ban language [kǎǎ bǎǎ]³, one of the Ogoni languages⁴, is spoken in the Ban-Ogoi Community, Rivers State, Nigeria. No accurate census figures are at hand, but Ikoro (1989) gives "an estimated population of 5,205 speakers" of the language. There has been little material available on Ban except a phonemic outline and about 100 basic words in Williamson (1985) and about 250 basic words in Ikoro (1989). As these two papers imply, the language may play an important role in the diachronic study of the 'Benue-Congo' languages.

This vocabulary presents more than 2,000 lexical items of this little known language, which are classified essentially following Yukawa (1979). However, Yukawa's questionnaire was originally prepared for the study of Bantu languages, not of 'Ogoni' languages or dialects. Hence some items have been supplied wherever necessary, some modified and others deleted if irrelevant.

My language-consultant is Mr. Sunday Ake, who was born and bred in Ban-Ogoi. His parents are also native speakers of the Ban language. He was in his twenties when I worked with him.

The Ban language has the following seven oral and five nasal vowel phonemes:

a i u e ε o ɔ ã ĩ ũ ẽ õ

The consonant letters employed in this paper are as follows:

p b t d k g kp gb [?] f w (labio-dental) s z y ([j]) m n l r (tap)

These are basically phonemic except for 'r', 'n' and preconsonantal nasals. [r] and [n] are in complimentary distribution with [l] and belong to one and the same phoneme /l/: [l] occurs before an oral vowel in the morpheme initial (or originally morpheme-initial) position except for some peripheral words, and [r] before an oral in the morpheme-internal, whereas [n] occurs

¹I am very grateful to Mr. James L. Lagalo, Chairman of Ban-Ogoi, and all the chiefs and seniors of the community who were willing to help me study the language. I am much indebted to Professor Kay Williamson of University of Port Harcourt, who thoughtfully helped me carry out the research, and to Mr. D. U. Suowari and Mr. E. M. Ichendu, who made every effort to arrange my position for investigation, and all the staff of the University for their kind assistance. My special thanks to Mr. Suanu M. Ikoro, who kindly accompanied me to the villages and helped me get in rapport with villagers, and finally to Mr. Sunday Ake, who, as my language-consultant, sincerely helped me learn the language.

²文部省科学研究費補助金、国際學術研究學術調査（1990年度）・奨励研究A（1991年度）。

³The Ban language has been referred to as Goi or Ogoi. The language was named "Ban" by its speakers themselves at the Joint Conference of the Ban Ogoi Community held on August 30, 1990.

⁴The Ogoni group (Ban, Eleme, Gokana and Kana) "is classified as a distinct group within the Delta-Cross sub-branch of Cross River in the New Benue-Congo family of the Niger-Congo phylum" (Ikoro 1989). In Ikoro (1989) the term 'Keggoid' is used to designate 'Ogoni'.

before a nasal vowel. Preconconantal nasals (such as m+p, n+d, n+k, m+kp, etc.) are homorganic and may be interpreted as the allophones of a single phoneme. 'g' is pronounced [ŋ] between nasal vowels. 'y' and 'w' become nasalized before a nasal vowel.

Tone-marking employed in this paper are as follows:

high: ́ mid: V (unmarked) low: ̀

Morpheme boundaries are tentatively marked as follows:

Preconsonantal nasal prefix to noun stem: +

Prefixing element of reduplicated noun stem: =

Other morpheme boundaries: -

References

- Ikoru, S.M. (1989), "Segmental Phonology and Lexicon of Proto-Keggoid" (MA thesis submitted to the Department of Linguistics and African Languages, School of Graduate Studies, University of Port Harcourt).
- Williamson, K. (1985), "How to become a Kwa Language", in A. Makkai and A. M. Melby (eds.), *Linguistics and Philosophy. Essays in honor of Rulon S. Wells* (John Benjamins).
- Yukawa, Y. (1979), "A Tentative Questionnaire for the Words of Bantu Languages", *Journal of Asian and African Studies* No.17, Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.

1. Head

01	head	bóó
02	brain	ṁ+pũ-bóó
03	occiput	wěẽ-bóó
04	hair	záa-bóó
05	white hair	sóóre
06	baldness	ʔéé-bóó
07	face	ṁ+sĩ
08	forehead	bo-gbò-ṁ+sĩ
09	wrinkles	kpórò-ṁ+sĩ
10	eye	súú-děẽ
11	eyebrow	záa-bo-děẽ
12a	eyelid	kpí=kpá-bo-děẽ
12b	lower eyelid	ke-děẽ
13a	eyelash	záa-děẽ
13b	corner of eye	kónǎ-děẽ
14	pupil of eye	wĩĩ-děẽ
15	nose	ṁ+bĩĩ
16	nostril	di=deè-ṁ+bĩĩ
17	mouth	deènũ
18	lip	bo-deènũ
19	tongue	ṁ+dí=děẽ
20	tooth	dáa
21	front tooth	dáa-n+sĩ
22	canine tooth	dáa-kónǎ
23	moustache	záa-bo-deènũ
24	cheek	ṁ+gí=gǎ
25a	ear	tǎ
25b	hole of ear	di=deè-tǎ
26	ear lobe	pèèpègè-tǎ
27	lower jaw	ke-béré-kě
28	chin	ke-běẽ
29	beard	záa ke-běẽ
30	neck	měẽ
31	nape of neck	wěẽ-měẽ
32	throat	di=deè-měẽ
33a	Adam's apple (lit. spirit-neck)	zĩĩ-měẽ
33b	windpipe	di=deè-tóó
33c	bone of nape	kpógó-měẽ

2. Body

01	body	ke-kpá
----	------	--------

02	trunk of body	ka kí=kú
03	skin	kpí=kpá
04	hair on body	záa ke-kpá
05	shoulder	bo-kówí
06	chest (lit. mouth-heart)	deènũ-něẽ
07	breast	mĩ=mǎ
08	nipple, teat	bóó-mĩ=mǎ
09	abdomen	bo-gbàà
10	pit of stomach (lit. depression-thing-heart)	kpòlì-nũ-něẽ
11	navel	ṁ+pì=pú
12	lower abdomen	ke-gbàà
13	armpit	ke-sǎgǎ
14	hair of armpit	záa ke-sǎgǎ
15a	side of body (upper part)	kí=kú
15b	side of body	ke-kí=kú
15c	side of body	ke-fégé
15d	side of body	ke-là
16	waist	ṁ+kěẽ
17	hip	tǎtǎtǎ-ṁ+kěẽ
18	back of body	bokò-wěẽ
19	buttock	bóó-ʔúu
20	anus	di=deè-ʔúu
21a	genitals (male)	bo-m+pĩĩ
21b	genitals (female)	bo-bi
22	penis	ṁ+pĩĩ
23	testicle	ké-ṁ+sũũ
24	female genitals	bi
25a	pubic hair (male)	záa bo-m+pĩĩ
25b	pubic hair (female)	záa bo-bi

3. Arm

01	arm	bá
02	hand	ká-bá
03	palm (of the hand)	ke-ká-bá
04	back of the hand	bo-ká-bá
05	fist	mũnũ
06	finger	wáá-bá
07a	thumb	bóó-wáá-bá
07b	thumb (lit. big-finger)	gbère-wáá-bá
08	forefinger	ṁ+tarí-wáá-bá
09	middle finger (lit. finger-very-middle)	wáá-

bá ʔèèrè zèè	
10 third finger	wáá-bá kúrà-ń+dògò-bí-kǝǝ
11 little finger	wáá-bá ń+dògò-bí-kǝǝ
12 fingernail	bíǝ
13 wrist (lit. neck-arm)	měě-bá
14a forearm	káí-kě (-bá)
14b upper arm	ń+búǝ-bá
15a elbow, knee	bó(ó)-ń+kpɔgi(-bá)
15c elbow, knee	ń+kpɔgi

4. Leg

01 leg	léé
02 thigh	ń+búǝ
03a knee	ń+kpɔgi (léé)
03b knee	bóó-ń+kpɔgi-léé
04 lower part of the leg	ń+pàrà
05 shin	bogòdò
06 calf of the leg	kɛ-m+pàrà
07 foot	ká-to
08a ankle	kpógó kúrà ká-to
08b ankle	kpógó kúrà léé
09 sole	kɛ-léé
10 heel	wěě-léé
11a footprint	děě ká-to
11b footprint	děě léé
12 footfall	mǝǝ léé

5. Inside of the Body

01 bone	kpógó
02 bone marrow	ń+dǝǝ-kpógó
03 joint	tǝǝtǝǝ
04 skull	kpógó-bóó
05 shoulderblade	(báà-)kpógó-bokówí-bá
06 collarbone	kpógó-měě
07 breastbone	kpógó-deènǝ-něě
08 rib	kpógó-kí=kú
09 backbone	kpógó-wěě
10 blood	mĩ
11 vein	ńĩ
12 tendon	ńĩ-wěě-léé

13 heart	kóókóró (-bo-pùùpùgù)
14 lung	pùùpùgù
15a stomach	gbàà
15b stomach	ń+kǝǝ
16 liver	něě
17 gall-bladder	dí=díí-ń+dòdò
18 bile	ń+dòdò
19a intestine	ń+fá
19b small intestine	pirí ń+fá
19c large intestine	gbèrɛ-m+fá
19d large intestine	ń+kěńě-ń+fá
20 kidney	pirí kóókóró
21 urinary bladder	tɔ-mǎnĩ
22 womb	tɔ-wĩĩ

6. Physiological Phenomena

01 dandruff	ń+párará
02 tears (lit. water-?-cry)	mǝǝ-zíi-tó
03 to shed tears	ʔegà mǝǝ-zíi-tó
04 to wink	bigi děě
05 to twitch (for eyelid)	túgĩ děě
06 nasal mucus	kɛ-m+bíǝ
07 to blow one's nose	mĩĩnǎ ń+bíǝ
08 to pick up one's nose	ʔǝǝnǎ
	dí=deè-ń+bíǝ
09 to beat (for heart)	nǎǎ pàm̀pàm̀
10 to throb	dɔ
11 breath	fěé-sée
12 to breathe	fěé sée
13 to breathe quickly	fěé séesée
14a to inhale, to breath in	duurà sée
14b to breathe in quietly	ʔiɪwɛ sée
15 to exhale, to breathe out	fěé lǝɔ ʔm
16 to blow with one's mouth	ʔúri deènǝ
17 saliva, spittle	ń+táá
18 to spit spittle	túǝ
19a to spit out (sth)	túǝ lǝɔ ʔm
19b to spit out (lit. spit remove from mouth)	túǝ
	lǝ la nǝ
20a phlegm	ń+gɔɔrì-ń+táá
20b to be steaky	gǝɔ
21 to cough	ʔǝgě (kí=kú)

22	cough	kí=kú
23a	to yawn	[?] a
23b	to yawn (in process)	[?] a [?] a
24	yawn	[?] a
25	to hiccup (lit. hiccup throw)	ṁ+mĩmĩgĩ
	tóó	
26	hiccups	ṁ+mĩmĩgĩ
27	to sneeze	sinǎ sǐĩ
28	sneeze	sǐĩ
29	to belch	kǐĩ bǐègè
30	sweat	yǎǎ
31	to perspire	sí yǎǎ
32	dirt	dǐ
33	to urinate	tǎ-mǎnĩ
34	urine	mǎnĩ
35	to defecate (lit. go bush excreta)	sí [?] óó bí
36	excreta	bí
37a	to gas without noise	fóórǎ bí
37b	to gas with noise	sǎ bí

7. Senses

01	to see	mǐĩ
02a	to look at	[?] irĩ
02d	to look at	bérè
03	to be seen	mǐnǎ
04	to disappear	pe-dígírí
05	to obstruct	kpega deè
06a	to find	gbĩ
06b	to find	gbĩnǎ
07	to look around	tǐĩnǎ dǐĩ ló
08	to look behind	[?] irǎ wǐĩ
09a	to peep	soo dǐĩ
09b	to peep	soo bóó
10	to watch over	ku dǐĩ ló
11	to notice	yĩmǎ
12	to show	tógè
13	to hear	dǎ
14	to listen	gbǎǎ tǐ
15	to be heard	dǎyǎ
16	to strain one's ears	ku tǐ
17a	smell	lí=lóó
17b	bad smell	póró lí=lóó

17c	good smell	ṁ+zóó lí=lóó
18	to smell bad	sí póró lí=lóó
19	to smell good	sí ṁ+zóó lí=lóó
20	to smell (sth)	fǐĩnǎ

8. Illness

01a	disease, illness (lit. juju-body)	zo-ló
01b	disease, illness	kǐĩ
02	to become ill	dó zo-ló
03	to get a disease	dó kǐĩ
04a	to spread (a disease)	zaare
04b	to spread (a disease)	tǐmǎ
04c	to spread (vi)	zaarà
05	to infect	bǎ ló
06a	patient	nǐĩ zo-ló
06b	person with disease	nǐĩ-kǐĩ
07	cold (lit. slight-heat)	bè-ṁsǎ
08	to catch cold (lit. cold is with)	bè-ṁsǎ zĩ
	ló	
09	leprosy	nǐĩbekéelá
10	malaria	[?] ákòṁ
11	measles	yóó
12	sleeping sickness	zo-lóó-dǐgĩ
13	small pox	zígírí-yóó
14	T.B.	kǐĩ kí=kú
15	gonorrhea	kǐĩ ke-gbàà
16	stomach upset	taátaa-gbàà

9. Mental Disorder

01	craziness	dáa
02	to become crazy or insane	bó dáa
03	crazy person	nǐĩ-dáa
04	to shout (for a crazy person)	tǐĩ
	m+kpǎ	
05	to talk nonsense (for a crazy person)	ló
	bíe yǎṁ-bóó	
06	stupidity	bolo
07	to become stupid	dú bolo
08a	foolish person	nǐĩ-bolo
08b	foolish person	bolo-nǐĩ

10. Injury

01	to become injured	[?] égé kǐĩ
----	-------------------	----------------------

02	to injure	wěě kǒǒ
03	to bleed	sí mǐ
04	wound, sore	děě-kǒǒ
05	wound on the head	děě-kǒǒ kε-bóó
06	to hurt a sore	tǒǒgě děě-kǒǒ
07	lash marks, weal	púwí
08	bump	bí=bè
09	to get a bump	be
10	pus	bũũ
11	scab	kpí=kpá-děě-kǒǒ
12	scar	nǐǐǐ
13	to be dislocated	ʔaá tǒǒ
14	to graze, to injure one's skin	ʔoorà

11. Skin Disease

01	boils	bí=bè-nũ
02	to burst open (for a boil)	pǎǎ
03	the itch	lá
04	ringworm	zígíí-mǐǐ
05	burn	púwí
06	to get a burn	púwí
07	mole	ñ+túũnũ
08	wart	ñ+túũnũ
09	corn (on a hand, on a foot)	yó-ń+biè
10	crack on the foot	báà (-léé)

12. Symptoms

01a	to be painful, to feel pain	baarà
01b	to cause to pain	baare
02	to cause to pain	kpǒǒ ló
03	to itch	tǎǎǐ
04	dizziness	birá-děě
05	to become dizzy	dú ń+gbégeré
06	heartburn	bèε-něě
07	nausia	tεéεε-něě
08	to feel nausea	béénũ...kpó
09	to vomit	kpó
10	to become tired	ʔégé
11	to become numb	ʔégé sǒǒ
12a	to shiver	kěńĩ
12b	shivering, rushing	ki=kěńĩ-ló
13	to faint (lit. cut breath)	fuu sée

14	to come to oneself	kěńě dù
15	to suffer	mǒǒnǎ tǎǎǎǎ
16	to groan (because of pain)	sǎǎǎ

13. Physical Handicap

01	lame person	něě-kòwà
02	to become lame	dú kòwà
03	crippled person	něě-kòwà-kě
04	blind person	něě-pǒmē-děě
05	to become blind	dú pòmē-děě
06	deaf person	něě-ʔíǐǐ

14. Treatment

01a	to stroke, to pat	zu
01b	to stroke softly	sǐǐǐǐ
02	to squeeze with fingers	bígí
03a	to scrape	kǒǒ
03b	to scrape	kpóǐǐ
04	to extract a thorn	zúwí
05	to suck out	píó lǒǒ ʔm
06	to put on a medicine, to smear a medicine	zu m+bièbòò
07	medicine	ñ+biè
08a	to foment	fégé
08b	to foment	bígí
09	to bandage	bóǒ
10	to cure	bó
11	to become cured	bóyá
12	to treat	bó
13	to nurse	bómǎ
14	doctor	něě-dǒǒ(ǒ)-ń+biè
15	nurse	wǐ-wǎǎ-tǒ-m+biè
16a	medicine man	něě-bó-ń+biè
16b	juju priest	něě sííra-zǒ
17a	prophet	něě-sǎǎ
17b	foreteller	báà-děě
18a	to do the medicine man's work	kúũ
		ń+biè
18b	to possess (for a juju priest)	síírá
18c	to divine the future	mǒǒ nũ
18d	to forecast	baarà dēē
19	soot used as ointment (lit. soot-under-rack)	ñ+bí=bíí-kε-táá

20	to rest	bú sée
21	to fan	[?] úri
22	to expose oneself to the wind to feel cool	tú tóo
23	health (freedom-body)	wǎnẽ-ló

15. Clothing

01	clothes	nũ-wẽẽwẽnǎ
02	loincloth	wí-kò
03a	clothes for upper body	kòrò-ló
03b	shirt with half-length sleeve	kérè-bá kòrò-ló
03c	knee trousers (half-bag-waist)	kérè-bèrè- ^h +kẽẽ
03d	T-shirt-like underwear	sìmĩ
03e	T-shirt-like overwear	fǒnǒkǒ
03f	bra	bèrè mĩmǎ
03g	formal chief wear	kòrò-lóo-mẽẽ
04	to wear	wẽnǎ
05	to wear inside out	tóo [?] m sìirà
06	to clothe (sb), to dress	wẽẽ ló
07	to take off (clothes)	lora
08	to become taken off	[?] órí dò
09	to make (sb) undress	wẽẽ bá lòo ló
10a	naked (person)	kóro- ^h +kẽẽ
10b	naked body	kóro-ke-kpá
11	to wear loincloth	fǎǎ wí-kò
12	to become worn out	siirà
13	to become torn	baarà
14a	to wash (clothes)	lógí
15	to wash oneself	lógá
16	soap	^h +sǎ
17	to rinse	[?] õõnǎ
18	to spread to dry	yaare
19	to take in (laundry)	lǎá
20	trousers	bèrè- ^h +kẽẽ
21	(traditional) belt	kpà-kóo
22	shoe (loan?)	kpàagátò
23	barefoot	kóro léé

16. Sewing

01	thread	dí=díí
02	to spin thread	sárí (dí=díí)

03	needle	gì=gǎ
04	to thread	sóré dí=díí
05	to pierce	woorà
06	cloth	wí-kò
07	scissors	[?] mkpà
08	to measure (the body to make clothes)	do (nũ)
09a	to sew	gbá
09b	to sew (vi)	gbá-nũ
10a	to knit	lo
10b	to knit (vi)	lo-nũ
11	to undo (something knitted)	tágá
12	to try on	doya ló [?] ìrì
13	to fit	bó ló
14	to make fitting	doya ló
15	to hem	béérá
16	to patch	gbógí

17. Grooming

01	to wash (one's face)	lógá ^h +sĩ
02	to brush one's teeth	sĩĩgĩ dǎa
03	to comb	sarà-bóo
04	comb	kpòì
05	to braid the hair, to plait	loyà-bóo
06	to undo (the hair)	gbaarà-bóo
07	to cut the hair	kpóyá-bóo
08	to shave	koo-záa
09	razor	lèèlègè- ^h +zimǎ
10	to bathe (oneself)	birà-mũũ
11	to wash sb's body	lógá ló
12	to rub body (to clean it)	fǎǎnǎ ló
13	to wash one's lower part of body after evacuation	lógá [?] úu
14	to wipe (after evacuation)	kpaarà [?] úu
15a	to apply make-up, to decorate one's face (vi)	těẽnǎ
15b	to apply make-up (vi)	těẽnǎ-nũ
16	mirror (lit. look-face)	[?] ìrà- ^h +sĩ
17a	to smear (sth) on one's body	tíá
17b	to smear on body (vi)	tíá-nũ
18	to tattoo	tirà ^h +kì

18. Ornaments

01	earring	kpé-tǔ
02	necklace	wí-sě-měẽ
03	bracelet	wí-sě-měẽ-bá
04	finger-ring	kpé-wáá-bá
05	bead	wí-sě
06	cap, hat	pègèrè
07	umbrella (lit. roofmat-western)	kái-bèkéè
08	walking-stick	m+kpóró-té
09	cudgel, knob, heavy stick	kérè-té

19. Food

01	food	h+zǎǎ
02	supply of food, provisions	ně-n+zǎǎ
03	cooked rice	h+zǎǎ-kǔǔ
04a	mush	gàrí
04b	pounded yam	kpo-saà
05	to cook mush	kpáágá gàrí
06	bread-like food	fítúró
07	(western) beer	h+doo-míí
08	to be strong, intoxicate	bǔmẽ
09	to ferment	ʔwǎrà
10	to filter	kóré
11a	palmwine spirits	h+sǎ-míí
11b	palmwine	tǔw-míí
12	beer	h+doo-míí
13	gin	gbèrè-míí
14	salt	h+dó
15	pepper	h+sĩnsĩĩ
16	oil (generic)	nǔǔ
17	to make oil	bii nǔǔ
18	sugar (lit. salt-western)	h+dó-bèkéè
19	tea	tíí

20. Cooking

01a	to cook (generic)	dorè
01b	to cook (vi)	dorè-nũ
02a	to boil	ʔíge
02b	to boil (vi)	ʔíge-nũ
03	to boil water	ʔíge múú
04	to become boiled (for water)	ʔúrí
05	to bubble up	ʔúrí sǐgà
06	to boil over	ʔúrí ʔèèrà

07	to simmer	ʔúrí féé
08	to roast	ʔǔǔ
09	to bake in ashes	ʔǎǎmǎ n+tǔ
10	to fry	ʔǎǎ
11	to become well cooked	bĩĩnĩ
12	not yet cooked enough	(dú) lóó yũũ
13	raw	yũũ
14	to become high (for meat)	(dú) lóó bĩĩbĩĩnĩ
15	cooking-stone	kíígwè
16a	to put a pot on the fire	ʔí bǎǎ n+sǎ
16b	to put a pot on the fire	ʔí bǎǎ bo n+sǎ
16c	to put sth on the fire	ʔí n+sǎ
17a	to take off a pot from the fire	lǔw bǎ(ǎ) n+sǎ
17b	to take off a pot from the fire	lǔw bǎǎ bo n+sǎ
18	to warm	wěẽ n+sǎ ló
19	to take out food from the pot	ʔúwi
20	to pour (broth)	ʔeerà (nũ)
21	to overflow	wǎǎ ʔèèrà
22	to pour out, to put in (for grains)	ʔeerà lǔw ʔm
23	to season, to give a taste to the food	wěẽ nũ
24	to season	tóré nũ
25	to sprinkle (salt)	yage (nũ)
26	to scrape the food stuck to the bottom of the pot	kógí
27	to scrape off	kóórá

21. Tableware

01a	(steel) cooking pot	bǎǎ-kpé
01b	pan made of china	tàa-bǎǎ
01c	pan with lid	bǎǎ-bèkéè
01d	small pan for making sth warm	wí-fè
02a	pot for restoring	kǎǎǎ
02b	basin with cover	làlà
03	calabash bottle	kpúgu
04	bottle (loan)	líló
05	stopper	kpa-nũ
06	to stop up	wěẽ kpa-nũ
07	to take out the stopper	lǔw kpa-nũ

08a plate	gbámgbám
08b plate (lit. small basin)	pirí làlà
09 cup	nũ-wámã-mũũ
10 spoon	kòkò-kpé
11 to scoop up with a spoon	zósómã
kòkò-kpé	
12 ladle (for mush)(wooden)	tówà-té
13 ladle (steel)	tówà-kpé
14 vessel	kóró
15 bucket (lit. thing-bathe with-water)	nũ-
bìmã-mũũ	
16 tin, can	ʔm-kpò-kóró
17 lid	kpa-nũ
18 to cover with the lid, to shut	ʔũñ kpa-nũ
19 to take off the lid	lɔɔ kpa-nũ
20a empty	kóró ʔm
20b empty bottle	kóró ʔm lílò
21 to empty	lɔɔ ʔm
22 to fill up	wǎǎmẽ
23 to become full	dú wǎǎ
24 to wash a plate	lógí làlà

22. Eating

01 to eat	dé
02 to feed, to give food	nẽ nzǎǎ
03 to wash one's hands	lógá bá
04 to lick	dá
05 to lick with one's finger	dá wáá-bá
06 to put (sth) into one's mouth	wẽnǎ
h+zǎǎkǎǎ deènũ	
07 to fill one's mouth (with sth)	wǎǎmẽ
deènũ	
08 to suck	píó
09a to have a foretaste	ʔira nũ
09b to have a foretaste	ʔira deènũ
10 to drink	wáá
11 to swallow	mẽẽ
12 to gnaw (lit. press teeth body)	ká dáá ló
13 to chew	tági
14 to suck in the mouth	píó nũ
15 to become hungry	dú n+tañĩ

16 hunger, famine	s íi
17 to buy food (in case of famine) (lit. go buy food)	s íi zaá n+zǎǎ
18 to become thirsty	dú n+tañĩ
19 to become satiated, to become full	dú
wǎǎ-gbàà	
20 to get drunk, to be drunken	dú
m+bòmẽ-mĩĩ	
21 to become caught in the throat	ʔǎgǎ
22 to be abstained	ʔaá ló
23 to forbid to eat (a certain thing)	sé
24 things forbidden to eat	nũ-sé

23. Condition of Food

01a to be tasty	kpe
01b sweet thing	m+kpeè
02 to be untasty, to be bad-tasting	gáa kpè
03 to be bitter	dú n+do
04 bitterness	n+do
05a to be acidic, to be sour	yĩmĩ
05b to go sour	dú yĩmẽ
05c to become acid	dú n+ki=kǎ
06 acidity, sourness	n+ki=kǎ
07 to become sweet	dú m+kpeè
08 to be salty	dú n+dó(ñdó)
09 to cool down (for food)	dú tɔɔ
10 to become dry and hard	dú ki=kǎǎ
11a hard	ʔàge
11b to be hard	ʔagì
12 to be soft	bɔrì
13 to become soft	dú bòre
14 crust (of mush, rice)	kí=kóó
15 to become scorched	dú báà (kí=kóó)
16 to be rotten	bẽẽ
17 rotten meat	bì=bẽẽ ñ+dé
18 poison (of food)	tǎǎ

24. House

01 house	tɔ
02 to build with soil	tóó tɔ-n+sí=sǎǎ
03 to build with bricks	tóó tɔ-dẽẽ
04 doorway	deènũ-tɔɔ
05 door	kuu-tɔɔ

06 to shut, to close (a door)	kuu	42 to pack for moving	kúre nũ
07 to lock (the door)	tǎ	25. Furniture	
08 to knock at the door	kõõ	01a bed	wéé
09a to open (sth)	kuurà	01b steel bed	wéé-kpé
09b to open	yǎǎnǎ	01c bamboo bed	wéé-kɔɔkɔɔ
10a to be open	zi sèèra	01d wood bed	wéé-té
10b to be open	seerà	02 pillow (lit. thing-keep-head-on)	nũ-lee-bóó-bòo
11 sleeping place	ʔõõ dìgì	03a sleeping mat (soft)	kpárí-kpá
12 kitchen	to-n+zǎǎ	03b sleeping mat (hard)	búú
13 room (of a traditional house)	ʔǎǎ	04 blanket	tùrùkpó
14 to decorate	kpáágá to	05 to cover oneself (with something)	kɔrà ló
15 toilet	to-bí	06 table, desk	gbúgbú
16 wall	gbàà-to	07 chair, stool	gànĩ-té
17 to interlace sticks	be m+gbà	08 ladder	bèbé
18 to daub soil on the wall	sĩĩnǎ	09 shelf	táá
19 to plaster	tě ʔorè	10 to plait a mat	lo kpárí-kpá
20 brick	děě	11 to spread a mat	yaare kpárí-kpá
21 to burn brick	ʔóó děě	12 to roll a mat	ko kpárí-kpá
22 crack in the wall	báà-to	26. Cleaning	
23a to break (for wall) (gbàà-to)	baarà	01 to clean, to wash	fǎǎnǎ
23b to get a crack (for wall) (gbàà-to)	kěěǎǎ	02 to sweep	kpárí
24 floor (of a house), ground	ke-tóò	03 broom	sàsàì
25 to spread soil (on the floor)	ʔegà	04 to gather up	kúre
h+sí=sǎǎ bo ke-tóò		05 to rake up	kɔɔ bõõnǎ
26 to make smooth (the floor)	ʔorè ke-tóò	06 to throw away rubbish	koorà ìm+fǎ
27 roof	bo-to	07 rubbish	ìm+fǎ
28 to thatch with grass	wěě kái	08 rubbish heap	bò-ìm+fǎ
29 roofmat	kái	09 dust	dúu
30 rafter, name of stick for roof	kɔɔkɔɔ	10 to hit to dust	kõgĩ dúu
31 pillar of a wall	bǎ	11 to wipe	fǎǎnǎ
32 granary	to-zó	12 to rub off	zu lóò
33 hut	ìm+gbídí	13 to become dirty	dú dí
34 fence (around a house)	ìm+gbà	14 dirty (house)	dĩ (to)
35 to fence	be ìm+gbà	15 clean (house)	ʔõõnǎ to
36 open space	kà-deè	16 to become jammed	ʔǎǎ
37 courtyard	zèè-be	17 to dislodge (something jammed), to take out	lɔɔ ʔm
38 to dwell	tõõ	27. Family	
39 to stay house	tõõ to		
40 to live in house	tõõ ʔm-to		
41 to move	sǎǎmǎ to		

01a father	tè ~ téè	35 his sister	le-yígà-m+baa
01b my father	nã-tè	36 elder brother or sister	yígà-kanẽ
02 your _(sg.) father	lo-tè	37 elder brother	yígà-kanẽ-nẽẽ-dǔǔ
03 his father	le-tè	38 elder sister	yígà-kanẽ-m+baa
04 our father	le-tè	39 younger brother	yígà-ì- gbàrà-(nẽẽ-dǔǔ)
05 your _(pl.) father	bòlo-tè	40 younger sister	yígà-ì- gbàrà-m+baa
06 their father	bá-tè	41 grandchild(child of son)	wíí-nã-sáánã
07a their fathers	kú-bá-tè	42 grandchild(child of daughter)	wíí-nã- síra
07b our fathers	kú-le-tè	43 father's brother	yígà-nã-tè
08a mother	ʔm̀m	44 mother's brother	yígà-nã-kà
08b my mother	nã-ʔm̀m	45a father's sister	síra-kà-nã-tè
09 your _(sg.) mother	lo-ʔm̀m	45b father's sister	nũã-kà-nã-tè
10 his mother	le-ʔm̀m	46a mother's sister	síra-kà-nã-kà
11 our mother	le-ʔm̀m	46b mother's sister	nũã-kà-nã-kà
12 your _(pl.) mother	bòlo-ʔm̀m	47a stepfather	dǔǔ-nã-kà
13 their mother	bá-ʔm̀m	47b common-law husband	ń+gà-nã-kà
14a their mothers	kú-bá-ʔm̀m	48a stepmother	wa-nã-tè
14b our mothers	kú-le-ʔm̀m	48b common-law wife, concubine	ń+gà- nã-tè ~ ñ+gà-nã-tè
15 my parents	kú-nã-nẽẽ	49a stepchild(wife's child)	wíí-nã-wa
16a grandfather	nãmã-tè	49b stepchild(husband's child)	wíí-nã-dǔǔ
16b my grandfather	nã-nãmã-tè	50a male cousin	wíí-yígà-nã-tè
17 your grandfather	lo-nãmã-tè	50b female cousin	wíí-yígà-nã-kà
18 his grandfather	le-nãmã-tè	51a nephew	wíí-nẽẽ-dǔǔ-sáánã-kà- nã-tè
19 our grandfather	le-nãmã-tè	51b niece	wíí-m+baa-sáánã-kà-nã- tè
20 your grandfather	bòlo-nãmã-tè	52 family	ʔm̀m-be
21 their grandfather	bá-nãmã-tè	53 orphan (lit. child-mother-and-father-die)	wíí- kà-nẽ-tè-ʔú
22 their grandfathers	kú-bá-nãmã-tè	28. Marriage	
23a grandmother	nãmã-kà	01 to get married (for man)	ʔíí wa
23b my grandmother	nã-nãmã-kà	02 to get married (for woman)	bárá-dǔǔ
24 your grandmother	lo-nãmã-kà	03 marriage	ʔíra
25 his grandmother	le-nãmã-kà	04 wedding (lit. marriage-church)	ʔírá-to- bàrì
26 our grandmother	le-nãmã-kà	05 to give congratulatory gift	nẽ dǔǔ-nũ
27 your grandmother	bòlo-nãmã-kà	06 bride	ʔáá-wa
28 their grandmother	bá-nãmã-kà		
29 their grandmothers	kú-bá-nãmã-kà		
30 child	wíí		
31a son (first born boy)	sáánã		
31b son (second-or-after born boy)	lá		
32a daughter (first)	síra		
32b daughter (second or after)	nũã		
33 his brother or sister	le-yígà		
34 his brother	le-yígà-nẽẽ-dǔǔ		

07	bridegroom	ʔaá-dǔǔ
08a	fiance	tǎgǎ wa
08b	fiance	tǎgǎ dǔǔ
09	wedding present, betrothal present	lɔɔ-kpìgì
10	husband	dǔǔ
11	her husband	lɛ-dǔǔ
12	wife	wa
13	his wife	lɛ-wa
14	widow	wa-dǔǔ-ʔú
15a	polygamy (two)	ʔíí-bàà-wa
15b	polygamy (many)	ʔíí-tǔǔ-wa
16	to have a second wife	ʔíí wa-í-bàà
17	principal wife	sáá-wa~sásáá-wa
18a	brother-in-law (junior)	ʔógò ʔí-gbàrà
18b	brother-in-law (senior)	ʔógò ʔí-kaněě
18c	sister-in-law (junior)	kàwa ʔí-gbàrà
18d	sister-in-law (senior)	kàwa ʔí-kaněě
18e	in-law (male)	ʔógò
18f	in-law (female)	kàwa
19	daughter-in-law (first)	dǔǔnǎ síra
20	daughter-in-law	dǔǔnǎ nǔǎ
21	son-in-law (first)	wanǎ sǎǎnǎ
22	son-in-law	wanǎ lá
23	relative	mǎnǎmǎnǎ
24	to divorce (for man)	gǔǔ wa

29. Birth & Rearing

01	to become pregnant	wěě gbàà
02	pregnancy	gbàà
03	fetus (lit. develop-child)	tǔnǐ-wǐí
04	to bear a child, to give birth (for person)	mǎǎ wǐí
05	to be born (for person and animal)	mǎnǎ
06a	pregnant woman	wa-gbàà
06b	woman after pregnancy	wa-tèm-wǐí~wa-tɔ-wǐí
07	baby	ʔaá-wǐí
08a	umbilical cord	ìm+pì=pǔ
08b	umbilical cord (navel)	bóó-ím+pǔ
09	twin	bàà-wǐí
10a	midwife	něě-mǎně-wǐí(wà)
10b	to assist to bear	mǎně

11	name	bée
12	to name	koo bée tɛ
13	to bring up a child	bómǎ
14	to grow	bɔɔ
15	to give the breast to a child	ně mǐmǎ wǐí
16	to suck the nipple	wáá mǐmǎ
17	to vomit milk	kpo mǐmǎ
18	to pacify child	ʔɔwe tó
19	to caress	gěérè
20	to caress	gěérá
21	to carry a baby (on the back)	darà wǐí wěě
22	baby sling	nǔ-bómǎ-wǐí-wěě
23	to hold a child in the arms	darà wǐí bá
24	to hold a child on knee	darà wǐí bo lée
25	to wipe excreta from a child	kpa bí wǐí
26	barren woman	wǐí-wǎǎ ʔa-gáa-mǎǎ-wǐí

30. Human Being

01	person	něě
02a	man	něě-dǔǔ
02b	adult man	wǐí-dǔǔ
03a	woman	ìm+baa
03b	adult woman	wǐí-wǎǎ
04	boy	wǐí-něě-dǔǔ
05	girl	wǐí-ím+baa
06	full grown, unmarried man	gbàrà-něě
07	full grown, unmarried woman	yǎǎ-ím+bàà
08a	to become mature (boy)	dú turà nǔ
08b	to become mature (boy)	dú turà něě-dǔǔ
09	to become mature (girl)	dú turà ìm+baa
10	to circumcize	koo
11	adult	kaněě
12	to become aged	dú nǎmǎ
13	old man	nǎmǎ (něě)
14	young man	ʔaá (něě)
15a	old age	h+ʔǎnǎ

- 15b old age (for man) ^ʔĩ-^ʔǎnǎ
 16 to become bent with age b́éérá kòwà

31. Death

- 01 to die ^ʔú
 02 death ^ʔú
 03 dead person ^ʔíí-něě
 04 corpse ^ʔíí
 05 to open one's mouth (of a dead) yǎǎnǎ
 deènũ
 06 to be alive tǔǔ n̄+dũũ
 07 to revive ^ʔaákemǎ
 08 living person zi-n+dũũ-něě
 09 life (of a human being) n̄+dũũ
 10 to announce death n̄ mǔǔ ^ʔú-něě
 11 to bury a corpse li ^ʔíí-něě
 12 funeral kɛ-^ʔú-něě
 13 grave bǎnǎ-^ʔú
 14 to inherit ^ʔéɛ (zɔ́)
 15 belongings, wealth zɔ́

32. Domestic Animals

- 01 cat (small) wí-yǎ
 02 to scratch ^ʔúwi
 03 to mew, to cry, to howl (for cat) tó
 04 dog ñ+gbógó
 05 to bark (for dog) gbɔ
 06 to bite dǔǔ
 07 to copulate dorà
 08 cattle nǎmǎ
 09 bull, ox dǔǔ-nǎmǎ
 10 female cattle that bore a calf, cow lóɔ
 11 to become fat, greasy dú r̄m+bì=bɔɔ
 12 to castrate (lit. remove penis part) lɔ m+píĩ
 kò
 13 horn ñ+koò
 14 hump (of a cattle) kpò
 15 udder mĩmǎ-lóɔ
 16 milk mũũ-mĩmǎ(-lóɔ)
 17 to milk bii mĩmǎ
 18 sticky saliva (of a cattle) gɔɔrì-ñ+táá
 19 cattle pen tɔ-lóɔ

- 20 to open the gate of a cattle pen kuurà
 deènũ-m+gbà

- 21 to close the gate of a cattle pen kuu
 deènũ-m+gbà

- 22a pig ñ+di-mũũ
 22b bush pig ñ+di-^ʔóó
 23 goat ñ+bóó
 24 he-goat kpɛ-r̄m+bóó
 25 she-goat ka-m+bóó
 26 sheep nǎǎnǎ-ñ+bóó
 27 horse yǎyǎ
 28a mane (of a horse) záa-wěě-bóó
 28b mane (of a lion) sa
 29 to keep (animals) bómǎ (ńdé)
 30 to feed dé nũ
 31 to lead a herd of animal f́áá sààmǎ
 32 to fasten (rope leg-goat) wěě (dí=díí
 ĺéé-r̄m+bóó)
 33 to set goat free lɔɔ (dí=díí
 ĺéé-r̄m+bóó)
 34 bell géĩ

33. Wild Animals

- 01 animal ñ+dé
 02 wild animal, beast pórɔ-ñ+dé
 03 big baboon ñ+sĩnĩ
 04 ape nǎwáálò
 05 to shout (for animals) tĩĩ m+kpá
 06a monkeys (generic) ñ+fĩnĩ
 06b big monkey sàà-kú(ù)-m+fĩnĩ
 06c small monkey síìsí(ì)-m+fĩnĩ
 07 lion ñ+kpɛè
 08 mane (of a lion) sa
 09 claw bĩĩ
 10 leopard nǎ^ʔá
 11 spot (of a leopard) ñ+kũ-ñ+kũ
 13 hyena kpògòlò
 12 civet kpóí
 13 elephant nĩ
 14 tusk dáa-nĩ
 15 hair of the tail of an elephant záa-
 dũ-ñ+dí

16 bush pig	h+di- [?] óó	20 spear	kóó
17 warthog	[?] òdùrń	21 to throw (a lance)	tóó kóó
18 fang (of a warthog)	dáa-dèènű	22 to stab	tii
19 hippopotamus	nămăk írí	23 protection	kpègà
20 impala	lóo	24 trap (rod and wire)	h+soo
21 zebra	tògo	25 trap	h+kă-h+kă
22 hare, rabbit	wéé	26 to set a trap	túmě n+soo
23 squirrel	zai	27 bait (loan?)	[?] áwómăă
24 house rat	fíř	28 net	gbóó
25a rat (black, smelling)	dím	29 pitfall	h+soo-bănă
25b rat (brown, edible)	m+kpeè-fíř	30 to kill	fé
25c rat (gray, edible)	bínă-fíř	31 to cut the throat	fuu zíí-měě
26 porcupine (lit. thorn body)	suu-ló	32 to cup open the belly	baa gbàà
27 bat	kpóó	33 to skin (with a knife or by pulling)	kóóră kpá
28 mole	m+kpí=kpà	34 to sin by pulling	mĩĩnă
29 skin, fur	kpá-h+dé	35 fur	záa n+dé
30 hair of animal	záa-n+dé	36 to peg out the skin	yaare
31 tail	dű	37 dried skin	ki=kăă kpá-h+dé
32 male	dóó	38 to cut off meat from bones	kógí zori
33 female	[?] uú	39a meat (of animal)	zori-n+dé
34 herd (of animals)	gbò-h+dé	39b meat (of fish)	zori-bárí
34. Hunting		40 greasy meat, fat meat	h+dé-nóó
01 to hunt	kpó h+dé	41 flesh, meat without & bones	zori
02 hunter	něě-tă-h+dé	42 to chase animals away loudly	tĩě
03 trail	děě-kátɔ-n+dé		m+kpă
04 to trace, to follow (animals)	zo wěě	35. Reptiles	
05 to stalk	bigi léé kě	01 snake	năănă
06 to lie in wait	gűyă	02 to cast one's skin (for a snake)	kworă
07 to startle (a game)	zaare		kpá
08 to chase to catch	kpó	03 to coil itself up, to be in a coil	koyă
09 to surround	kééră těě ló	04 to coil (round sth)	pigă
10 bow	bű	05 to creep (for a snake)	kuu
11 bowstring	h+ki=kă	06 mamba	bĩădű
12 arrow	sí=só	07 puff-adder	bóó
13 arrowshaft	kpógó-sí=só	08 python	zòò
14 arrowhead	bóó-sí=só	09 cobra	m+birimű
15 to shoot with a bow	tă sí=só	10a green snake	kpógó-tógò
16 to hit	tăă	10b snake (black or brown)	sóó
17 gun	năă	10c egg-eating snake (black)	kpáárú
18 bullet	m+gbóró ~ m+gbóró	10d snake (lit. no-head-no-tail)	bóó-h+zé-ló-
19 gunpowder	gínĩ		dű-ănzé-ló

11	lizard	gbèrè
12	chameleon	nǎǎnǎ
13	monitor	bíǎ
14	weak lizard	wí-léɛlì
15	crocodile	ba
16	tortoise	kàrì-ʔóó

36. Small Creatures

01	snail	kpěě
02	slug	ṁ+gběě
03	shellfish	kóó
04	cowey	ṁ+dì=dì
05	crab	káà
06a	crayfish	sórò
06b	prown	gè-sórò
07a	frog	kárá
07b	big frog (toad)	buru-fòò

37. Fish

01	fish	bárí
02	eel	ʔúúúúúúúúúú
03	catfish	kpǎǎ(-múú)
04a	small fish (skinny)	ṁ+tùgùrù
04b	small fish	běí
04c	shark	ṁ+kòdo
04d	small fish	ʔáká
04e	fish (dull)	ṁ+dà
04f	fish with thick skin	kòà
05	to fish, to catch a fish	síi bárí
06	to fish with a line	sííímǎ kòwɛ
07	fish-hook	kòwɛ
08a	fishing trap	ṁ+kàrà
08b	fishing net	gbǎǎ
09a	fin	suu-wěě-bárí
09b	fin	suu-kɛ-gbàà
10a	gill	sa-kɛ-tǎ
10b	gill	kpí=kpá-kɛ-tǎ-bárí
10c	gill	sà-ṁ+gùrù
11	scales, fish scale	ṁ+kuri
12	to scrape off scales	kò n+kuri (lòò ló)
13	bone	suu-bárí

38. Birds

01	bird	wí-nǎ
02	pigeon (onomatopoeia?)	běěkùuù
03	hawk	sáságàrà
04	falcon	ṁ+gò
05	eagle	ṁ+kpòò
06	vulture	dèrè
07	stork	wárá
08	crow	ṁ+píínǎ
09	parrot	ṁ+sábo
10a	nest-making bird	wí-ṁ+děě-něě
10b	hummingbird	wí-sò
10c	corn-eating bird	kpěě
10d	black bird (with white neck)	gǎǎmǎǎtǎà
11	to twist the neck (of bird)	ʔiirà měě
12	to pluck out feathers	lúú bǎ
13	to singe	ʔóó
14	fawl (cock or hen)	kǎǎ
15	cock	doó-kǎǎ
16	crest	ṁ+zé-bóó-doó-kǎǎ
17	to crow	kúu m+kpǎ
18	hen	ʔúú-kǎǎ
19	to cackle	kò ké
20	egg	ké
21	to lay eggs	doyà ké
22	to hatch	ké ké
23	to become hatched	kɛyá
24	chicken	wíí-kǎǎ
25	duck	kǎǎ-bèkéè
26	wing	ṁ+pó
27	feather	bǎ
28	beak	deènũ-wí-nǎ
29	talon	bíí (ngò)
30	to fly	péɛ
31	to fly up	péé boó
32	to glide	kɛɛrà
33	to spread wings	yaare m+pó
34	to close wings	bii m+pó
35	to flap wings (for a bird shot down)	kpá ṁ+pó
36	to sing	ʔóó sóó
37	to peck	tǎgǎ

38	nest	to-wí-nǎ
39. Insects & Worms		
01	insect	wíí-ń+dì=dĩĩ
02	bee	yááyó
03	(artificial) beehive	kũũ-yááyó
04	honey	nǎǎ-yááyó
05	to take out honey	lɔɔ
06	to sting	tǎǎ
07	bee-sting	dáa-yááyó
08	beetle	kpǎǎ
09	dragonfly	wí-pàpàlálà
10	butterfly	gǎngo
11	firefly	gà-ń+sǎ
12	locust?	mĩĩĩ
13	cricket	pìnǎ
14	grasshopper (onomatopoeia)	káká-ń+dé
15	to jump about (for grasshopper)	pégi
16	cockroach	ń+kí=kò
17	mosquito	ń+fí=fěě
18	jigger	ń+póó
19	head louse	suu-ke-bóó
20	body louse	tùmkpěńě
21	tick	suu-m+gbógó
22	bug	ń+zùzúga
23	fly	ń+si
24	to gather on sth (for flies)	bǎǎń bo-nũ
25	tsetsefly	sǎ
26	spider	ń+díì-ká
27	cobweb	to-n+díì-ká
28	driver ant	sǎgǎ
29	termite	sagáa-nǎǎ
30	house ant	tǎ-ń+kpanĩ
31	ant (smelling)	íló
32	anthill	nǎǎ
33	horsefly	pò-ń+sĩ
34	to shake off (insects)	kpó ń+sĩ
35	worm (generic)	mĩĩ
36	leech	ń+tùtùe
37	earth worm	túmbèrè
38	millepede	ń+tì=tǎǎ
39	centipede	ń+sáà

40	scorpion	pèere
41	hairy caterpillar	lǎá-těě
42	maggot	ń+dúé
43	round worm	zígírí mĩĩ
44	tape worm	kà-mĩĩ
40. Plants		
01	tree	té
02	to cut down (a tree)	kěě té
03	to fall down	dó kě
04	oil palm	té-zoo
05	nut of oil-palm	bóó-zoo
06	coconut palm	zòò-kéè
07	palm-wine tree	ń+kɔɔ
08	palm-frond, branch of & palm	la-zoo
09	midrib of palm-frond	mĩmǎ-zoo
10	leaf of palm	pa-la-zoo
11	bamboo	ń+gárágbà
12	bamboo shoot	měě-ń+gárágbà
13	bamboo sheath	kpí=kpá-ń+gárágbà
14a	thorn-tree	kpǎǎ
14b	thorn-tree (big)	íńm
15	rice plant, cooked rice	té-ń+zǎǎ-kǎǎ
16	rice	ń+zǎǎ-kǎǎ
17	chaff, tusk	(kpí=kpá)
18	maize, maize plant	kpá-ń+zìrà
19	flour (any type)	zárará
20	small grains	si=sũ kpá-ń+zìrà
21	sugar-cane	ń+bògò
22	vegetable	kpó
23	pumpkin	ń+íéé
24	pumpkin pip	pa-n+íéé
25a	ground-nut (old name)	wí-kuekúèrè
25b	ground-nut (new name)	wǎ-ń+kéré
26a	kinds of beans	kérè-bèkéè
26b	kinds of beans	tàa-kéréè
27	yam	saà
28	sweet potato (loan?)	ímpìgímpì
29	cassava, manioc	záákpǎ
30	onion	íáyo
31	tomato	tòmǎtò
32	tobacco, tobacco leaf	pa-n+sǎ-sǎ-

m+biè	
33 tobacco	sã-m+biè
34 to smoke	wáá
35 pipe (for smoking)	bǎǎ-ím+biè
36 parasitic plant	gòmpìòri
37 to grow (along another tree)(vi)	pigà
38 to grow along (vt)	pigì
39 grass	wíí
40a grass	ʔóó
40b grass	h+sàrà
41 reed, papyrus	h+sàrà
42 burnt grass	m+bí=bíí-ʔóó
43 to cut grass	kawì ʔóó
44a weed	dí=díí-lé-kě
44b weed (2)	yóó-h+sěmě
44c weed (3)	pa n+sã-bĩĩ-m+kpě
45 cotton	wĩ
46 mushroom	h+dũ

41. Parts of a Plant

01 tree-trunk	kí=kú-té
02 log	kéré-té
03 stick	té
04 to cut the trunk a little	ku té
05 bark of a tree	kpí=kpá-té
06 to take off the bark gbáára	kpí=kpá-té
07 to take off fiber from a plant	lɔɔgà
08 sap, juice of tree	mĩ-té
09 base of tree-trunk	h+kěńě-té
10 tree-fork	dáa-té
11 tree hollow	kóró-té
12 branch	nǎǎ-té
13a to cut off branches	fuu nǎǎ-té
13b to cut off branches	kěě nǎǎ-té
13c to cut off branches	kpó nǎǎ-té
14a leaf	h+sã
14b leaf	pa-n+sã
14c leaf	zígíí-pa-n+sã
14d leaf	pògòrò
14e leaf	gbóróró-pa-n+sã
15 to strip off leaves (from a branch)	kǎ

pa-n+sã	
16 flower	suulè (suu-lèʔ)
17 bud	měẽ
18 to bloom	pǔmẽ měẽ
19 seed	sí=sũ
20 sheath	kí=kóó
21 to come out of the sheath (for beans)	baa kí=kóó
22 thorn	suu-té
23 (vertical) tendril	měẽ
24 (horizontal) tendril	mǎǎ-kě
25 to spread (for tendril)	dáára
26 root	nĩ-té
27 stump of tree	kpò-h+kěńě-té
28 fruit	bóó-té
29 to pick fruits	kǎǎnǎ (bóó-té)
30 to shake a tree (to get fruits)	zugè (bóó-té)
31 to catch hold with a hook	duumǎ
h+sóó	
32 hook (for fruits)	h+sóó
33 stone of fruit	kpógó-bóó-té
34 flesh of fruit	zori-bóó-té
35 skin of fruit	kpí=kpá bóó-té
36 to peel	gbágí
37 kola nut	bóó-gbĩĩ
38 calabash	kpúgu
39 banana plant	bèè-h+kìrìmǎ
40 plantain	tàa-bèè
41a to break off bananas (from the bunch)	ku bèè
41b to break off a banana (from the tuft)	waarà
42 to become broken off (for a banana naturally)	waarà
43 orange	h+déńdèrè
44 papaya	kũǎǎ
45 mango	fíí-kúá
46 pineapple	zógòmǎǎ
47 lime	h+déńdèrè-bǎĩĩ
48 coconut	zòò-kéè
49 pear	h+bèè
50 apple	h+daro

- 51a to become mature (for a fruit) dú[?]ìgè
 51b to become mature[?]igì
 52a to become too mature[?]úá[?]igì
 52b to become too mature[?]úá dú[?]ìgè
 53 to ripen (fruits) artificially[?]éèrè
 54 to become ripe[?]éé
 55 ripe[?]éé
 56 unripe búú
 57 to find out whether ripe or not by pressing
 bigi[?]ìrì

42. Life of a Plant

- 01 to come out (for a plant) pǒmẽ mẽẽ
 02 to germinate sí mẽẽ
 03 seed, bud mẽẽ
 04 to grow dũũ
 05 to spread its branches dáará nãã
 06 to bloom (lit. bring flower) zǒǒ suulè
 07 to bear fruits mũũ-bóó
 08 to wither kãã

43. Cultivation & Harvest

- 01 to farm tii tẽẽ
 02a garden (lit. farm-near-house) tẽẽ-lóó-be
 02b garden (lit. farm-back-house) tẽẽ-wẽẽ-tǒǒ
 03 field, farm tẽẽ
 04a to cultivate to make a garden bã[?]óó
 04b to cut bush bã nãã
 05 bush-knife gè
 06 to weed kawì[?]óó
 07 to heap up weeds bǒǒnẽ[?]óó
 08 to become rotten (for weeds) ([?]óó) dú
 bì=bẽẽ
 09a to cultivate ground bu kẽ
 09b to cultivate with bumã
 10a hoe òm+kpàwe
 10b hoe tò
 10c hoe pirí-tò
 11a handle of a hoe té-òm+kpàwe
 11b handle of a hoe té-tò
 11c handle of a hoe té-pirí-tò
 12 to seed wẽẽ sí=sũ bànã (wẽẽ bànã)

- 13 to plant (for a seedling of maize) fó (nũ)
 14 to spread medicine[?]egà (ò+biè)
 15 fertilizer ò+biè-fómã-nũ
 16 to fertilize wẽẽ ò+biè
 17 to harvest buurà
 18 sickle, harvesting knife kǒwε-bóó
 19 to thresh maize, to take maize grains kã
 20 to spread (maize grain) to dry yaare
 21 sift òm+kpàsà
 22 to sift saa
 23 to pound (to take off hasks) kũũ
 24 to polish rice, to clean rice sa
 25a mortar for pounding (generic) kpò-zèè
 25b mortar for pounding (big) kũũ
 26 pestle tũũ
 27 to grind kɔɔ
 28 stone grinder nũ-kɔɔmã
 29 to dig out (e.g. potatoes)[?]uu lòò[?]m
 30 to scrape the soil (for groundnuts) kɔɔ
 kẽ
 31 to take out beans from the sheath baa
 si=sũ lòò[?]m
 32 to eat the first of new crops dé sáá-
 bóó-té

44. Sleeping

- 01 to lie down, to sleep mãã kẽ
 02 to lie on one's back mããmã wẽẽ
 03 to sleep dígí
 04 sleep dìgì
 05 to dream mǒnã záára
 06 dream záára
 07 to talk in one's sleep ló bié dìgì
 08 to snore gɔrì dìgì
 09 to feel sleepy béénũ ò-dígí
 10 to doze buu dẽẽ dìgì
 11 to wake up kẽẽnã
 12 to wake up (sth), to put out kẽẽnẽ
 13 to be awake zi zère
 14 to spend a night (somewhere) mãã dó

45. Body Actions

01	to stand up	ʔérá bòò
02a	to get up (from lying down)	ʔáá mǎǎ kē
02b	to get up	ʔáá bòò
03	to straighten (sb)	darà lǒò kē
04	to sit down	tǒǒ kē
05	to straddle (a chair)	tēmǎ léé n+sínē wēē
06	to crouch	wíyá kē
07	to kneel	kú rí+kpogí kē
08	to lie flat	mǎǎ ʔòòrà
09	to bend over	kowà
10	to straighten oneself, to stretch oneself	nĩĩnǎ ló
11	to tread	sǎǎ sēē
12	to stumble	wéérá dò
13	to make someone slip	ʔórē
14	to be slippery	dú ʔòrē
15	slippery place	ʔòrē-kē
16	to stagger, move unsteadily	ʔegì
17	to fall, to tumble	dò
18	to crawl	kuu
19	to rest one's cheek in one's hand	lerà bá n+gígǎ
20	to lean (against sth)	bérà
21a	to sprawl, to stretch oneself	nĩĩnǎ ló
21b	to stretch one's body	tǎ ló
22	to open one's legs	yǎǎnǎ léé
23	to open one's mouth	yǎǎnǎ deèñũ
24	to open one's eyes	mũũ nǎ dēē
25	to shut one's eyes	bii dēē
26	to show one's teeth	sēēnē dǎá
27	to face	mǎ n+sĩ
28	to turn one's back	siirà wēē
29	to step back	sǎǎnē wēē
30	to wave a hand	darà bá
31	to invite (sb) with one's hand	wííímǎ bá
32	to give a sign	nē yìimǎ
33	sign	dò-bá
34	to point	zere bá
35a	to shake one's head	zugè bóó

35b	to deny, to shake one's head	piige bóó
36	to nod, to agree	tóó bóó
37	to stretch oneself (to touch sth)	kpǎ
38	to jump	péé
39	to jump over	péé tēē bòò
40	to step over	yǎǎnǎ léé tēē bòò
41	to dangle	kǒǒ kēèrà
42	to hit (sth) incidentally	tóó ló
43	to bump (against sth)	kúmĩ
44	to avoid (sth)	ʔáá deè
45	to be in the way	tǒǒ deè
46	to bar sb's way (with one's arms)	kpega deè
47	to get out of the way	ʔáá kà deè
48	to put sth in the way	lee nũ kà deè (lee nũ)
49	to put away what is in the way	lòò nũ kà deè (lòò nũ)
50	to hide oneself	gúyǎ
51	to move	sǎǎ

46. Movement

01	to go	ʔàá
02	to go away	tēē ʔàá
03	to go before (sb)	za n+sĩ ʔàá
04	to go straight	tárè bóó ʔàá
05a	to turn to the right (hand)	tēē bá lè
05b	to turn to the left (hand)	tēē bá sèe
06	to come	dú
07	to come from (somewhere)	ʔáá
08	to enter	bǎ-tò
09	to go out, to come out	ʔáá-tò
10	to board (a bus), to go (on bus)	dēē sǐ ì bò
11	to get off, to go down	sií kē
12	to jump down	péé dò kē
13	to climb (a mountain)	dēē
14	to climb down	saá kē
15	to go beyond (a mountain)	ʔēēnǎ
16	to climb a tree	dēē té
17	to climb down (a tree)	ʔáá bò-té
18	to start, to set out	darà bóó ló
19	to return (lit. go come)	sí dù

14	bellows	kpáwù
15	to blow bellows	ʔúúmǎ
16	to work wood	kpáágá té
17	axe	̀n+pa-té
18	adze	pirí ̀m+pa-té
19	nail	̀n+туру
20	peg, wooden nail	̀m+pyógó dáa té
21	to split	baa
22	to shave wood	kwó té
23a	knife (for cutting bush)	gè
23b	peti knife	̀n+zimǎ
24	handle of a knife	té-bóó-gè
25	chisel	̀m+pyógó-bóó-kpé
26	to curve	togì
27	saw	fègèfè
28	to cut with a saw	fumǎ
29	board	bàa té
30	to mold pottery	dèè bǎǎ
31	to make smooth the surface of a pot	ʔórè
32	smoothing stone	dèè-ʔórè-nũ
33	to braid string, to rub a string	sárí dí=díí
34	string	dí=díí
35	rope	dí=díí
36a	physical skill	kpógó
36b	skill (count-head)	bugi-bóó
37	skillful (person)	(nèè) kpógó
38	unskillful (person)	(nèè) sóóga
39	to be idle	tǔmǎ ʔèñè ʔǔǔ
40	to make an effort	piigà
41	to employ	tú (nèè)
42a	to sack	kpó (nèè)
42b	to sack	kwó (nèè)
43	to prepare, to get ready	kpèñǎ ló
44	to try	dó
45	to accomplish	ʔégé
46	to stop working	kuu
47	to fail in one's work	dó
48	to make a mistake	nǎǎ lònũ
49	easy (task)	wàre (n+tí=tǔǔ)
50	difficult (task)	ʔàge (n+tí=tǔǔ)

51 to be too difficult ʔúá dú ʔàge

48. Fire

01	fire	̀n+sǎ
02	spark	gǎ-n+sǎ
03	ashes	̀n+tǔ
04	smoke	̀n+sǐí
05	soot	̀m+bí=bíí
06	to make a fire (by rubbing sticks)	gbó ́n+sǎ
07	to kindle, to light fire	mũ n+sǎ
08a	to catch fire (for a person)	kúre n+sǎ
08b	to catch fire (for a thing)	bé ́n+sǎ
09	to burn (sth)	ʔóó (nũ)
10	to burn (vi)	bé
11	to spread <of fire>	laarà
12	to stir fire	kwó n+sǎ
13	to reduce to ashes	bé dú n+tǔ
14	to extinguish	dímè
15	to go out, to become extinguished	dǐí
16	to warm oneself near the fire	zugà ̀n+sǎ
17	firewood	kǎǎnǐ
18	to gather firewood	kúre kǎǎnǐ
19	to put firewood in fire	wèè kǎǎnǐ ́n+sǎ
20	to take out firewood from fire	kwó kǎǎnǐ ́n+sǎ
21	match	kpà-̀n+sǎ
22	to strike a match, to light a match	tǎ kpà-̀n+sǎ

49. Water

01	water	mũũ
02	foam	fée
03	to become wet	dú tóó
04	to make wet	nǎǎmǎ tóó
05	wet (cloth)	tóó (wí-kò)
06	to dip, to soak	dewè
07	to take (sth out of water)	kwó nũ mũũ
08	to shake off water (lit. strike water remove from hand)	pĩ mũũ lè la bá
09	to wipe (one's wet hands)	fǎǎnǎ bá

10	to squeeze	ʔiirà
11	to dry (sth over fire)	wãã
12	to become dry	dú ki=kãã
13	dry (cloth)	ki=kãã (wí-kò)
14	to draw water	tawì mũũ
15	well	bãñã-mũũ
16	to strain water to clean it, to filter (mũũ)	saa
17	to mix	gwá (mũũ nẽ nũ)
18	to become mixed	gwáyá
19	to stir	kò
20	to knead	fémí
21	to become sticky	dáágá
22	to make sth sticky	dáágè
23a	to coagulate (vi)	lurà
23b	to coagulate (vt)	lurè
24	to melt	légá
25	to make sth melt	légè
26	to drip	karì
27	drop	karè
28a	to ooze (vi)	gbórá
28b	to cause to ooze (vt)	gbórè
29a	to leak	kórí
29b	to cause to leak	kórè
30	to sprinkle (water)	pĩĩgã (mũũ)

50. Language

01	voice	mõõ
02	word	bóó-biè
03	meaning	bóó-nũ
04	language	(mõõ)-kãã
05	to say	ló (biè)
06	to have a chat	gocorà
07	to speak loudly (lit. speak carry voice)	ló dàrà mõi
08	to speak to sb	ló biè nẽ nẽẽ
09	to whisper	sáará
10	to stop saying	ʔémã ló biè
11	to listen (to sb) silently	gbãã tĩ
12	to be quiet	ʔá tóó
13a	to get cool (mentally)	dú tóó
13b	to be quiet	dú sòm

13c	quiet person	tóó nẽẽ
13d	cold person	nẽẽ tóó
14	to speak (a language), to talk	ló kãã
15	to understand (a language)	dã (kãã)
16	to tell (sth to sb)	ló (nũ nẽ nẽẽ)
17	to let know	nẽ yĩmã
18a	to announce (to the public)	nẽ mõi
18b	town-cryer	nẽẽ-kéré
18c	for town-cryer to announce	kpá kéré
19	announcement	nẽ-mõi
20	news	biè
21	to report	kpéyá
22	to call	wígi
23	to call a person loudly	wígi nẽẽ dàrà mõi
24	call	wígi-wéé
25	echo	dò-mõi
26	to answer a call, to reply	zigà (wéé)
27	to remain silent (when called)	ʔáyé tóó
28	to greet	tãã-mõi
29	to say farewell, to say good-by	nãã wó
30	to tell a lie, to cheat	fuu n+dí=dẽẽ
31	lie	n+dí=dẽẽ
32	to deceive	gããmã
33	to conceal (a fact), to hide (a fact)	gĩ biè
34	to speak of sb in his absence	ló biè wẽẽ nẽẽ
35	to speak ill (of sb)	ló póró biè
36	to ask	bĩĩnã bĩĩ
37	to answer	ʔáará bĩĩ
38	answer	ʔáára
39	to shout, to cry	tĩĩ m+kpã
40	to say loudly and rudely	ló biè dàrà mõi
41	to scold	pĩ nũ
42	to blame	kó biè
43	to praise	leerà
44	praises	lèerà
45	to boast	kaagà
46	to affirm	zigà (biè)
47	to deny	ʔãñã

48	to disagree, to oppose to, to contradict	
	gáa zìgà	
49	agreement	kũũnẽ mĩĩ
50	to come to an agreement	kũũnẽ mĩĩ
51	to promise	zìgà nũ
52	promise	zìgà
53	to keep one's promise	lee zìgà
54	to break one's promise	lɔye zìgà
55	to request	bãã nũ
56	to refuse	gáa zìgà
57	to recommend to do, to incite	do bánẽ
58	to allow	zìgà
59	to be forbidden	bẽẽmã
60	to command, to order	nẽ mĩĩ
61	to obey (lit. put respect body)	wẽẽ ká ló
62	to beg pardon	bãã
63	to forgive	ʔaá dẽẽ
64	to pacify (an angry person)	tããgã ló
65	to console	nẽ ʔàge nẽẽ
66	to encourage (lit. put power body)	wẽẽ kpógó ló
67	to consult	zĩĩnã
68	to teach	tógè (nũ nẽẽ)
69	to teach good manners	tógè ñ+zóó- zójó
70	to explain	baa n+kẽẽ
71	to stammer	kãã ñ+zi=zere
72	to speak to oneself, to think aloud	burà dàrà mĩĩ
73	to complain	nẽ kpèya
74	to tell a tale	ló yógí
75	tale	yógí
76	tabooed word	biε sé
77	to be prohibited to talk a word	sé ló biε
78	filthy word	dí biε

51. Playing

01	to play	birà (biri)
02	to play a game	birà ñ+gó
03	game	ñ+gó
04	to dance	zee(zee)
05	dance	zee
06	feather headdress	bã-gò

07a	mask	mĩĩmĩ
07b	mask	ʔárú
08	to sing	ʔójó sójó
09	song	sójó
10	drum	kèrè
11	to stretch the skin on a drum	wẽẽ kpándé dẽẽ kèrè
12	to beat a drum	kpá (kèrè)
13	xylophone	géégéré
14	flute	koò
15	small bell	gérà
16a	gong	kéré
16b	maracas	wí-zàazaga
16c	whistle (onomatopoeia)	fírírí
17	to ululate	tó-tĩĩ m+kpã
18	ululation	tĩĩ-m+kpã
19	to whistle	ʔúri pí=póó
20	whistling	pí=póó
21	to whistle with one's fingers	ʔúri koòbá
22	to clap hands	kpábá
23	to lead dancing or singing	zamã ñ+sí
24a	leader	nẽẽ bóó
24b	leader	nẽẽ zamã ñ+sí
25	to play ball	birà bóó-kpá-ñ+dé
26	ball	bóó-kpá-ñ+dé
27	to catch (a ball)	síi (bóó-kpá-ñ+dé)
28	to throw (a ball)	tóó (bóó-kpá-ñ+dé)
29	to applaud by clapping hands	kpá bá
30	festival (lit. time doing thing)	ñ+tójó nãã nũ
31	to make merry (for children)	yaawà
32	to tickle	zugè
33	to imitate	imã bá

52. Fighting

01	to abuse	sííĩmã mũnũ
02	curse	póró biε
03	to threaten	sííĩmã pò
04	to dispute, to argue	kánã
05	to settle a dispute, to settle an argument	kpé biε
06	to fight	bébé

07	to incite a fight	sorè bé
08	to refrain from a fight	[?] aa ló bé
09	to settle a fight	gbaarà bé
10	to spring upon sb	pégi (boněě)
11	to strike	pĩ
12	to slap	wéé bá
13	clap	wéé bá
14	to pinch	zúwí
15	to kick	pĩ
16	to throw down (sb)	tóó něě fěé kě
17	to carry down (sb)	darà něě fěé kě
18	to press down (sb)	zagà něě bíí kě
19	to bind	bójó (něě)
20	to chase away (sb)	kpó [?] ààmă
21	to drive (somebody) out	kpó lòò [?] m
22	to defend oneself	bεε bá
23	to defend sb, to protect sb	kpega deè

53. Giving & Receiving

01	to give	ně
02	to hand over	síi bá ně
03	to stretch one's hand to give	nĩĩnă bá ně
04	to give a gift (by himself)	ně dǒǒ-ně
05	gift	dǒǒ-ně
06	to get, to obtain	[?] é gé
07	to receive	tú
08	to pick up, to get what sb has left	tú lóo kě
09	to get back	tú [?] òòmă
10	to ask for sth	bĩĩnă nũ
11	to refuse to give	gáa ně
12	to give a portion of what one owns	ně báà- ^h +sĩ nũ
13	to share with sb, to divide between many people	dǒǒnă nũ
14	to sell	[?] óo (nũ)
15	to buy	záá
16	money	kpìgì
17	price	sí
18	how much?	měku
19a	to be expensive	sí kpìgì
19b	expensive meat	^h +dé [?] agε si kpìgì

19c	expensive meat	^h +dé [?] agì záazaá
20	cheap (meat)	wàre (ndé)
21	to pay	kpě
22	to give an order to buy sth	ně mǒǒ
23	to borrow sth	bóore nũ
24	to borrow money	bóore kpìgì
25	to return sth	[?] oomă nũ
26	to return money	[?] oomă kpìgì
27	debt	bùu
28	to redeem	[?] áará
29	to compensate	ně nũ děēnũ
30	to give sth as a sign of thanks	ně nũ
31	to deposit	lee nũ ló
32	to take charge of sth	ku děē ló
33	to pay wages	kpě nũ
34	payment	kpě-kpìgì
35	to steal	zii
36	to rob	zii nũ
37	to send (by post)	lεεrà
38	to deliver	mă nũ
39	to exchange, to replace	yăăănă

54. Society

01	village	bǒǒ
02	inhabitant	kú-bǒǒ
03	home, home village	be
04	town	bǒǒ
05	tribe	kpá-dó
06a	clan	zǒǒgǒ
06b	clan, family	gă
07	group (of people)	gbò-něě
08a	people of age-group	kú-gbò
08b	age-group	gbò
09	whiteman, European	něě bèkéè
10	pygmy	(w í-)dímdím
11	bushman	něě boro
12	thief	zii
13	to accuse	gba biε
14	to suspect	[?] imă děē
15	to inspect	[?] irì nũ
16	to judge	kpé biε
17	fault	yogi

18	to punish	ně kpòtẹ
19	punishment, penalty	kpòtẹ
20	whip, stick	pĩ nũ nẽẽ
21	endurance	ʔĩĩmǎ
22	leader (of people)	nẽẽ zàmǎ-ñ+sĩ
23	leader	nẽẽ bóó
24	important person	gbèrẹ nẽẽ
25	famous (person)	ñ+zóó (nẽẽ)
26	to succeed in life, to attain honour	ʔégé nũ m̀m̀dũũ
27	owner	tẹʔége
28	host	tẹ-to
29	guest	sáà-nẽẽ
30	friend	kóò
31	companion	kóò
32	neighbour	nẽẽ kẹ-zǔgǔ
33	to make an appointment	kpáágá n+tí=tǔǔ
34	appointment	ñ+tí=tǔǔ
35	to meet	zǔǔnǎ
36	to go to meet sb. coming	síí zǔǔnǎ
37	to invite	wígi
38	to wait	ʔérá
39	to visit	kǎǎ
40	to let in	wẽẽ ʔm
41	to shake hands	tú bá
42	to take with hands	túyá bá
43	to entertain	kpáágá sáà-nẽẽ
44	to detain, to ask sb to stay	peye n+tǔǔ
45	to part (with sb)	zaare
46	school	to-kpá
47	teacher	nẽẽ tògè
48	pupil	wĩĩ-to-kpá
49a	market	si
49b	site-market	kẹ-síí
50	shop	to-ʔóo-nũ
51	slave	sũ
52	beggar (lit. person-beg-thing)	nẽẽ-bǎǎ-nũ
53	meeting	bǔǔnǎ
54	to assemble (vi)	bǔǔnǎ
55	to assemble (people) (vt)	bǔǔnẽ
56	square	bóó-gbóó

57a	to be crowded	ʔágǎ
57b	to be crowded	wǎǎ
58	trouble	tǎǎgǎ

55. Politics

01	to govern, to rule over	bεε
02	law	yogi
03	tribute	lɔɔ-kpìgì
04	to pay tribute	kpě kpìgì
05	tax	kpìgì
06	king	mẽnẽ
07	chief	mẽnẽ
08	chief's homestead	to mẽnẽ
09	country	kpádó
10	flag (square cloth)	báà wí-kò
11	boundary	bo-zèè
12	to border on	kara bòò
13	world	bo-ʔóó
14	poverty (because of a disaster)	kpàrà
15	to reconstruct (after a disaster)	kpáágá
16a	to prosper (lit. become thing)	dú nũ
16b	to prosper (lit. go front)	sii n+sĩ

56. War

01	war	bé
02	to fight a war	bébé
03	army	nẽẽ-bé
04	soldier	nẽẽ-bé
05	rank (of a soldier)	kpǎǎ
06	to win	ʔee bá
07	to be defeated	gáa ʔèè bá
08	enemy (lit. person hate-body)	nẽẽ báá-ló
09	to catch an enemy	síi
10	to kidnap	kee
11	captive	ká-to
12	to kill	fé
13	to choke	bii bá mẽẽ
14	to kill by hanging	wẽẽ dí=díí mẽẽ
15	to escape (for a captive), to run away	téérá
16	to redeem (a captive)	ʔáará lòn to
17	to set free (a captive)	lɔ bá
18	to help (sb from danger)	wẽẽ bá

- 19 to escape from a danger téérá ?àà bá
nũ-?ú
20 to spy (lit. hide look) gũyǎ ?ìrì
21 to defend kpegì
22 to pillage, to plunder di nũ
23 weapon (generic) nũ-bé
24 to shout a war cry nẽ mǔǔ-bé

57. Feelings

- 01 to feel pleased ?éérè nẽẽ
02 to dance about in joy zee ?éé nẽẽ
03 to become active (lit. enter cover) bá kò
04 to laugh mǎgǎ
05 laughter mǎgĩ
06 to feel lonely (lit. contrast-ga?-body) dú
bíí-gá-ló
07 to feel sad dú biira nẽẽ
08 to sob (lit. talk remove from mind) ló ló la
nẽẽ
09 to weep, to cry tó
10 to stop weeping ?á tóo tó
11 to sympathize with sb, to pity sb ba zá
12 to like wurè
13 to dislike gáa wùrè
14 to want (sth) gbĩ
15 to want to do gbĩ nǎǎnǎ
16 to hope burà
17 to admire zigà
18 to envy, to be jealous (lit. hate body) báá
ló
19 to become surprised degeré-ya
20 to surprise degere
21 to startle síímǎ kóó
22 to fear, to be afraid of síírá pò
23 to frighten síímǎ pò
24 fear pò
25 to get angry wẽẽ sárá nẽẽ
26 anger sárá nẽẽ
27a to feel displeased nẽẽ biirà
27b to cause to feel displeased biire nẽẽ
28 to be silent (in anger) bó nũ
29 to endure, to bear ?ĩĩmǎ

- 30 to be restored to good temper ?éérè
nẽẽ
31 to thank kó yàa
32 to feel shy síírá mũnũ
33 to feel shameful síírá mũnũ
34 shame, shy mũnũ
35 to puzzle (sb) bóó ló
36 to honour, to pay respect wẽẽ ká ló
37 to despise lóo ká ló
38 to love wurè
39 to embrace sí bíira ló
40 to kiss lérá
41 to have sexual intercourse dorà
42 mercy, grace ñ+sì=sǎǎ

58. Mental Activity

- 01a to memorize tǔmǎ bóó
01b to memorize wenǎ nũ bóó
02a to remember, to have comitted to memory
tǔmǎ nẽẽ
02b to remember kǔnǎ nẽẽ
03 to forget tá nẽẽ
04 to remember, to recall to mind kǔnǎ
nẽẽ
05 to know yĩmǎ
06 to learn nǔ
07 to understand dǎ
08 to read bugi
09 book kpá
10 newspaper kpá
11 to write ?éẽ
12 character, letter (lit. seed-word) sí=sũ-
bie
13 to be correct dú ñ+tarí
14 to be wrong, not to be correct dú ló-nũ
15 to correct (an error) do bá (lò-nũ)
16 letter (mail) kpá
17 paper bàà-kpá
18 to draw tá (nũ)
19 picture (by drawing) kukúe
20 to think bugi bóó
21 to consider bugi bóó ló
22 to decide burà

23	to plan	nɔ̃ɔ̃ (nũ)
24	to swear	zírá
25a	oath (with juju)	gbéé
25b	oath, promise	zíí
26	to believe	zigà
27	to doubt (lit. think heart)	kě nẽẽ
28	to experience difficulty	mɔ̃ɔ̃ tǎǎgǎ
29	to feel anxious	ʔégé donẽẽ
30	to feel relieved	ʔaá bá
31a	to get accustomed to (sth)	tɔ̃mǎ ló
31b	to get accustomed	(nũ) ʔɔ̃ɔ̃rǎ ló
32	to lose interest in (lit. remove heart on)	lɔɔ nẽẽ bɔ̀
33	to be clever	ʔégé yĩmǎ nũ
34	wisdom	yĩmǎ nũ
35	to be careful	ʔóyè dẽẽ

59. Number & Counting

01a	one	ʔɛ̃nẽ
01b	first	sáá
02a	two	bàà
02b	second	í-bàà
03	three	taá
04	four	taá-lè
05	five	wòò
06	six	ʔòò-lè
07	seven	ʔàràbà
08	eight	ʔaá-taá
09a	nine	sinǎʔò
09b	nine	dóʔò
10	ten	ʔòwì
11	eleven	ʔòwì nẽ ʔɛ̃nẽ
12	twelve	ʔòwì nẽ bàà
13	thirteen	ʔòwì nẽ taá
14	fourteen	ʔòwì nẽ taá le
15	fifteen	ʔòwì nẽ wòò
16	sixteen	ʔòwì nẽ ʔòò lè
17	seventeen	ʔòwì nẽ ʔàràbà
18	eighteen	ʔòwì nẽ ʔaá taá
19a	nineteen	ʔòwì nẽ sinǎʔò
19b	nineteen	ʔòwì nẽ dóʔò
20	twenty	tuu

21	twenty-one	tuu nẽ ʔɛ̃nẽ
22	thirty	tuu nẽ ʔòwì
23	forty	bàà tuu
24	fifty	bàà tuu nẽ ʔòwì
25	sixty	taá tuu
26	seventy	taá tuu nẽ ʔòwì
27	eighty	taá-lè tuu
28	ninety	taá-lè tuu nẽ ʔòwì
29	hundred	wòò tuu
30	to count	bugi
31	many (people)	tɔ̃ɔ̃ nẽẽ
32	many (things)	tɔ̃ɔ̃ nũ
33a	few (people)	pirí gbò nẽẽ
33b	few (people)	h+kũnĩ gbò nẽẽ
33c	few (things)	h+kũnĩ nũ
34	number	h+bumǎ
35	all people	zòò (mẽẽ) nẽẽ
36	how many (people)	mẽku nẽẽ
37	to become numerous	dú tɔ̃ɔ̃ h+bò
38	to become few	dú h+kũnĩ
39	to become exhausted	tá
40	to remain	tɔ̃mǎ
41a	to save, to reserve	kũmǎ
41b	to save	kpóógè
42	to add	wẽẽ ló
43	to deduct	lɔɔ ló
44	to divide	dɔ̃ɔ̃
45	to measure	do
46	measure	nũ-domǎ-nũ
47	half	kéré
48	five times	wòò h+tɔ̃ɔ̃
49	for the first time	sáá h+tɔ̃ɔ̃
50	the first road	sáá kà-deè
51	the second child	í-bàà wĩĩ
52	the next (stop)	le-(í)-bàà (ʔɔ̃ɔ̃)
53a	to be thirty years old	dú tuu nẽ ʔòwì gbáá
53b	to be thirty years old	dú tuu gbáá nẽ ʔòwì
54	alone	kóró ʔɛ̃nẽ

60. Religion

01	God	bàrì	18	to carrying pole	darà té
02	to create	děẽ nũ	19	to carry (sth) on one's head	tóórà bóó
03	to be in awe (of God)	siirà pò ?m̀m̀ bàrì	20	to put up (sth) on one's head	tóóre
04	church	tɔ-bàrì	21	headpad (loan?)	wí-sílikì
05	to pray	tããgã ló bàrì	22	to carry (sth) on one's back	dara wěẽ
06	mosque	tɔ-bàrì kú-?úrú	23	(small) carrying sack	bèrè mĩmĩ
07	to fast, to abstain from food	tããgã ló	24	basket (for carrying)	kũũ-tóómã-nũ
08a	spirit (of human beings)	yãmã	25	parcel	kó
08b	devil, spirit	zĩĩ	26	load, luggage	tò
08c	ghost (lit. hot-thing)	bèe-nũ	27	to put	wěẽ
09	spirit of a dead person	zĩĩ	28	to make (sth) approach	wěẽ tàà ló
10	charm for keeping off evil	nũ-kpègà	29	to push away (sth)	tãã bá lòn
11	omen (lit. near body thing)	ku-ló-nũ	30	to line up	nõõnẽ bo tãã
12	witch	tãã	31	line	tãã
13	witchcraft	?ibem	32	to spread (sth)	yaare
14	to bewitch	dú tãã	33	to put into terrible disorder	lagere
15	to lay a curse on sb.	fée zĩĩ	34	to be disorderd	lagàrà
16	curse	tããgã	35	to put in order	nõõnẽ
17	to purify	?õõnã	36	to put away, to take out	tú lòn
18	sacrifice	zóc	37	to store	kũmã
19	to sacrifice	wáará zóc	38	to hide	gĩ

61. Movement of Thing

01	to grope (in the darkness)	kõõgĩ bá	42	to put leaning	bere
02	to touch	kõõ bá ló	43	to put sth on sth	wěẽ nũ bo nũ
03	to seize, to grasp suddenly, tightly	síi	44a	to hang (sth on the wall)	kerẽ
04	to grasp sth	síimã bá	44b	to hang, to suspend (sth on oneself)	kerà
05	to scoop up with one's hand	?úúmã bá	45	to suspend (sth from the ceiling)	keerà
06	to pinch (sth)	zúwí	46	to become suspended	keerà
07	to hold in one's arm	keera bá	47	to take off sth suspended	lóc
08	to hold under one's arm	síi ke-là	48	to put in	wěẽ ?m
09	to leave (sth)	lobá	49	to take out	lóc ?m
10	to drop (vi)	tóré	50	to lift	darà
11	to drop (vi)	tóré kẽ	51	to pull up	duurà
12	to pick up	tú lòn kẽ	52	to load	nõõ
13a	to bring	tú zõõ	53	to put down	lawì
13b	to bring	zõõ	54a	to abandon (leave down)	gbéé kẽ
14	to carry away	darà ?ààmã	54b	to abandon (leave on)	gbéé mĩ
15	to leave sth(when going out)	lee (nũ)	54c	to abandon (remove hand)	lóc bá
16	to carry	darà	54d	to abandon (leave body)	?aá ló
17	to carry (sth) on a pole	bereà			

55 to lose	pe(y)ε	06 to connect (two sticks)	so té
56 to get lost	pe	07a to stick, to attach (lit. press-body)	bií ló
57 to pull	duurà	07b to attach (pin-body)	tií ló
58 to draw	tǎ (nũ)	08a to become stuck	biirà
59 to push	tǎǎ (bá)	08b to become stuck	tirà
60 to press (sth to make it smaller)	bii	09 to separate two things (stuck to each other)	dáárá
61 to press to fix it	síi ká kē	10 to become separated	dáárá
62 to shake (sth)	zugè	11 to paste up	ká (nũ)
63 to sway	zugà	12 to become pasted up	káyá
64 to move (sth)	sǎǎmǎ	13 to take off (a stamp pasted)	dáárá
65a to swing sth round and round (vi)	wiigε	14 to make a bundle	nǎǎmǎ bós
65b to swing round and round(vi)	wiigà	15 bundle (of envelopes)	bós
66 to gather	bǔǔnē	16 to wind round (lit. wind pass body)	pigì
67 to cover	ʔúnē nũ bòo	tēmǎ ló	
68a to uncover (vi)	seere	17 to tighten	luu (nũ)
68b to uncover (vi)	seerà	18 to loosen	gbaarà
69 to wrap up, to tie	korì	19 to become loose	táárá
70a to pack a load	kúε tò	20 leather strap	dí=díí-kpá-n+dé
70b to pack a load	lǎá tò	21 wire	kpógó-kpé
71 to unpack	gbéémǎ	22 coil	h+kí=ko
72 to put in with force	wēē nũ ʔm bá	23 to poke in	sóré
kpógó		24 to pull out	piorà
73 box	gbé	25 to hit in (a nail)	ká
74 basket (for putting things in)	kũũ wēē	26 to screw in	ʔíírá wēē ʔm
nũ ʔm			
75 to turn round	siirà kē		
76 to make sth turn round	siirà nũ kē		
77 to make sth face (towards) sth	siirà		
h+sǐ mǎ nũ			
78 to face (towards) sth	mǎ h+sǐ nũ		
79 to turn over	siirà		
80 to roll	kpórá		
81 to make roll	kpóré		
82a to scatter	zaare		
82b to scatter	lawε		
62. Connecting & Disconnecting		63. Transformation	
01 to tie a knot	luu kpò	01 to bend	béérá
02 to untie	gbaarà	02 to straighten (sth bent)	tárè
03 to become untied	gbaarà	03 to become straight	tárí
04 knot	kpò	04 to fold (paper)	ʔúwí
05 to connect	so dí=díí	05 to unfold	gbaarà
		06 to twist	ko
		07 to become twisted	koyà
		08 to flatten (a bent knife)	ʔɔɔre (nũ)
		09 to become flat	ʔɔɔrà
		10 to make round	kpórí
		11 to become round	dú kporó m+kpo
		12 to rub	sĩĩgĩ
		13 to polish	tí
		14 to whet, to sharpen the edge	tē
		15 whetstone	dēē
		16 to sharpen to a point	té bóó

17	to become sharpened to a point	tóó
18	to swell	be
19	to get tangled	lurà
20	to entangle	lurɛ
21	to untangle, to disentangle	gbagà
22	to stretch out	yããná
23	to make short	kpúrè
24	to become short	kpúrá
25	to squeeze	fěmĩ

64. Cutting & Breaking

01	to cut	fuu
02	to tear off a small portion from sth	fuu báà-n+sĩ
03	to cut into pieces	fumã píí-pirí
04	to slice	sěgĩ
05	to snap, to break	bũnĩ
06	to become snapped	bũná
07	to smash	tũgĩ
08	to become smashed	tũgã
09	to trample	zagà
10	to prod (with a stick), to poke	tiigi
11a	to hit	kõõ
11b	to hit	ká
12	to tear (cloth)	baa
13	to crack (a plate)	kěẽ
14	to become cracked	kěěná
15	to break into pieces	bũnĩ nããmã píí-pirí
16	to become broken into pieces	bũná dú píí-pirí
17	to spoil (a machine)	gbé(y)è
18	to become spoiled	gbé
19	to split (a branch)	dáárá
20	to break a house	fííré

65. Other Kinds of Action

01	to collect, to gather	lɔɔ
02	to compare (with sth)	do (lóó nũ)
03	to choose	sagà
04	to distinguish	sa nũ
05	to surpass	ʔee bá

66. Parts of Things

01	tip, point	bóó
02	end	kũmã
03	piece	pirí báà
04	slice	sěgĩ
05	hole (of a wall, on ground)	di=deè
06	to make a hole	ʔuu di=deè
07	side	kúra
08	surface (of a coin)	bòo
09	reverse	kɛ-bá
10	bottom	kɛ-ʔúu
11a	corner (inside)	súwí
11b	corner (outside)	bóó ʔúlí

67. Relation to Things

01	front, in front of	n+sĩ
02	rear, in back of	wěẽ
03	between, middle, space between	ʔèèrè-zèè
04	center, middle	zèè
05	up, top	bòo
06	down	kě
07	under	kɛ
08	inside	ʔm̀m̀
09	outside	bòo
10	left	sèe
11	left hand	bá sèe
12	left-handed man	sèe bá
13	right	lè
14	right hand	bá lè
15a	near	kúra
15b	near (lit. close body)	tàa ló
16a	around (sth)	lóó (nũ)
16b	the opposite side	mã n+sĩ
17a	It is near.	(dú-m-)kpúrá
17b	it is near.	(dú) tàa ló
18	It is far.	(dú) kpãã
19	behind	wěẽ

68. Colours & Shapes

01	colour	m̀+birɛ
----	--------	---------

02	red colour	do
03	red (stone)	doodo (dēē)
04	to become red	dú doodo
05	whiteness, white colour	ʔéé
06	white (stone)	ʔéé (kpò-dēē)
07	to become white	dú ʔéé
08a	blackness	birá
08b	to be black	bírá
09	black stone	birá kpò-dēē
10	to become black	dú birá
11	blue (loan)	buurù
12a	yellow colour	nǎǎ
12b	yellow	nǎǎnǎ
13a	to change (of colour)	yǎǎnǎ
13b	to change	siirà
14	spot	dò
15	to speckle	kú ím+biré
16	to dye	wēē ìm+biré
17	to daub (dirty stuff)	fǎǎnǎ
18a	line	nǐí
18b	line (in order)	tǎǎ
19	to draw a line	tǎ nǐí
20	to draw a line (with a ruler)	nǐí nǐí
21	to be equal	kũũnǎ
22	to resemble	bérá
23	to be like (sth)	bée
24	to be different	dú kère
25	mark	nũ-kùmǎ-dēē (-ló)
26	to put a mark	kumǎ dēē

69. Nature

01	sky	káára
02	sun	ìm+gbee
03	moon	ʔé
04	to go up (for the sun), to rise	sií bòo
05	to go down (for the sun)	sií kē
06	to dawn	zirà
07	to set (for the sun)	duurà (ló)
08	star	h+zǐǎ-káára
09	cloud	bùbù-dee
10	to spread (for cloud)	zaarà
11	fog (lit. dust-part of day)	dúu-dee

12	rain	bòo
13	to rain	doo
14	continuous rain	dòò bòo
15	to clear away	ʔǎǎnǎ
16	to cease, to stop raining	furà
17	vapour after the rain	h+tagi bòo
18	rainbow	gũũgũũ
19	to clear up	ʔéérá
20	lightning	ʔééra
21	to lighten	ʔéérá
22	thunder	nǎǎ-káára
23	to thunder	pǎǎ
24	cold air	tóo
25	dew	h+tagi
26	to blow	ʔurà
27	strong wind	fágà
28	to get blown away	pée
29	to stay in a shade, to shelter from the sun	wēē fùù
30	to be severe <of the sun>	ʔagì
31	to shelter from the rain (lit. enter under-shelter)	bǎ kε fùù
32	to shelter (enter in-shelter)	bǎ ʔm fùù
33	air (lit. calm-wind)	pée-tóo
34	east (lit. face sun morning)	dēē m+gbee
	lààle	
35	west (lit. face sun night)	dēē m+gbee
	ìmnē	

70. Light & Sound

01	to shine	mō
02	to glitter	dú yǎǎyǎǎ
03	to twinkle (for stars), to flash (for a lightning)	nǎǎ ʔém
04	light	h+sǎ
05	flash (of lightning)	ʔém
06	to flash	kǎyǎ
07	daylight, sunlight	ʔéé-dee
08	moonlight	ʔm̀mnē
09	darkness	h+díní
10	shadow, shade	kukúe
11	to get dark	bírá
12	to get bright (by the sun)	ʔéérá

13	torch	h+sǎ
14a	lamp (lit. light-western)	h+sǎ-bèkéè
14b	lamp	tòhzá
15	to light (lamp)	mũ (nsǎ)
16	to become lit (for a lamp)	bé
17	to shine (sth)	ʔéérè
18	momentary sound	dɔ-mǔǔ
19	continuous sound	gorì
20	to emit a momentary sound	doye mǔǔ
21	to emit a continuous sound	darà mǔǔ
22	to rumble	pǎǎ
23	to become quiet, to be quiet	dú sòm
24a	calm village	sòm bǔǔ
24b	calm village	bǔǔ sòm
25	noisy town	bǔǔ wíra

71. Geographical Features

01	mountain	gbèrè kpò-kě
02	hill	kpò-kě
03	top (of a mountain)	bó(ó)-m+bǔǔ
04	slope	kpòòkpòrò-kě
05	cliff (lit. side-wall)	kúra-gbàà
06	valley	bàà-kě
07	cave	nǎǎ
08	forest	ká
09	dense part of forest	ʔàgè-ká
10a	bush	ʔóó
10b	woods	pirí ká
11	savannah, steppe	kpàì-kě
12	desert	kpàakpàà-kě
13	horizon	bòò
14	land (as contrasted to the sea)	kě

72. River

01	river	fèñě
02	stream	ʔòò
03	sea	dòò
04	wave	fágà mǔǔ
05	pond	bǎnǎ
06	swamp	gbá
07	spring	ʔòò
08	waterhole	di=deè mǔǔ

09	way of water (after the rain)	kpè mǔǔ
10	deep place in the river	sòga
11	to be deep	sogà
12	to be shallow	dú ʔóóga
13	to go upstream	mǎ h+sǐ
14	end of river	bóó-mǔǔ
15	mid part of river	gbàà-mǔǔ
16	centre of river (widest part)	něñnégě
17	to go downstream	mǎ wěě
18	torrent	kpè mǔǔ
19	course of water in the river	h+sǐ
20	waterfall	deènũ mǔǔ
21	flood	dèerà mǔǔ
22	to subside (for water), to abate, to go down	(mǔǔ) tá
23	to dry up (for a river)	kǎǎ
24	bank (of a river)	kpò-kě
25	to remain on the surface of water	dèerà h+sǐ mǔǔ
26	to float up	gbará
27	to sink	dii
28	to refloat (sth), to salvage	buurà ʔàa mǔǔ
29	to be carried by water	yéé
30	to go (for water)	téérá
31	to cross (a river)	fuu mǔǔ
32	bridge	kàà mǔǔ
33	log bridge	bǔǔ
34	to cross a stream (for a fallen tree)	gbǎnǎ bo mǔǔ
35	to cross	gbǎnǎ
36	to cross a bridge	těě bo kàà-mǔǔ
37	to cross (a dangerous bridge)	těě bo kàà-mǔǔ
38	to cross a river on foot	sǎǎ tểể mǔǔ
39	bypass along river	kòòra mǔǔ
40	ship	faà-bèkéè
41	canoe	faà-té
42	to paddle	ʔó (faà)
43	paddle	bàmbará
44	to swim	zó mǔǔ
45	to dive	péé dɔ mǔǔ
46	to enter the water, to go into the water	

bǎ mǔú	
47 to come out of the water	ʔaá mǔú
48 to become muddy (for water)	dú gbá
49 to muddle by stirring up	bũũgẽ mǔú
50a to splash out water (many times)	pĩĩgǎ mǔú
50b to splash out water (once)	pĩ mǔú
51 to become clean (for water)	saarà

73. Earth & Minerals

01 ground, floor	kẽ
02a stone	dẽẽ
02b gravel	(kpò-)-sǎǎ
03 to heap up stones	kúε (sǎǎ)
04 flat rock	kpà-dẽẽ
05 sand	h+sí=sǎǎ
06 clay	wí-kém
07 white clay	bórbò
08 powder from white clay	h+dẽẽ
09 red soil	doodo n+sí=sǎǎ
10 humus, black soil	birá h+sí=sǎǎ
11 iron	kpé
12 to become rusty	dú sǎǎ
13 mud	gbá
14 hole (in ground)	di=deè
15 hole (in ground)	bǎnǎ
16 to dig a hole	ʔuu di=deè
17 to fill up a hole	dímě
18 trench	gótà
19 trench (path-pit)	bàà bǎnǎ
20 to fling up (soil)	pĩ (nsí=sǎǎ)
21 to bury	li
22 to disinter, to dig out	buurà
23 to stick (sth) into the ground	tii
24 to ram (a stick into the ground)	tií kě

74. Time

01 time, when	h+tǔǔ
02 period	h+tǔǔ
03 day	dee
04 daytime, afternoon	ʔεé-dee
05 morning	lààle

06 noon	ʔerà
07 evening	lóó-ʔm̀mnẽ
08 night	ʔm̀mnẽ
09 midnight	bàà-zè(è)-h+tǔǔ
10 dawn (lit. near morning)	lóó-lààle
11 the day before yesterday	yígà sǔǔ-ʔee-á
12 yesterday	sǔǔ-ʔee-á
13 today	nĩ-ʔee
14 tomorrow	sǔǔ-ʔee
15 the day after tomorrow	yígà sǔǔ-ʔee
16 everyday	zɔɔ mẽẽ dee
17 week	(kpǔ-)-sì
18 month	ʔě
19 year	gbáá
20 olden times, long ago	h+tǔǔ bèè
21 a little bit ago	h+kǎnǎ h+tǔǔ ʔaà
22 now	wée-í
23 soon	h+kǎnǎ h+tǔǔ
24 afterwards, later on	dáá nǎǎ
25 dry season	h+tǔǔ m+gbee
26 rainy season	h+tǔǔ b̀òò
27 hamatan	h+tǔǔ ógòlò
28 three hours	taá (á)wà
29 three o'clock	taá (á)lékééré
30 five minutes	wòò kíékíé
31 what time?	mě h+tǔǔ
32 to be in time	dú bo-n+tǔǔ
33 to be late	dú kùmǎ wẽẽ
34 early (lit. quick-hand)	wεε-bá
35 late	lò h+tǔǔ
36 holiday	h+tǔǔ b̀usée
37a January	sáá-ʔě lóó-gbáá
37b February	bàà-ʔě lóó-gbáá
37c March	taá-ʔě lóó-gbáá
37d April	taá-lè-ʔě lóó-gbáá
37e May	wòò-ʔě lóó-gbáá
37f June	ʔòòrè-ʔě lóó-gbáá
37g July	ʔàràbà-ʔě lóó-gbáá
37h August	ʔaá-tàa-ʔě lóó-gbáá
37i September	sinǎʔò-ʔě lóó-gbáá
37j October	ʔòwì-ʔě lóó-gbáá

37k November	ʔòwì nẽ ʔẽnẽ ʔé lóó-gbáá
37l December	ʔòwì nẽ bàà ʔé lóó-gbáá
38a Sunday	ʔàràbà-dee ló dee-bàrì
38b Monday	sáádee ló dee-bàrì
38c Tuesday	bàà-dee ló dee-bàrì
38d Wednesday	taá-dee ló dee-bàrì
38e Thursday	taá-lè-dee ló dee-bàrì
38f Friday	wòò-dee ló dee-bàrì
38g Saturday	ʔòòrè-dee ló dee-bàrì
39 the third of April	taá-dèè lóó taá-lè ʔé lóó-gbáá
40 last month	ʔé-ʔa-téẽ
41 this month	ʔéẽ-í
42 next month	ʔéẽ-lí ~ ʔéẽ-ní
43 last year	gbáa-á
44 this year	gbáa-í
45 next year	gbáa-lí
46 four days ago	taá-lè dee ʔa sii wéẽ
47 four days after	taá-lè dee ʔa zi nsíí nĩ
48 before	béè
49 just after he came	ʔaí dúgè
50 since yesterday	kpáá sɔ́ɔ ʔee-á
51 until tomorrow	dòmá sɔ́ɔ ʔee(-lí)
52 sometimes	sìgà ñ+tɔ́ɔ
53 often	zòò ñ+tɔ́ɔ
54 always	zòò mɛ́(ẽ) ñ+tɔ́ɔ
55 again	ʔoorà
56 nowadays	wéè-í

75. Nature of Things

01a good (book)	ñ+zóó (kpá)
01b book which is good	kpá í ñ+zóó
01c book only for good purpose	kpá ñ+zóó
02 bad (book)	póró (kpá)
03 to become bad	dú póró
04 badness	póró
05 big (dog)	gbèrè (m+gbógó)
06 to become big	dú gbèrè
07 bigness	gbèrè

08 small dog	pirí m+gbógó
09 to become small	dú pirí
10 smallness	pirí
11a long stick	ñ+begi té
11b long stick	té m+begi
12 to become long	dú m+begi
13a length	ñ+begi (nsí)
13b tallness	ñ+begi
14 short stick	m+kpurá té
15 to become short	dú m+kpurá
16 shortness	m+kpurá
17 heavy stone	yěẽ kpò-déẽ
18 to become heavy	dú yěẽ
19 weight, heavyness	yěẽ
20 light (stone)	wàrè (kpò-déẽ)
21 to become light (in weight)	dú wàrè
22 lightness	wàrè
23 hot (milk)	ñ+sá (mĩmá lóó)
24 to become hot	dú ñ+sá
25 cold (milk)	tóó (mĩmá lóó)
26 It is hot	ʔa dú ñ+sá
27 hotness, heat	lugì
28a to become hot (for the weather)	dú lugì
28b to become hot (for the weather)	dú ñ+sá
29 It is cold. (for the weather)	ʔa-dú tóó
30 strong (tribe)	ʔàgè (bɔ́ɔ)
31 to become strong	dú ʔàgè
32 strength	kpógó
33 force	bá kpógó
34 weak (tribe)	ʔóó ʔóó (bɔ́ɔ)
35 to become weak	ʔóó
36 weakness	ʔóó ʔóó
37 strong (rope)	ʔàgè (dí=díí)
38 new knife	ʔaá ñ+zimá
39 used knife	ñámá ñ+zimá
40 high mountain	ñ+begi kpò-ké
41 height	ñ+ga-bòò
42 low (mountain)	ñ+pòì (kpò-ké)
43 sharp knife	ñ+tóó ñ+zimá
44 to become sharp	dú ñ+tóó
45 dull (knife)	kpɔ́ɔ (ñ+zimá)
46 to become dull	dú kpɔ́ɔ

47	fierce (dog)	zǎǎ (̀m+gbógó)
48	to become fierce	dú zǎǎ
49	fierceness	zǎǎ
50a	mild (dog)	gbóógbóó (̀m+gbógó)
50b	to be mild	gbóó
51	thin (person)	gbóróró (nǎǎ)
52	to become thin	dú gbóróró
53	fat (person)	̀m+bi=bóó (nǎǎ)
54	to become fat	dú ̀m+bi=bóó
55	thin (thread)	nǎǎ (dí=díí)
56	thick (thread)	ʔàgɛ (dí=díí)
57	thick (paper)	ʔàgɛ (kpá)
58	thin (paper)	lèlɛ (kpá)
59a	to be flexible	dú lɛ́lɛɛ
59b	(paper is) flexible	(kpá) lɛ́ɛ
60	kind (person)	lé (nǎǎ)
61	generous person	nǎǎ dǎǎ nǎ
62	mean (person)	póró-zóó (nǎǎ)
63	to be mean	dú póró-zóó
64	rich person	nǎǎ mǎǎ
65	to become rich	dú mǎǎ
66	poor person	nǎǎ kpàrà
67	to become poor	dú kpàrà
68	brave person	ʔàgɛ nǎǎ
69	honest person	nǎǎ ka
70	senior person	ka nǎǎ
71	wide space, wide country	gbèrɛ gbàà
72	small space, small country (in area)	pirí gbàà
73	beautiful woman	lé ̀m+baa
74	It is dangerous.	ʔadú nǎ-ʔú
75	important (thing)	gbèrɛ
76	the same (dog)	tǎǎnǎ (̀m+gbógó)
77	another (dog)	nǎǎnǎ (̀m+gbógó)
78	the whole (body)	zòó-mǎǎ (kɛ-kpá)
79	(book) like this	(kpá) ʔabéé nǎǎíí
80	what kind of (book)	mǎǎnǎ bǎǎ (kpá)
81a	which (book)	(kpá) ̀mǎǎnǎ
81b	which (person)	(nǎǎ) mǎǎnǎ

76. Beginning & Ending

01	to begin, to start	darà bóó ló
----	--------------------	-------------

02	to begin (work)	darà bóó ló (ńtí=tǎǎ)
03	to come to an end, to finish	saá (kɛ)kǎmǎ
04	to finish	tá(y)è
05	beginning	darà bóó
06	end	(kɛ-)kǎmǎ
07	to continue	simǎ n+sí
08	to continue (work)	simǎ n+sí (ńtí=tǎǎ)
09	to repeat	tǎǎ bòó
10	to happen (for an accident)	nǎǎnǎ

77. Other Verbs

01	to do	nǎǎ
02	to have an ability, to be able to do	lǎǎ
03	to have	ʔégé
04	to exist	zi
05	to become, to be	dú
06a	to lack, not to have, to lose	gbǎǎ
06b	to lack, not to have, to lose	gbǎ
07	to need, to want	gbǎǎ
08	to be enough, to be sufficient	gbǎǎmǎ
09	to try, to test	do

78. Derivative Verbs

01	to make sb drink	nǎǎmǎ bá-kpógó kóó waá mǎǎíí
02	to let sb drink	kó nǎǎ ʔá waá mǎǎíí

79. General (Things)

01	thing	nǎ
02	affair (lit. existing-environment)	zi-tǎǎ
03	kind, sort	kpǎǎ
04	place	ʔǎǎ

80. Pronouns, etc.

01	me	mǎǎnǎ
02	you (sg.)	ʔolo
03	him, her	ʔelɛ
04	us	ʔele
05	you (pl.)	bà-ʔolo

06	them	beré-ba
07	himself	[?] ɛle
08	anybody	kòlɔ́ɔ nẽẽ
09	this	nĩĩĩ
10	that (near you)	nyãã
11	that over there	nĩĩĩ
12	here	[?] è-i
13	there (near you)	[?] è-a
14	over there	[?] è-li
15a	everywhere	zòo-mẽẽ- [?] ɔ̃ɔ̃
15b	everywhere	zòo- [?] ɔ̃ɔ̃
15c	everywhere	mẽẽ- [?] ɔ̃ɔ̃

81. Interrogatives

01	who?	mẽẽ
02	what?	[?] é ~ [?] ée
03	which?	ĩmmãĩ
04	where?	[?] ãã
05	when?	mẽ-ńtɔ̃ɔ̃
06	why?	[?] é
07	how?	béò

82. Adverbs & Conjunctions

01a	especially	[?] úà bá
01b	especially	[?] úà
02a	truly (main truth)	kàà kúí
02b	truly (true speech)	kúí biɛ
03	surely	[?] úù-á
04	probably (perhaps)	bèàseɛɛ
05	very much	[?] úù-á
06	a little bit	ń+kãĩĩ
07	then, after that	dáá nãĩ
08	therefore	lòó-bée-á
09	namely	nãĩ-kò
10	for example	nũ dòmã-bá
11	besides (meat)	lòɔ ló (ńdé)
12	instead of (meat)	taàwó (ńdé)
13	without (meat)	bè (ńdé) áńzɛ
14	(meat) etc.	(ńdé) nẽ
15	only (meat)	kóró (ńdé)

83. Greetings

01	yes	[?] àà-í
02	no	[?] íyoo
03	hello!	[?] àzì béò
04	good bye.	nãĩ wó
05	good morning!	dee [?] azirà
06	good evening!	dee [?] abírá
07	good night!	dee [?] ázìrà
08	please	sóosóo
09	Pardon me.	[?] àare mĩ dẽẽ

東京外国語大学 語学研究所 刊行物

語学研究所所報	第 1 号	1960 (昭和35) 年 3 月
〃	第 2 号	1961 (昭和36) 年 3 月
〃	第 3 号	1962 (昭和37) 年 3 月
〃	第 4 号	1963 (昭和38) 年 3 月
〃	第 5 号	1964 (昭和39) 年 3 月
〃	第 6 号	1965 (昭和40) 年 3 月
〃	第 7 号	1966 (昭和41) 年 3 月
〃	第 8 号	1970 (昭和45) 年 3 月
語研資料 1	Anfitrite fermosa neste caso nao quis que falecesse (Os Iussiadass, VI. 22)	池 上 岑 夫 1974
語研資料 2	翻訳理論と一般言語学	磯 谷 孝 1975
文部省科学研究費による外国語教科書研究編纂についての報告		1970 (昭和45) 年 3 月
やさしいベンガル語 (その 1)	山田和子編著	1971 (昭和46) 年 3 月
動詞の特別中心初等スペイン語	原 誠	1971 (昭和46) 年 3 月
スウェーデン語・デンマーク語・アイスランド語・ノルウェー語		
基礎モンゴル語教本		
基礎英語学		
語研資料 3	関東・東北方言の地理的・年齢的分析 (S F グロットグラム)	1985 (昭和60) 年 3 月
語研資料 4	「アディゲ語の音声と音韻」	1986 (昭和61) 年 3 月
語研資料 5	ドイツ語の「状態受動」	1986 (昭和61) 年 3 月
語研資料 6	ドイツ語の意味論的分析資料	1987 (昭和62) 年 3 月
語研資料 7	現 実 分 析	1987 (昭和62) 年 3 月
語研資料 8	スペイン語の語彙の頻度と広がり	1988 (昭和63) 年 3 月
語研資料 9	ヒンディー語略語集	1989 (平成元) 年 3 月
語研資料10	ドイツ語の統語論的意味論的研究資料	1990 (平成 2) 年 3 月
語研資料11	連続講演会 1990年	1991 (平成 3) 年 3 月
語研資料12	受 動 態	1991 (平成 3) 年 3 月
語研資料13	東海道沿線方言の地域差・年齢差	1991 (平成 3) 年 3 月

語研資料 14

言語研究 II

1992 (平成 4) 年 3 月

編 者 渡瀬 嘉朗, 在間 進, 敦賀陽一郎
発行所 東京外国語大学 語学研究所
〒 114 東京都北区西ヶ原 4 - 51 - 21
電 話 03-3917-6111 内 340